

# 初等中等教育におけるシステム間連携の ための相互運用標準モデル

2026年3月27日

Ver. 6.00

一般社団法人 ICT CONNECT 21

\*本ドキュメントは、令和7年度文部科学省「教育DXを支える基盤的ツールの整備・活用事業」の一環として、受託事業者である一般社団法人ICT CONNECT 21がまとめたものである。

# 目次

改訂履歴 .....	7
はじめに .....	9
1. ドキュメントの目的 .....	10
2. ドキュメントの構成 .....	12
3. 仕様の要求水準について.....	15
4. 用語 .....	15
I. 初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデルについて.....	19
1. 概要 .....	20
1.1 本モデルの位置づけ.....	20
1.2 本モデルにおける基本的考え方 .....	22
1.2.1 データ連携規格等の標準化 .....	22
1.2.2 学習 e ポータルおよび学習ツール選択自由度の確保.....	22
1.2.3 利用者識別子の統一 .....	22
1.2.4 教育データの適切な取り扱い.....	23
1.2.5 いつでも・どこでも安心・安全に学べる環境の確保.....	23
1.2.6 協調領域と競争領域の適切な設定 .....	23
1.2.7 持続可能なエコシステムの確立.....	24
2. 学習 e ポータルとは .....	26
2.1 学習 e ポータルのコンセプト .....	26
2.2 学習 e ポータルの利用者.....	27
2.3 学習 e ポータルのユースケース .....	28
2.3.1 児童生徒（授業での学習に関するユースケース） .....	28
2.3.2 児童生徒（在宅等、学校外での学習に関するユースケース） .....	30
2.3.3 教職員（児童生徒の指導に関するユースケース） .....	32
2.3.4 教職員（教員事務に関するユースケース） .....	34
2.3.5 学校（管理職等） .....	36
2.3.6 学校設置者.....	37
2.3.7 保護者 .....	39
II. 技術仕様 .....	40

1. 学習 e ポータル.....	41
1.1 学習 e ポータルの機能要件.....	41
1.1.1 基盤機能（詳細）.....	42
1.1.2 学習者側機能（詳細）.....	43
1.1.3 教職員側機能（詳細）.....	44
1.2 アカウント管理／ユーザー認証における技術仕様.....	46
1.2.1 アカウント管理／ユーザー認証.....	46
1.3 MEXCBT との連携における技術仕様.....	47
1.3.1 LTI による MEXCBT の呼び出し.....	47
1.3.2 xAPI フォーマットで記録された MEXCBT スタディ・ログの受け取り.....	56
1.4 各種学習ツールとの連携における技術仕様.....	78
1.4.1 LTI による学習ツールの呼び出し.....	78
1.5 校務支援システムとの連携における技術仕様.....	80
1.6 LRS との連携における技術仕様.....	80
2. 学習ツール.....	81
2.1 学習ツールの機能要件.....	81
2.1.1 基盤機能（詳細）.....	81
2.2 学習 e ポータルとの連携における技術仕様.....	82
2.2.1 LTI による学習ツールの呼び出し.....	82
2.3 LRS との連携における技術仕様.....	84
2.3.1 xAPI フォーマットでのスタディ・ログの提供.....	84
3. 校務支援システム.....	87
3.1 校務支援システムの機能要件.....	87
3.1.1 基盤機能（詳細）.....	87
3.2 学習 e ポータルとの連携における技術仕様.....	87
3.2.1 全般.....	87
3.2.2 OneRoster Japan Profile.....	88
3.2.3 名簿情報の連携.....	88
4. LRS.....	99
4.1 LRS の技術仕様.....	99
4.1.1 全般.....	99
4.1.2 認証・認可.....	102

4.1.3	ステートメントの共有 .....	103
4.1.4	xAPI ステートメント以外の取り扱い.....	104
5.	将来像と課題.....	105
5.1	利用者識別子としての UUID の取扱い.....	105
5.2	学習 e ポータルと学習ツールの連携の強化.....	105
5.2.1	LTI による認証とアカウント管理の不要化.....	106
5.2.2	LTI Core を利用したユーザー属性情報の連携 .....	107
5.2.3	学習ツールがユーザー属性情報を事前に必要とする場合への対応.....	107
5.2.4	LTI Core の事前設定の簡易化 .....	108
5.2.5	単元ごとの細分化による利便性の向上 .....	108
5.2.6	LTI Deep Linking 2.0 によるツールとのきめ細かな連携.....	109
5.2.7	相互運用性の確立のためのメタデータの標準化.....	109
5.2.8	学習内容に関するより詳細な共通単位の活用.....	109
5.2.9	スケジュール管理やタスク管理機能 .....	109
5.2.10	MEXCBT との安定した連携.....	110
5.3	校務支援システムと学習 e ポータルの連携の強化 .....	110
5.4	スタディ・ログの利活用 .....	111
5.4.1	連携されたスタディ・ログのダッシュボードによる見える化.....	111
5.4.2	連携されたスタディ・ログの分析とリコmend.....	112
5.4.3	スタディ・ログの進学や転校時の扱い .....	112
5.4.4	スタディ・ログの学習者へ返還.....	112
5.4.5	スタディ・ログの校務支援システムとの共有.....	112
5.4.6	教育ビッグデータ .....	113
5.4.7	複数の学習ツールを横断したデータ分析 .....	113
5.5	データに対するアクセス権の整理と技術仕様 .....	113
5.6	接続テスト環境の提供による事業者の実装のサポートと技術仕様の精緻化.....	114
5.7	生成 AI の活用.....	115
5.8	有料ツールの利活用.....	115
5.8.1	課金とアクセス管理の連動 .....	115
5.9	文字セットや文字コードの標準化による利便性の向上.....	116
5.10	技術面以外の倫理的、法的、社会的課題（ELSI）への対応.....	116
Ⅲ.	運用に関する指針 .....	117

1. 運用に関する指針 .....	118
1.1 学習 e ポータルと学習ツール等の接続.....	119
1.2 データの取扱い（学習 e ポータルを変更する場合の扱いを含む） .....	120
1.3 取引(学習 e ポータルのオープンなアクセス環境の確保) .....	122
2. 運用指針に関連して引き続き検討が必要な事項 .....	125
2.1 運用指針の実効性について .....	125
2.1.1 運用指針の実効性と適合性評価.....	125
2.2 関連して検討すべき事項 .....	125
2.2.1 学習 e ポータルの変更の際のデータの特定および標準化.....	125
2.2.2 LRS に記録されるデータ .....	126
付録 .....	127
資料 1 : Contributor 一覧 .....	127
資料 2 : UUID の生成 .....	133
資料 3 : 各種コード体系.....	138
資料 4 : ロール一覧 .....	140
資料 5 : MEXCBT テスト受検 LTI Resource Link Request サンプル.....	143
資料 6 : MEXCBT テスト結果レビュー-LTI Resource Link Request サンプル.....	144
資料 7 : MEXCBT 内のテスト検索を開始 Deep Linking Request サンプル .....	146
資料 8 : MEXCBT が提供する xAPI ステートメントのサンプル.....	147
資料 9 : MEXCBT 問題メタ情報 API データサンプル.....	156
別添 .....	161

# 改訂履歴

日付	バージョン	項目	概要
2025/2/27	5.00β	全体	ドキュメントタイトルの変更
2025/2/27	5.00β	全体	タイトル変更に伴う構成変更および文言調整
2025/2/27	5.00β	II-1.1.1.3 各種学習ツールとの連携	LTI連携におけるユーザー属性情報の提供に関する要件を追加
2025/2/27	5.00β	II-1.3.2.2 MEXCBTからスタディ・ログを受け取る	iii) MEXCBT問題メタデータ取得のためのAPI仕様 API仕様のエラーレスポンスに「406: Not Acceptable」を追加 データ項目の「予備メタ2」を定義
2025/2/27	5.00β	II-2.3.1.3 context	参照プロファイル情報におけるdefinition.typeの値を変更
2025/2/27	5.00β	II-5. 将来像と課題	周辺技術の発展や各種実証事業等の結果を踏まえ更新
2025/2/27	5.00β	III-1. 運用に関する指針	文部科学省および初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデルに関する専門家会議等での検討状況を踏まえ更新
2025/2/27	5.00β	III-2. 将来像と課題	新規追加
2025/2/27	5.00β	別添	新規追加
2025/3/18	5.00	II-1.1 学習eポータル機能要件	学習者側機能「学習ツールの利用」の要否を「MUST」に変更、要求水準変更に伴う機能詳細の変更
2025/3/18	5.00	II-5. 将来像と課題	初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデルに関する専門家会議での意見を踏まえ更新
2025/3/18	5.00	II-2.2.1.1 LTI v1.3 Core	II-1.1.1.3 各種学習ツールとの連携 の更新に対応する文言を追記
2025/3/18	5.00	その他	細部の文言を修正
2026/2/27	6.00β	はじめに	ドキュメントの目的および構成等を集約
2026/2/27	6.00β	I-1.2.3 利用者識別子の統一	新規追加

2026/2/27	6.00β	I -1.2.6 協調領域と競争領域の適切な設定	新規追加
2026/2/27	6.00β	I -2. 学習eポータルとは	学習eポータルのコンセプトや利用者など、学習eポータルの定義に関する事項を集約
2026/2/27	6.00β	II. 技術仕様	利用者特定を目的として用いられるUUIDを「利用者識別子 (UUID) 」と表すように変更
2026/2/27	6.00β	II -1.3.2.2 iii) MEXCBT問題メタデータ取得のためのAPI仕様	i_translation_cdのデータ型および桁数を変更
2026/2/27	6.00β	II -3.2.3.3.1 manifest.csv	属性名「oneroster.version」の規定の内容を変更
2026/2/27	6.00β	II -3.2.3.3.2 academicSessions.csv	項目「parentSourcedId」に対する規定を削除
2026/2/27	6.00β	II -5. 将来像と課題	周辺技術の発展や各種実証事業等の結果を踏まえ更新
2026/2/27	6.00β	I -1.1 本モデルの位置づけ	OneRoster Japan Profileの準拠バージョンを更新
2026/2/27	6.00β	I -1.2.4 教育データの適切な取り扱い	根拠法を明示する文言を追加
2026/2/27	6.00β	資料3：各種コード体系	参照先を「文部科学省教育データ標準5.0（主体情報）」に更新
2026/3/27	6.00	II -5. 将来像と課題	初等中等教育における教育データの利活用を支えるシステム間連携の在り方に関する専門家会議での意見を踏まえ更新
2026/3/27	6.00	その他	細部の文言を修正

はじめに

# 1. ドキュメントの目的

GIGA スクール構想により一人一台端末が実現した現在、今後は、様々な学習ツールを活用しつつ、そこから得られたデータを効果的に活用して子供たちの豊かな学びの実現を目指す新たな段階のデジタル学習環境へと進んでいく。

この新たなデジタル学習環境では、以下の3つのことが重要となる。

- ・ 多様な学習ツールがデータ連携を通じて負担なく便利に活用できる
- ・ 学習の記録をデジタル化し、学びの状況をわかりやすく可視化することで、学びの振り返りや、よりきめ細やかな指導を行うなど、学びの改善・充実につながる
- ・ 進学や転校があったり、自治体や学校でシステムに変更があったりしても、これまでの学びに関する情報や知見を引き続き活かして切れ目のない学びを実現できる

学習ツールの活用やデータ連携・活用のあり方は、本来様々なやり方が考えられるところである。一方、上記のような点を実現していくためには関係者が守るべき共通の規格やルールが必要になる。それは主に以下のようなものが考えられる。

## i. ハブとなる機能

様々な学習ツールとつながる窓口としての役割を持つハブ機能があることで、学習者が負担なく便利に学習ツールにアクセスすることができる。また、学習ツールをはじめとする様々なリソースから得られたデータを記録・管理するハブ機能があることで、複数のリソースから得られたデータをまとめて記録、活用できるようになる。

## ii. ハブ機能と学習ツールの接続規格の標準化接続

規格をひとつに決めることで全国どこでも同じ規格でつながる世界が実現する。

## iii. スタディ・ログの標準化

スタディ・ログを標準化することで、異なる学習ツールのスタディ・ログを掛け合わせて分析することが容易になる。また、全国どこでも自分の学びの記録を活用できるようになる。

初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデル（以下、本モデル）は、上記のアクセスのハブとなる機能を持つコンポーネントを学習 e ポータルと定め、その規格や学習ツールとの接続規格、共通で記録すべきスタディ・ログの標準規格など、学習 e ポータルをハブとしたデジタル学習環境で共通で守るべき規格やルールを定めることを目的とする。

加えて、共通の規格やルールを定めることにより、事業者の開発コストを抑えたり、様々な者が同時に同じようなシステムや規格を構築してしまういわゆる「車輪の再発明」を防いだり、データの囲い込みを防いだり、サービス受益者がシステム購入等の選択肢を狭めないことなどにもつなげる。

## 2. ドキュメントの構成

本モデルは以下の3部で構成する。

### I. 初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデルについて

本モデルで規定するシステム間連携の全体像、学習eポータルおよび学習eポータルをハブとしたデジタル学習環境における基本的な考え方を示す。

### II. 技術仕様

学習eポータル、学習ツール、校務支援システムおよびLRSそれぞれが本モデルに準拠するにあたって満たすべき機能要件と、各システム間連携におけるインターフェース仕様を規定する。

#### 1. 学習eポータル

##### 1.1 学習eポータルの機能要件

学習eポータルが本モデルに準拠するにあたって満たすべき機能要件を示す。

##### 1.2 アカウント管理／ユーザー認証における技術仕様

学習eポータルが出力する名簿情報CSVファイルのデータ形式およびフォーマットを規定する。

##### 1.3 MEXCBT との連携における技術仕様

学習eポータルがMEXCBTとLTI連携する際の技術仕様を規定する。

##### 1.4 各種学習ツールとの連携における技術仕様

学習eポータルが各種学習ツールとLTI連携する際の技術仕様を規定する。

##### 1.5 校務支援システムとの連携における技術仕様

学習eポータルが校務支援システムとOneRoster連携する際の技術仕様を規定する。

##### 1.6 LRSとの連携における技術仕様

学習eポータルがLRSからスタディ・ログを呼び出す、MEXCBTから受け取ったスタディ・ログをLRSに提供する際の技術仕様を規定する。

#### 2. 学習ツール

##### 2.1 学習ツールの機能要件

学習ツールが本モデルに準拠するにあたって満たすべき機能要件を示す。

##### 2.2 学習eポータルとの連携における技術仕様

学習ツールが学習eポータルとLTI連携する際の技術仕様を規定する。

### 2.3 LRSとの連携における技術仕様

学習ツールがスタディ・ログをLRSに提供する際の技術仕様を規定する。

## 3. 校務支援システム

### 3.1 校務支援システムの機能要件

校務支援システムが本モデルに準拠するにあたって満たすべき機能要件を示す。

### 3.2 学習eポータルとの連携における技術仕様

校務支援システムが学習eポータルとOneRoster連携する際の技術仕様を規定する。

## 4. LRS

### 4.1 LRSの技術仕様

ADLが定めるLRSの国際規格のうち、本モデルに準拠するにあたって満たすべき仕様、および追加仕様を規定する。

## Ⅲ. 運用に関する指針

学習eポータルをハブとして活用する場合において、学習eポータルや、学習ツール、校務支援システムおよびLRSが安全・安心かつ円滑に運用されるよう関係者に求められる行動に関する指針を規定する。

本モデルの検討は、学習 e ポータルや学習ツール、校務支援システム、LRS を開発・サービス提供している事業者の意見や専門家等の意見を踏まえながら進められた。関係した組織・団体とそれぞれの主な活動内容は以下の通りである。

表 1-1 関係する組織・団体と主な活動内容

組織・団体	主な活動内容
初等中等教育における教育データの利活用を支えるシステム間連携の在り方に関する専門家会議	学習 e ポータル提供事業者や学習ツール提供事業者、教育委員会などの中から、特に見識の深い専門家を集めた会議。 2025 年度 検討内容： <a href="https://ictconnect21.jp/document/eportal/#meeting">https://ictconnect21.jp/document/eportal/#meeting</a>
一般社団法人 ICT CONNECT 21 学習 e ポータルサブワーキンググループ	学習 e ポータル提供事業者や学習ツール提供事業者、LRS 提供事業者、教職員や教育委員会関係者、研究者などさまざまな関係者が集まって、学習 e ポータルおよびその周辺システムにおける相互運用性を確保するための技術仕様やエコシステム、ユースケースなどを議論しているグループ。
一般社団法人 ICT CONNECT 21 校務系-学習系情報連携サブワーキンググループ	統合型校務支援システム提供事業者と、学習側の学習 e ポータルや学習ツールの提供事業者などが集まって、校務系と学習系間のデータ連携の技術仕様などを検討しているグループ。

これらの関係組織・団体による検討をはじめ、多くの方の尽力により本モデルは作成された。本モデルの作成に貢献したメンバーを「[資料 1 : Contributor 一覧](#)」にて紹介する。

## 3. 仕様の要求水準について

本モデルにおけるキーワード「MUST」「MUST NOT」「RECOMMENDED」「MAY」「REQUIRED」および「OPTIONAL」は、RFC2119（※1）で説明されているように解釈する。

※1 RFC2119 <https://www.rfc-editor.org/rfc/rfc2119>

## 4. 用語

### CBT

Computer Based Testing の略。

### IdP

Identity Provider（アイデンティティ プロバイダー）の略。フェデレーテッドアイデンティティ/シングルサインオンの構成において、ID を必要とするシステムに対し認証サービスを提供するシステムコンポーネントを指す。

### JSON

JavaScript 言語のオブジェクトを由来とするデータ交換用の記述形式。

JavaScript Object Notation の略。

### LRS

Learning Record Store の略。xAPI フォーマットで記述されたスタディ・ログの保管場所。Caliper Analytics では Event Store とされる。

### LRP

Learning Record Provider の略。xAPI において、学習者の行動に基づいて生成される学習データ（xAPI ステートメント）を提供するシステムを指す。

### LTI (Learning Tools Interoperability)

1EdTech™ Consortium（旧：IMS Global Learning Consortium）により定められた、LMS 等のプラットフォームと学習アプリケーションおよびツール間の接続に関する標準規

格。本ドキュメントで採用する LTI v1.3 はコア機能とオプションを追加するいくつかの拡張機能で構成されており、現在のバージョンでは次の 4 つが主たる仕様群として定義されている。

- LTI v1.3 Core
- Assignment and Grade Services v2.0 (AGS)
- Names and Role Provisioning Services v2.0 (NRPS)
- Deep Linking v2.0 (DL)

## **MEXCBT**

小・中・高等学校等の子供の学びの保障の観点から、児童生徒が学校や家庭において、学習やアセスメントができる CBT (Computer Based Testing) システムとして文部科学省が開発。活用分野としては、①普通の授業や家庭学習等での活用 ②全国学力・学習状況調査での活用 (全国学力・学習状況調査令和 5 年度英語「話すこと」調査、令和 6 年度生徒質問調査、令和 7 年度理科及び生徒質問調査は MEXCBT を活用) ③地方自治体が実施する学力調査での活用、などがある。

## **OneRoster**

1EdTech™ Consortium (旧 : IMS Global Learning Consortium) により定められた、主に初等中等教育における、クラス名簿や、成績、教材の相互運用を可能にするための標準規格。SIS (School Information System : 校務・教務システム) と LMS とのデータ交換に用いられる。最新バージョンである 1.2 では、3 つのコアサービスから構成される。

- OneRoster Rostering Service
- OneRoster Gradebook Service
- OneRoster Resource Service

## **UUID**

一意性を保証するために登録機関を必要としない 128 ビットの識別子。ただし、衝突確率は非常に低いと考えられているが、絶対的な一意性は保証されていない。LTI では、ランダムまたは疑似ランダムに生成されたバージョン 4 UUID の使用が推奨されている。

## **xAPI**

学習行動の記録に関する国際標準規格であり、米国国防総省の内部組織 ADL が公開している。MEXCBT はこの規格に則ってスタディ・ログを記録している。最新バージョンは 2.0（2023 年 3 月）。あらゆる教育サブシステム間における連携を目的としたインターフェースの規格であり、学習分析に関するフレームワークであるだけでなく、学習のための定量的指標や、リアルタイムでのデータメッセージングについても包括する。イベントと呼ぶ JSON 形式でアクションを表現し、

- ・ Actor: 活動主体（誰が）
- ・ Object: 活動対象（何を）
- ・ Verb: 活動自体（どうした）
- ・ Context: 活動の文脈
- ・ Result: 活動の結果
- ・ Timestamp: 活動の日時

等の要素にて履歴を記述する。xAPI プロファイルにより、ステートメントのテンプレートや使用パターン、Verb および、アクティビティタイプ等への規定から一貫した構文とセマンティックを確実にし、他データとの相互運用性をサポートする。

## 学習ツール

デジタル教科書や教材、ドリル、ビデオ教材、実験ツール、プログラミング環境など、学習に使われるデジタルなリソースすべてを指す。MEXCBT もこの一つに含まれる。通常は URL で位置を指定するため、オンラインの Web アプリケーションとなる。

## 校務支援システム

統合型校務支援システムを指す。教務系（成績処理、出欠管理、時数管理等）・保健系（健康診断票、保健室来室管理等）、学籍系（指導要録等）、学校事務系など統合した機能を有しているシステム。成績処理等だけでなく、グループウェアの活用による情報共有も含め、広く「校務」と呼ばれる業務全般を実施するために必要となる機能を有する。

## シングルサインオン (SSO)

複数のサービスを一度の認証処理で利用できる仕組みをいう。

## スタディ・ログ

学習行動の履歴 (ログ)。ドリルやテストの結果、学習時の書き込み情報、他者への評価やアンケート結果等のデジタルデータを指す。本ドキュメントでは xAPI フォーマットで記述されたものを指す。

# **I . 初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデルについて**

# 1. 概要

本モデルにおける各システム間の連携概要を下図に示す。

校務支援システムから学習 e ポータルへの名簿情報の受け渡しには、OneRoster version 1.2 を国際標準規格として採用し、さらに日本 1EdTech 協会 OneRoster Japan Profile と本モデルによる追加の規定を行うことで連携ルールを定める。

学習 e ポータルによる学習ツールの呼び出しには、国際標準規格である Learning Tools Interoperability version 1.3（以下、LTI v1.3）をベースに、本モデルによる追加の規定を行うことで連携ルールを定める。

学習 e ポータルと学習ツール、Learning Record Store（以下、LRS）間でのスタディ・ログの受け渡しには、国際標準規格である Experience API（以下、xAPI）をベースに、本モデルによる追加の規定を行うことで連携ルールを定める。

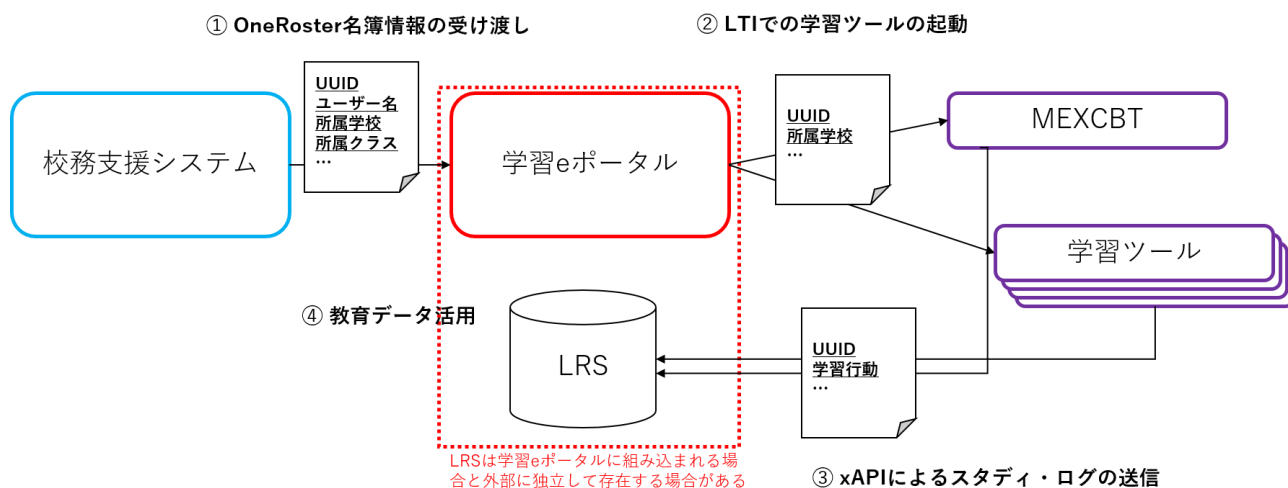


図 1-1 各システムの連携概要

## 1.1 本モデルの位置づけ

本モデルと国際標準規格、および国際標準規格に対して定められた日本固有の規定との位置づけについて、下図に示す。

本モデルは、1EdTech™ Consortium の定める LTI v1.3 および OneRoster version 1.2、The Advanced Distributed Learning（以下、ADL）の定める xAPI、OneRoster に対して日本固有の規定として定められている OneRoster Japan Profile をベースに、これらを初等中等教育段階のデジタル学習環境の中で適用するために必要な追加の連携ルールを定めるものである。

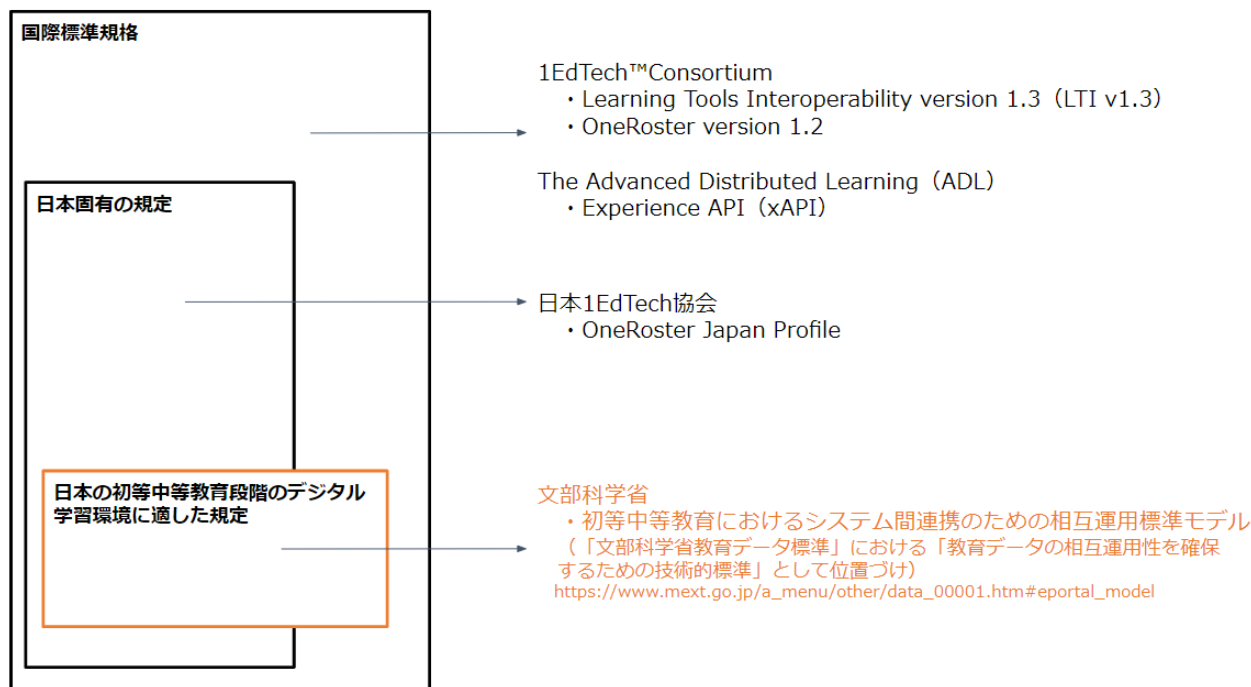


図 1-2 本モデルの位置づけ

本モデルの準じる国際標準規格の詳細なバージョンは以下の通り。

- Learning Tools Interoperability version 1.3
- Experience API version 1.0.3
- OneRoster version 1.2
- OneRoster: CSV Binding version 1.2.1
- OneRoster 1.2 CSVBinding: Japan K-12/SchoolsProfile version 1.0

なお、これらの国際標準規格に改訂が行われた場合、本モデルが改訂され、当該規格に係る規定の改訂が行われてから効力を発する。

## 1.2 本モデルにおける基本的考え方

ここでは、学習 e ポータルをハブとした、標準化されたデジタル学習環境形成のための技術仕様や運用の指針・ルール等を策定するにあたり、各関係者の共通の認識としてよりどころとなる基本的考え方を述べる。この基本的考え方に沿って策定された製品に関する要件・仕様は「[Ⅱ. 技術仕様](#)」で、運用に関する指針・要件は「[Ⅲ. 運用に関する指針](#)」で記述する。

### 1.2.1 データ連携規格等の標準化

- ・複数の学習ツールで記録されたスタディ・ログを、学習ツールを横断して可視化・分析するためには、それが共通の仕様に従って生成される必要がある。
- ・相互運用性を確保するための技術仕様はさまざまであるが、多数のシステムやアプリケーション間での連携が想定されるこの環境では、環境全体のコスト低減のために、標準化されたインターフェース仕様が必要である。

### 1.2.2 学習 e ポータルおよび学習ツール選択自由度の確保

- ・学校現場のニーズを踏まえたデジタル学習環境を実現するため、学校設置者や学校、教職員、児童生徒が、学習 e ポータルや学習ツールなど、さまざまなシステムやアプリケーションを可能な限り自由に選択し、組み合わせて利用できるようにするべきである。
- ・児童生徒に学習環境の変化があったとしても、これまでの学びの記録を適切に活用しながら切れ目のない学びを実現できることが重要であり、児童生徒が進学や転校する時でも、学習行動の記録（xAPI）が可能な限り少ない手間で引き継がれるべきである。

### 1.2.3 利用者識別子の統一

- ・さまざまなシステムやアプリケーションにおいて生成されたスタディ・ログを横断的に可視化・分析するためには、スタディ・ログが共通の仕様に従って生成されることに加えて、それぞれのシステムが共通の利用者識別子を持ちそれがスタディ・ログの利用者識別子として用いられることが必要である。これによりどのシステムで生成されたスタディ・ログであっても、単一の利用者識別子によってそのスタディ・ログがどの児童生徒や教職員が行ったものであ

たかを特定することができ、自由なシステムやアプリケーションの選択によって生じうる煩雑なアカウント管理や ID 管理の必要なく円滑なスタディ・ログの横断的な活用を行うことができる。

- ・児童生徒が進学や転校する時でも、スタディ・ログと合わせてこの利用者識別子についても同様に引き継がれるべきである。

#### 1.2.4 教育データの適切な取り扱い

- ・学習 e ポータルでデータを取り扱う際には、各主体の役割を明確にする必要がある。この点を学校教育や個人情報に関する法令に照らせば、学校設置者は、学校で保有するデータを保護・管理する者であり、関係事業者は、原則として学校設置者の監督の下、委託等に基づきデータを取り扱う者と整理され、これに従って適切にデータを管理・活用すべきである。その際、個人情報の取り扱いについては、関係法令を踏まえて適切に対応すべきである。
- ・学習ツールを利用した際に得られる学習行動の記録については、分析・可視化するなどして学習者に知見を還元していく観点から一定の範囲については標準化した形で学校設置者や学校、児童生徒が活用できるようにするべきである。
- ・上記に関しては「個人情報保護法」66 条 1 や「個人情報の保護に関する法律についての Q & A（行政機関等編）」に明記されており、議論に際してはこれらの根拠法などを参照・遵守すべきである。

#### 1.2.5 いつでも・どこでも安心・安全に学べる環境の確保

- ・児童生徒を含む全ての利用者が安心・安全に学習 e ポータルを利用できるよう、セキュリティの扱いについて「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」等を踏まえつつ、学校設置者と関係事業者は必要な措置を講じなければならない。

#### 1.2.6 協調領域と競争領域の適切な設定

- ・本モデルで規定されるような共通で守る規格やルールを定めるべき領域を協調領域、各学習 e ポータル事業者や学習ツール事業者、LRS 提供事業者、校務支援システム提供事業者の創意工夫により独自に機能を開発する領域を競争領域と呼ぶ。学習 e ポータルをハブとしたデジタル

学習環境においては、この協調領域と競争領域が適切に設定されることが重要であり、様々なステークホルダーで協調領域を作っていくべきである。また、協調領域は国際標準規格に則ったオープンな規格を基本とする。

- ・協調領域を定めることで、学習 e ポータルをハブに多様な学習ツールが標準化されたインターフェースで簡便かつ効果的につながり、競争領域においてそれぞれの学習ツールが強みや特徴を生かしながら一体的に活用されることによって、学校現場のニーズに沿ったデジタル学習環境が構築され、安全でかつ学びやすい指導・学習の実現を目指す。本モデルに基づき、より多くの学習ツールがつながり、より多くのデータが活用されることによって、指導・学習をより豊かにしていくとともに、関係者間での win-win の関係の実現につなげていくべきである。このとき、以下の点に留意する。
  - ・学校現場の多様なニーズに対応できるよう、学校設置者・学習者が希望する教育資源にアクセスできることを可能な限り実現すべきである
  - ・システムやアプリケーションの種類を越えてデータの利活用を行うためには、データの標準化を進めるとともに、システムやアプリケーション間の相互運用性を確立する必要がある
  - ・デジタル化を通じて教職員のトータルな負担軽減につなげていくべきである

### 1.2.7 持続可能なエコシステムの確立

- ・学習 e ポータルをハブにデジタル教科書・教材や校務支援システム、学習ツールや分析・可視化システムなどより多くの教育資源が有機的につながり、それぞれの価値や強みを発揮するとともに、より多くのデータが活用されればされるほど生み出す価値も大きくなる。学習 e ポータルをハブとしたデジタル学習環境が新たな価値を提供していくためには、学習 e ポータル事業者のみならずデジタル教科書・教材関係者、学校教育関係者など多くの関係者が本取組に参画・協力していくことが重要である。またその際、学習 e ポータルのみでなく、学習 e ポータルも含めたこれからのデジタル学習環境全体のあり方やこれからのデジタル学習環境における標準的な機能・装備はどういったものかという視点での検討も重要である。加えて、学習 e ポータルをハブとしたデジタル学習環境は、望ましいあり方を実現するため、その協調領域において参画する事業者が規格やルールを遵守する必要がある、その意味で公共的な要素が強いと言える。具体的な運用ルールについては、そのような観点も踏まえて検討することが重要である。
- ・新たなデジタル学習環境の実現に向けては、上述のような基本的考え方のもと、具体的なユースケースの構築や、必要な規格・ルールの検討・遵守、学習 e ポータルの維持・運用とその機

能等の開発に伴うコストの負担、各種システム・サービスの積極的な活用とそのフィードバックを通じた改善・充実といった取組が必要となる。学校関係者、学習 e ポータル関係者、デジタル教科書・教材関係者等の関係者、LRS 関係者、校務支援システム関係者がそれぞれの役割を果たしながらこれらの取組を行うことで、新たな価値の創出につながる。それには、これらの関係者が積極的に参加したくなる持続可能なエコシステムの実現が必要である。また、そのことが結果として関係者間での win-win の関係の実現や公正で健全な市場の形成にもつながる。

- ・ 質担保の観点から、本モデルに準拠している学習 e ポータル等が活用されることが必要であるが、その証明は自己申告だけでは難しく、それを確認して明示する仕組みが必要である。この仕組みは、可能な限り低コストで、公平公正な形で運用されなければならない。
- ・ 技術標準やルールに則っていることが明示されている製品やサービスが現場に導入されて普及していくことが重要である。

## 2. 学習 e ポータルとは

### 2.1 学習 e ポータルのコンセプト

「はじめに 1. 本ドキュメントの目的」で示した通り、様々な学習ツールを活用しつつ、そこから得られたデータを効果的に活用して子供たちの豊かな学びの実現するにあたっては、様々な学習ツールの接続の窓口となるハブとなる機能と、ハブ機能と学習ツールの接続規格の標準化された接続が必要である。このようなハブ機能を有することが学習 e ポータルのコンセプトであり、このような考えのもと NGDLE を参考に日本の初等中等教育で活用することを念頭に設計されたものである。

学習 e ポータルの持つ具体的な機能については「[II. 技術仕様 1.1 学習 e ポータルの機能要件](#)」にて記載する。

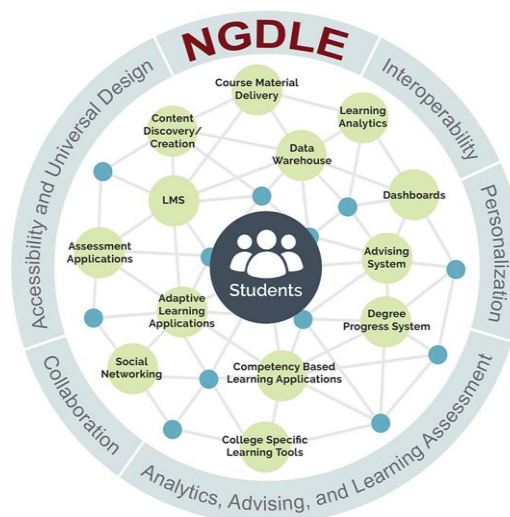
#### NGDLE とは

アメリカの高等教育における ICT 利活用の推進団体である EDUCAUSE が 2015 年に発表した、次世代デジタル学習環境におけるコンセプト。Next Generation Digital Learning Environment の略である。

#### 5 つのコアコンセプト

1. Interoperability and Integration
2. Personalization
3. Analytics, Advising, and Learning Assessment
4. Collaboration
5. Accessibility and Universal Design

を実現する、学習者を中心に様々なシステムが相互運用可能なデジタル学習環境。



図：NGDLE のコンセプト

<https://er.educause.edu/articles/2017/7/the-ngdle-we-are-the-architects>

Credit: University of Minnesota, Office of Information Technology. Reprinted with permission.

## 2.2 学習 e ポータルの利用者

学習 e ポータルは、児童生徒が活用することはもちろん、教職員をはじめとしたさまざまな属性の利用者を想定する。学習 e ポータルを開発・運用するにあたり、具体的な利用者の属性や利用場面等を整理する必要がある。学習 e ポータルは、児童生徒および教職員が利用できることを必須とする。学習 e ポータルの想定利用者とその代表的な利用場面を下表に示す。

表 2-1 学習 e ポータルの開発・運用における学習 e ポータルの想定利用者・代表的利用場面等

利用者種別	区分	概要	代表的な利用場面
児童生徒	MUST	初等中等教育の学校で学ぶ児童生徒	学校での学習、自宅での学習 自身の学習状況や特性の確認 教職員や他の児童生徒とのコミュニケーション
教職員	MUST	学校において児童生徒を指導・支援する教職員	児童生徒の学校での学習の指導・支援 児童生徒の自宅での学習の指導・支援 児童生徒の学習状況の確認と指導・支援の改善 児童生徒や保護者とのコミュニケーション 学級単位での授業運営に関する事務
学校（管理職等）	RECOMME NDED	校長、教頭、主幹教諭など、学校の運営や、学校全体・学年全体の指導方針を決定し、その実施状況に責任を持つ立場の利用者	情報管理 学校・学年等における指導方針の策定 指導方針に基づく児童生徒の学習状況の確認と改善 教職員の指導状況の確認と改善 学校で用いる教科書・教材等の管理
学校設置者（教育委員会、学校法人、国立大学法人等）	MAY	各自治体の公立学校を統括する教育委員会の利用者等	自治体や法人単位での教育に関する事務 情報管理 学校で用いる教科書・教材等の管理 テストや学力調査等の実施 自治体や法人単位での教育水準の底上げ・均質化 教育施策の立案・改善
保護者	MAY	児童生徒の保護者	児童生徒の学習状況の確認 自宅での学習の指導・支援 学校や教職員とのコミュニケーション

※「区分」について、例えば「児童生徒」の列で「MUST」とあるのは、学校において児童生徒が学習 e ポータルを必ず利用しなければならない、という意味ではなく、学習 e ポータルを開発するにあたり、児童生徒が利用することを

必ず念頭におくべき、ということの意味する。また「学習 e ポータルの利用場面」については、学習 e ポータル単体のみならず、学習 e ポータルと各種学習ツールが接続して利用されている場面も含まれている。

## 2.3 学習 e ポータルのユースケース

学習 e ポータルのユースケースを示す。ここでは学習 e ポータル単体で実現されるものだけでなく、学習 e ポータル経由でさまざまな学習ツールが利用されることや、学習 e ポータルと接続された学習ツールから取得したスタディ・ログ等の情報が活用されることによって実現されるものも含まれる。なお、本ユースケースは 2025 年 3 月時点ですでに実現されているもの以外にも、将来的に実現が期待されるものもあり、将来の改訂により加除修正の可能性はある。本内容については今後更に改善を図っていく。

これらは学習 e ポータルの利用場면을幅広くとらえたものであり、すべてのユースケースを網羅しているわけではない。学習 e ポータルの提供者がユースケースを検討する際に、参考例として活用されることを想定している。また、学習 e ポータルの利用者に対して、その使用方法を限定するものではないことに注意されたい。

### 2.3.1 児童生徒（授業での学習に関するユースケース）

ユースケース	
ユースケース名	概要
<b>学校での学習</b>	
授業時間にテストを受け、その結果を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は授業時間に MEXCBT あるいは他の CBT で実施されるテストを受検する</li> <li>・テスト結果は自動的に採点される</li> <li>・採点完了後、児童生徒が学習 e ポータルでテスト結果にアクセスし、ダッシュボードで点数や各設問の正誤を確認する（教職員はテストで児童生徒の理解度等をダッシュボードで確認し、その内容を個別指導等に活用する）</li> </ul>
学んだ内容を小テストで確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、授業で学んだ内容に関する小テストを受検し、その正誤や解説を確認する（教職員は小テストで児童生徒のレディネスや理解度等をダッシュボードで確認し、その内容を個別指導等に活用する）</li> </ul>

デジタル教科書・教材を利用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、学習 e ポータルからデジタル教科書・教材等にパスワードと ID を入力することなくアクセスし、授業を受ける</li> <li>・学習 e ポータルの時間割からデジタル教科書・教材等を利用する。授業内容と関連したデジタル教材のリストが表示され、選択した教材の演習を行う</li> </ul>
オンラインでグループ学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は学習ツールを利用し、様々なデジタル教材やインターネット上の情報にアクセスし、グループで話し合ったり共同で成果物を作成したりして、グループ学習を行う</li> </ul>
教材を評価する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は単元ごとに、利用したデジタル教材、学習動画等について自らの学習に有用であったかを評価し、その内容を登録する</li> </ul>
読書する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は電子図書館や電子書籍ビューアを利用し、読みたい本を探し、読書する</li> </ul>
転校前・進学前の学びの記録や情報を活用して学習する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は転校・進学をした場合でも、これまでのテスト結果や学習内容および自らの特性を確認し、学習に活用する</li> </ul>
自分の意見を提示し、授業に活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は学習ツールを通して特定のテーマに対する考えや意見を教職員に提示し、学級活動などクラス内での議論や、校外への発表に活用する</li> </ul>
<b>自身の学習状況や特性の確認</b>	
ダッシュボードで、自分の学びの特性を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒はダッシュボードで自分自身の理解度や達成度を確認したり、学習の傾向や取組の状況を把握したりすることで、学びの特性を知り、学習に関する自己調整に生かす</li> </ul>
<b>教職員や他の児童生徒とのコミュニケーション</b>	
アンケートに回答し、結果を受け取る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は学習 e ポータルからアンケートに回答し、集計結果やフィードバックを受け取る</li> </ul>

<p>学びに関するコミュニケーションを図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は、学習している内容について教職員からの助言や称賛等の評価を受けた</li> <li>り、教職員に質問したりすることに加えて、他の児童生徒と情報交換を行う等のコミュニケーションを図る</li> </ul>
---------------------------	--

### 2.3.2 児童生徒（在宅等、学校外での学習に関するユースケース）

ユースケース	
ユースケース名	概要
<b>自宅での学習</b>	
家庭学習の課題を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は学習 e ポータル経由で教職員が指導計画に基づいて課す家庭学習の課題にアクセスし、課題を行う</li> </ul>
自主的に学習する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は学習 e ポータルのダッシュボードから各種デジタル教科書・教材や学習ツールの利用状況や、デジタルドリル等の正答率、CBT のスコア、アンケートの回答等から総合的に判断された、教科、学習分野ごとの強み、弱み、興味関心分野等を確認する</li> <li>・分析結果からリコメンドされた関連するデジタル教科書やデジタル教材等にアクセスし、自主的に学習（予習・復習を含む）を行う</li> <li>・学習 e ポータルの時間割からデジタル教科書・教材等を利用する。授業内容と関連したデジタル教材のリストが表示され、選択した教材の演習を行う</li> </ul>
クラスの授業にオンラインで参加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校・院内学級などで、学校に来ていない児童生徒が、オンラインで授業に参加する</li> <li>・授業がオンラインで視聴できるほか、教職員から個別指導を受けたり、発言したり、テストを解いたりすることも可能</li> </ul>
教材を評価する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒は単元ごとに、利用したデジタル教材、学習動画等について自らの学習に有用であったかを評価し、その内容を登録する</li> </ul>

<p>興味関心のある分野を知り、知識を深めるために自主的に行動する</p>	<p>・児童生徒は各種デジタル教科書・教材や学習ツールでの学習履歴から自分が興味・関心を持っている分野を知り、自主的に調べて知識を深めたり、学校外の活動に参加したりする</p>
<p>興味関心や特性をもとにカスタマイズされた問題や学習方法で学ぶ</p>	<p>・児童生徒は学習 e ポータルに蓄積されたデータから導出された興味・関心のある分野や、特性を活用して個人にカスタマイズされたカスタマイズされた問題や学習方法で学ぶ（サッカーが好きな児童生徒は、算数の例題もサッカー関連のストーリーになる、同じ問題でも文字で出題される場合と、動画や画像と音声で出題される場合があり、理解しやすい方を選択可能）</p>
<p><b>自身の学習状況や特性の確認</b></p>	
<p>記録されたデータをキャリア選択に活用する</p>	<p>・児童生徒は各種デジタル教科書・教材や学習ツールでの学習履歴やキャリア教育に関わる諸活動の記録にアクセスし、自分の強みや得意分野を知り、進学先や就職先などの選択時に活用する</p>
<p><b>教職員や他の児童生徒とのコミュニケーション</b></p>	
<p>学びに関するコミュニケーションを図る</p>	<p>・児童生徒は、学校生活全般に関する内容について教職員からの連絡や助言等を受けたり、教職員に質問したりすることに加え、児童生徒との情報交換を行う等のコミュニケーションを図る</p>

### 2.3.3 教職員（児童生徒の指導に関するユースケース）

ユースケース	
ユースケース名	概要
<b>児童生徒の学校での学習の指導・支援</b>	
児童生徒にテストを受けさせ、採点および結果の確認を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員はテストの問題を各児童生徒に配信し、テスト時に児童生徒がアクセスできるようにする</li> <li>・教職員はテストの時間に児童生徒にテストへのアクセスを指示し、児童生徒にテストを受検させる</li> <li>・教職員はテスト終了後、自動採点できない設問について採点する</li> <li>・教職員はテスト結果をダッシュボードで確認し、必要に応じ個別指導等に活用する</li> </ul>
児童生徒に小テストを受けさせ、結果を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は小テスト（プレ・ポスト）の問題を登録し、児童生徒がアクセスできるようにする</li> <li>・教職員は授業中に児童生徒に小テストへのアクセスを指示し、児童生徒に小テストを受検させる</li> <li>・教職員は授業中にテスト結果をダッシュボードで確認し、授業の進め方や必要に応じ個別指導等に活用する</li> </ul>
デジタル教科書・教材を活用して授業を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は学校で、オンラインツールやデジタル教科書・教材を活用して授業を行う。児童生徒はデジタル教科書・教材を利用する</li> </ul>
テスト問題を作成し、学習 e ポータルに登録する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は自作のテスト問題を CBT に登録し、学習 e ポータルで児童生徒情報や科目情報と紐づけ、児童生徒が回答できるようにする</li> </ul>
デジタル教材を学習 e ポータルに登録する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（管理職または教職員等）は、授業や家庭学習の課題等で利用するデジタル教材を学習 e ポータルに登録し、教科や教科書の単元、時間割等と紐づけを行い、デジタル教科書と連携して利用できるようにする</li> </ul>

オンライングループ学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員はクラスの児童生徒をグループ別に編成し、学習ツールを活用してグループ学習を行う</li> <li>・授業終了後、スタディ・ログ等を評価（クラス全体、グループ、個人単位）に活用する</li> </ul>
個別学習・個別指導を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は児童生徒に個別に、デジタル教科書の単元等の学ぶ箇所と、それに対応したデジタル教材、演習問題等を示す（児童生徒は示された教材や演習問題を解く）</li> <li>・教職員はダッシュボードで一人一人の解答状況や成果を確認し、その内容を個別指導等に活用する</li> </ul>
学習ツールで児童生徒の意見を集約・分類、一覧化して授業に活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は学習ツールを通して特定のテーマに対する考えや意見を児童生徒から集約・分類、一覧化してクラス内での議論や、校外への発表に活用する</li> </ul>
<b>児童生徒の自宅での学習の指導・支援</b>	
児童生徒に家庭学習を課す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は指導計画に基づき、児童生徒に家庭学習を課す。その際、児童生徒の特性や学習進度等に応じて個別の学習を課すこともできる（児童生徒は学習 e ポータルの時間割から家庭学習にアクセスし、家庭学習を行う）</li> <li>・教職員はダッシュボードで一人一人の家庭学習の実施状況や成果を把握する</li> </ul>
<b>児童生徒の学習状況の確認と指導・支援の改善</b>	
指導案を共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が授業の指導案を学習 e ポータルに登録し、他の教職員が利用できるようにする</li> </ul>
児童生徒に関する多様なデータ（学習以外に関するデータも含む）を活用してより効果的な指導をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は児童生徒の情報（CBT の結果、デジタル教科書・教材や学習ツールの利用状況、タブレットに書いた文章、アンケートや気持ちを記録する学習ツールへの回答結果など）を活用して、習熟度や認知的特性に応じた効果的な指導を選択できる</li> <li>・特異な変化があった場合にはポップアップまたは音声などでお知らせする機能を活用し、迅速に児童生徒の情報を把握する</li> </ul>

転校前・進学前の学びの記録や情報を活用して指導する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は児童生徒の転校前・進学前の学びの履歴や特性を確認し、児童生徒の環境変化を踏まえた指導をする</li> <li>・学習 e ポータルを利用することで転校前・進学前のデータの引継ぎが容易になる</li> </ul>
児童生徒同士の交流を可視化し、授業や学級運営に活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は児童生徒同士のコミュニケーションの様子（コメントのやり取りや作品の閲覧状況等）を可視化し、授業での児童生徒への指導や学級運営に活用する</li> </ul>
<b>児童生徒や保護者とのコミュニケーション</b>	
学びに関するコミュニケーションを図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は、学習内容について児童生徒へ助言や称賛等の評価を行ったり、児童生徒からの質問に回答したりすることに加えて、児童生徒全体に必要な情報提供や指示を行う等のコミュニケーションを図る</li> </ul>

### 2.3.4 教職員（教員事務に関するユースケース）

ユースケース	
ユースケース名	概要
<b>児童生徒の学校での学習の指導・支援</b>	
時間割を作成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は各学年において履修する教科・科目、教科・科目ごとの授業時数等から、クラスごとの時間割の作成を行う</li> </ul>
<b>児童生徒の学習状況の確認と指導・支援の改善</b>	
評価材料として活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員はテスト結果や家庭学習の課題の提出状況、授業中のスタディ・ログ、児童生徒の学習状況を一覧できるダッシュボード等を、児童生徒一人一人の学習評価の評価材料の一つとして活用する</li> </ul>
児童生徒の出欠を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員は児童生徒の出欠状況を確認し、管理する</li> </ul>

補習を計画する	・教職員は児童生徒の学習状況を確認し、必要に応じて補習や個別指導等の計画を立てる
指導計画を作成する	・教職員は各種デジタル教科書・教材や学習ツールの利用状況や CBT のスコア、保護者アンケートなどをデータ化し、それらを活用して個別最適な指導計画を作成する
いじめや虐待、不登校など生徒指導上の問題の予兆を検知する	・教職員は児童生徒が自分の心情を記録するアプリなどを活用することで、いじめや虐待、不登校など生徒指導上の問題の予兆を検知する
<b>児童生徒や保護者とのコミュニケーション</b>	
保護者の承諾が必要な手続きについてオンラインで承諾を得る	・保護者にメッセージを通知し、オンライン上に用意された手続ページ等に保護者が必要事項を記入したり、承認手続きを行ったりすることにより、必要な承諾を得る
保護者への情報伝達を行う	・保護者にメッセージを通知し、必要な情報伝達を行ったり、ファイル添付やクラウドのファイル共有機能等を用いて写真等の配布を行ったりする
アンケートを配布し、結果を共有する	・教職員は学習 e ポータルからアンケートを配布し、集計結果やフィードバックを児童生徒に共有する
保護者面談で AI が分析したデータを活用する	・教職員は各種デジタル教科書・教材や学習ツールの利用状況や CBT のスコア、授業中の様子等から AI で分析した児童生徒の強みや特性、興味関心分野を活用して保護者面談を行う
<b>学級単位での授業運営に関する事務</b>	
年次更新の手間を軽減する	・学習 e ポータルと各種学習ツールとの連携により、教職員は学習 e ポータルに登録しているアカウント情報を更新するだけで、校務支援システムや各種デジタル教科書・教材、学習ツールごとの更新はせずに年次更新を行うことが可能

二重入力を解消する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習ツールを活用することで、教職員はアンケート、調査書、校務関連の書類などの作成時に同じ情報を何度も入力する必要がなくなる</li> </ul>
-----------	--

### 2.3.5 学校（管理職等）

ユースケース	
ユースケース名	概要
<b>情報管理</b>	
教職員情報を管理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（管理者）は校内の教職員情報を確認し、人事異動や新規採用等に伴う所属情報やアカウント情報の内容変更があった場合は教職員情報の登録・削除・変更を、教育委員会と連携して行う</li> <li>・教職員の退職・休職・採用等があった場合、随時その内容を反映する</li> </ul>
<b>学校・学年等における指導方針の策定</b>	
クラスごとの学習状況を分析し、指導方針を検討する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（管理職等）は、児童生徒一人一人やクラスごとの学習状況（テストや学力調査等の結果、課題等の提出状況、小テスト等の結果、等）を分析し、クラスごとの指導改善や、児童生徒一人一人の指導方針の検討に活用する</li> </ul>
学校経営方針や教育課程編成に反映する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（管理職等）は、児童生徒の各種デジタル教科書・教材や学習ツールの利用状況やCBTのスコアをはじめ、教科、学習分野ごとの強み、弱み、興味関心分野等のデータを活用しながら、学校経営方針や教育課程の編成に活用する</li> </ul>
<b>指導方針に基づく児童生徒の学習状況の確認と改善</b>	
個別最適な学びに繋がる授業を実施する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（管理職等）は、児童生徒の各種デジタル教科書・教材や学習ツールの利用状況やCBTのスコアをはじめ、教科、学習分野ごとの強み、弱み、興味関心分野等のデータを活用して、個々の児童生徒に個別最適な学びを提供する</li> </ul>

協働的な学びに繋がる授業を実施する	・学校（管理職等）は、児童生徒の各種デジタル教科書・教材や学習ツールの利用状況や CBT のスコアをはじめ、教科、学習分野ごとの強み、弱み、興味関心分野等のデータを活用して、学校やクラスを超えた協働的な学びを提供する（同じ興味を持つ児童生徒がオンラインで繋がって学ぶ、同じ進度の児童生徒がマッチングして議論する、反対に異なる考えを持つ児童生徒のグループを作り、新たな気づきの創出機会を作る等）
<b>教職員の指導状況の確認と改善</b>	
学校全体で学級の状況を把握し、支援する	・学校（管理職等）は各クラスの状況を各種デジタル教科書・教材や学習ツールの利用状況や CBT のスコア、授業中の様子等のデータを活用して、悩みや課題を抱えている学級の支援を行う
<b>学校で用いる教科書・教材等の管理</b>	
デジタル教材を学習 e ポータルに登録する	・学校（管理職または教職員等）は、授業や家庭学習における課題等で利用するデジタル教材を学習 e ポータルに登録し、教科や教科書の単元、時間割等と紐づけを行い、デジタル教科書と連携して利用できるようにする
教科書・教材情報を管理する	・学校の担当者は、教育委員会と分担しつつ学習 e ポータル経由で児童生徒が使用できるデジタル教科書や教材の情報を登録し、学校・学年との紐づけを行う

### 2.3.6 学校設置者

ユースケース	
ユースケース名	概要
<b>自治体や法人単位での教育に関する事務</b>	
年次更新の手間を軽減する	・学習 e ポータルと学習ツールとの連携により、教職員は学習 e ポータルに登録しているアカウント情報を更新するだけで、校務支援システムや各種デジタル教科書・教材、学習ツールごとの更新はせずに年次更新を行うことが可能

<b>情報管理</b>	
教員情報を管理する ※学校の実施項目と同一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の担当者は毎年 1 回、自治体内の教職員情報を確認し、人事異動や新規採用等に伴う所属情報やアカウント情報の内容変更があった場合は教職員情報の登録・削除・変更、および学校への紐付けを行う</li> <li>・教職員の退職・休職・採用等があった場合、随時その内容を反映する</li> </ul>
児童生徒情報を管理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の担当者は毎年 1 回、自治体内の児童生徒情報を確認し、変更があった情報の登録・削除・変更、および学校への紐付けを行う</li> <li>・児童生徒の転出入等があった場合は、随時その内容を反映する</li> </ul>
学校情報を管理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の担当者は毎年 1 回、自治体内の学校情報を確認し、内容変更があった場合は学校情報の登録・削除・変更を行う</li> </ul>
<b>学校で用いる教科書・教材等の管理</b>	
教科書・教材情報を管理する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の担当者は学校と分担しつつ、学習 e ポータル経由で児童生徒が使用できるデジタル教科書や教材の情報を登録し、学校・学年との紐付けを行う</li> </ul>
<b>テストや学力調査等の実施</b>	
テストや学力調査等の実施計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の担当者、または学校（管理職等）は、テストや学力調査等の実施計画を立案し、スケジュールおよび実施するテスト問題を学習 e ポータルに登録する</li> <li>・スケジュールやテスト問題を学校等に通知する</li> </ul>
テストや学力調査等の結果を分析し、指導改善方を検討する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の担当者、または学校（管理職等）は、テストや学力調査等の結果を分析し、学校全体の指導改善や、教職員一人一人の指導改善方を検討する</li> </ul>
<b>教育施策の立案・改善</b>	
教育施策の立案・改善および予算検討に活用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設置者は、各学校のクラスごとの取組内容に対する成果データを分析し、教育施策の立案・改善等、次年度事業の予算検討などに活用する</li> </ul>

<p>使用する学習 e ポータル を変更する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設置者は、学校からの意見を聞き、必要に応じて使用する学習 e ポータルを変更し、その際に、学校および教職員が、変更前の各種デジタル教科書・教材や学習ツールでの児童生徒の学びの履歴や特性のデータを参照、活用して指導をすることができるよう配慮する</li> </ul>
--------------------------------	--

## 2.3.7 保護者

ユースケース	
ユースケース名	概要
<b>児童生徒の学習状況の確認 / 自宅での学習の指導・支援</b>	
<p>保護者が子供の学習状況を把握する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者は学習 e ポータルのダッシュボードで、子供のテスト結果、単元ごとの学習状況等を確認し、家庭学習の充実に活用する</li> </ul>
<b>学校や教職員とのコミュニケーション</b>	
<p>学校からの連絡・通知を受け取る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者は学習 e ポータル経由で学校からの通知や連絡を受け取る</li> <li>・保護者から学校や教職員に対する連絡等も行うことができる</li> </ul>
<p>外国人等が翻訳された状態で学校から連絡・通知を受け取る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が学習 e ポータルで言語を指定することにより、メニュー等が指定した言語で表示され、教職員や学校からの通知内容が自動的に翻訳されて表示される (外国人児童生徒等も同様に翻訳機能を利用可能)</li> </ul>

## **II. 技術仕様**

# 1. 学習 e ポータル

## 1.1 学習 e ポータルの機能要件

学習 e ポータルの機能要件を挙げる。学習 e ポータルはデジタル学習環境のハブであり、他のコンポーネントと連携して機能を実現することでもかまわない。これら機能には、すべての利用者が使用する「基盤機能」と、利用者種別ごとに提供される「利用者別機能」に分けられる。

表 1-1 学習 e ポータル機能一覧

種別	要否	機能
基盤機能	MUST	アカウント管理/ユーザー認証
	MUST	MEXCBT との連携
	MUST	各種学習ツールとの連携
	MUST	校務支援システムとの連携
	MUST	LRS との連携
	RECOMMENDED	OS や各種学習ツールとのシングルサインオン
学習者側機能	MUST	MEXCBT の利用
	MUST	学習ツールの利用
	MAY	時間割/スケジュール管理
	MAY	学習者用マイページ
	MAY	ダッシュボード
教職員側機能	MUST	児童生徒情報管理
	MUST	テスト管理

	MUST	テスト結果閲覧
	MAY	ダッシュボード

### 1.1.1 基盤機能（詳細）

#### 1.1.1.1 アカウント管理／ユーザー認証

- i) 学習 e ポータル利用者のアカウント情報として、ユーザーID およびユーザー属性等の必要情報を保持し、システム管理者や権限を与えられたユーザーが登録・修正・削除できること。これらの情報のうち、システム間連携時のユーザー識別のために校務支援システムまたは学習 e ポータルによって個々に割り当てられた利用者識別子（UUID）と、氏名や表示名、学年、所属クラス、出席番号等の、各利用者識別子（UUID）が誰のものかを特定するために必要な情報については、システム管理者や権限を与えられたユーザーの操作によって CSV 形式等で出力できること。
- ii) 利用者が学習 e ポータルの利用を開始する際に、ID／パスワードあるいはその他の方法により、ユーザーの認証を行うこと。認証は学習 e ポータル内で実施するほか、外部の IdP と連携して行ってもよい。
- iii) ユーザー情報として学習 e ポータルが必要と認める項目を定め、保持できること。（MAY）

#### 1.1.1.2 MEXCBT との連携

- i) 学習 e ポータルが LTIPlatform として、LTITools 機能を持つ MEXCBT を呼び出せること。
- ii) 標準に基づき xAPI フォーマットで記録された MEXCBT のスタディ・ログを受け取れること。

#### 1.1.1.3 各種学習ツールとの連携

- i) 学習 e ポータルが LTIPlatform として、LTITools 機能を持つ各種学習ツールを呼び出せる機能を備えること。ただし、各種の学習ツールを、LTI 以外の方法で呼び出して連携することは妨げない。
- ii) 標準に基づき xAPI フォーマットで記録された各種学習ツールのスタディ・ログを受け取れること。（MAY）

iii) LTI 連携において、連携する学習ツールに対してユーザー属性情報の提供が求められた場合、以下の3つのパラメータを含めた学習ツールの呼び出しができること。ただし、これらの値が利用者によって学習 e ポータルに対して登録されていない場合、空値とする。

- name
- grade
- classname

#### **1.1.1.4 校務システムとの連携**

i) 学習 e ポータルは、OneRoster に基づいた名簿情報を校務支援システムから受け取ることができ、その情報を用いてユーザーの新規登録、更新、削除ができること。

#### **1.1.1.5 LRS との連携**

i) 学習 e ポータルは、自身に組み込まれた LRS、または独立した LRS との間で、xAPI フォーマットで記録されたスタディ・ログを呼び出せること。

ii) MEXCBT から受け取ったスタディ・ログを LRS に対して提供できること。

#### **1.1.1.6 OS や各種学習ツールとのシングルサインオン**

i) OS 提供事業者が提供するユーザー認証機能との間、また各種の学習ツールとの間で、できるだけ新たなログイン操作を行うことなしに利用できること。シングルサインオン実現のための技術規格は問わない。

### **1.1.2 学習者側機能（詳細）**

#### **1.1.2.1 MEXCBT の利用**

i) 利用者が学習 e ポータルに設定された MEXCBT へのリンクをクリックすることにより、リンクで示された MEXCBT のテストを受検できる状態にすること。

ii) 利用者が学習 e ポータルから MEXCBT を呼び出してテストを受検したとき、テスト完了後に MEXCBT からテスト結果を受け取り、受検者と紐づけてテスト結果を保管できること。

- iii) 利用者がテストを完了して MEXCBT を終了したのち、学習 e ポータル上でテスト結果を確認できること。

#### **1.1.2.2 学習ツールの利用**

- i) 学習 e ポータルと LTI 連携されたデジタル教材やドリル、CBT などさまざまな学習ツールへのリンクをクリックすることにより、その学習ツールに遷移できること。
- ii) LTI を用いて学習 e ポータルから学習ツールを利用する際に、トップページだけでなく、学習指導要領コード等で指定された特定個所に直接遷移できること。(MAY)

#### **1.1.2.3 時間割/スケジュール管理**

- i) 学習者の時間割やスケジュールを表示できること。
- ii) 時間割やスケジュールに示されたそれぞれの授業について、その授業で用いるデジタル教科書や、CBT のテスト等がリンクとともに表示され、リンクをクリックすることによりそれを表示できること。

#### **1.1.2.4 学習者用マイページ**

- i) 学習者が学習 e ポータルにログインしたとき、その学習者のマイページが表示されること。
- ii) マイページに、学習者自身の時間割やスケジュール、学習者が利用可能なデジタル教科書や教材、テストやその結果へのリンクなど、学びに必要な情報を掲載できること。

#### **1.1.2.5 ダッシュボード**

- i) 学習 e ポータルが様々な学習ツールから取得したスタディ・ログ等を、学習者にわかりやすい形式で表示できること。

### **1.1.3 教職員側機能（詳細）**

#### **1.1.3.1 児童生徒情報管理**

- i) 適切な権限を持つ者が学習者の情報について登録・修正・削除ができること。

### **1.1.3.2 テスト管理**

- i) MEXCBT に登録されているテストの中から学習者に受検させるテストを選択し、学習者情報と紐づけ、必要な情報（受検日、受検者、再受検の可否、等）を登録・修正・削除できると。
- ii) 学習者が当該テストを受検したかどうかを確認できること。

### **1.1.3.3 テスト結果閲覧**

- i) 学習 e ポータル経由で受検された MEXCBT のテスト結果を閲覧できること。

### **1.1.3.4 ダッシュボード**

- i) 学習 e ポータルが様々な学習ツールから取得したスタディ・ログ等を、学習者にわかりやすい形式で表示できること。

## 1.2 アカウント管理／ユーザー認証における技術仕様

### 1.2.1 アカウント管理／ユーザー認証

学習 e ポータルが出力する名簿情報 CSV ファイルについて、データ形式およびフォーマットを以下の通り規定する。当規定により、学習 e ポータルそれぞれが独自に定める名簿情報の出力を行うことは妨げない。またここで定める CSV ファイルについては、出力における操作方法を限定しない。

#### 1.2.1.1 データ形式

各項目の値は、以下の形式に従って出力すること。

- ・取り扱う日本語文字集合の範囲：JIS X 0213
- ・文字コード：ISO/IEC 10646
- ・文字の符号化形式：UTF-8（BOM なし）
  - ・値はすべて「"」で囲む
  - ・カタカナを使用する場合は全角

ヘッダには、下記フォーマットのカラム名を用いること。

orgs\_code は、1 ファイルにつき 2 つ以上の異なる値の文科省学校コードを含めないこと。

#### 1.2.1.2 フォーマット

カラム名	データ型	required	説明	
user_master_Identifier	uuid	○	校務支援システムまたは学習 e ポータルによって割り当てられた利用者識別子 (UUID)	
preferred_name	varchar	○※	表示名	※表示名 (名) と表示名 (姓)、または表示名のみのいずれかでも可とする
preferred_given_name	varchar	○※	表示名 (名)	

preferred_family_name	varchar	○※	表示名 (姓)	※学校設置者等の意向により表示名を保有していない学習 e ポータルは、表示名を「NULL」とする
preferred_middle_name	varchar		表示名 (ミドルネーム)	
email	varchar		メールアドレス	
school_year	integer	○	ユーザーが grade および class_title に示す学年・クラスに属する年度	
grades	varchar	○	APPLIC 学年コード ※role が“teacher”の場合は「NULL」とする	
role	varchar	○	児童生徒の場合：「student」、教職員等の場合：「teacher」	
orgs_code	varchar	○	所属する学校の文科省学校コード	
class_title	varchar	○	主所属クラス名 ※保有していない場合は「NULL」とする	
shusseki_no	integer		class_title における出席番号	

## 1.3 MEXCBT との連携における技術仕様

### 1.3.1 LTI による MEXCBT の呼び出し

MEXCBT との接続において、LTI Core と Assignment and Grade Services v2.0 (AGS), Deep Linking v2.0 (DL)を用いる際のルールを次項の通り定める。

### 1.3.1.1 LTI v1.3 Core

各 MEXCBT テスト受検画面の呼び出しと受検済みテストの解答レビューを行う際に、LTI Core(Resource Link Launch Request)を用いる。

1EdTech™ Consortium の定める LTI v1.3 Core 仕様については、以下を参照すること。

<https://www.imsglobal.org/spec/lti/v1p3/>

以下に、LTI v1.3 Core に対して本モデルで追加する連携ルールを定める。

#### i) ユーザー

5.3.6 User Identity claims ( <https://www.imsglobal.org/spec/lti/v1p3/#user-identity-claims> )で定められているユーザーについて、パラメータに対して以下の通り規定する。

クレーム	Name	学習 e ポータル標準モデル	
		要否	規定の内容
User Identity claims	sub	REQUIRED	下記「sub について」を参照

#### sub について

sub には、連携するシステム間でのユーザー特定のために、学習 e ポータル上で各ユーザーに割り当てられた識別子を用いる。この識別子は、以下の方法で生成されたいずれかを用いる。

- ① 連携する校務支援システムにて生成された利用者識別子 (UUID)
- ② 自他問わず学習 e ポータルにて生成された利用者識別子 (UUID)

①の識別子は、本モデルにおいては校務システムとの OneRoster 連携により受け取ることを想定するが、それ以外の方法で受け取っても良い。

②の識別子は、校務支援システムと連携がされる前に、学習ツールと連携されているものに限り使い続けても良い。ただし、可能な限り①の識別子が利用できるよう校務支援システムと連携していくことが望ましい。

なお、ここで生成する UUID は version4 に従い、満たすべき乱数の品質や各プログラミング言語における UUID version4 の生成方法の具体例は「[資料 2 : UUID の生成](#)」を参照すること。

## ii) ロール

5.3.7 Roles claim( <https://www.imslobal.org/spec/lti/v1p3/#roles-claim> )で定められているロールについて、以下のルールを追加する。

- ・各ユーザーのロールは「[資料 4 : ロール一覧](#)」に含まれるいずれかの値を用いる。

MEXCBT で使用しているロールとそれぞれの解釈は以下の通りである。

なお、短縮形は利用不可となっている。

例：児童生徒を表すロールとして Student を使用する場合

×「Student」

○「<http://purl.imslobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Student>」

①MEXCBT は以下のいずれか、またはすべてが用いられた場合、『児童生徒』と解釈する

<http://purl.imslobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Student>

<http://purl.imslobal.org/vocab/lis/v2/membership#Learner>

②MEXCBT は以下のいずれか、またはすべてが用いられた場合、『教職員』と解釈する

<http://purl.imslobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Faculty>

<http://purl.imslobal.org/vocab/lis/v2/membership#Instructor>

③MEXCBT は①②以外、または①②を両方含む場合、『教職員』と解釈する

## iii) コンテキスト

5.4.1 Context claim( <https://www.imslobal.org/spec/lti/v1p3/#context-claim> )で定められているコンテキストについて、以下のルールを追加する。

- ・ Context クレームを含めることを必須とする。ID に対しては追加の規定をしない。

#### iv) デプロイメント ID

5.3.3 LTI Deployment ID claim( <https://www.imslobal.org/spec/lti/v1p3/#lti-deployment-id-claim> )で定められているデプロイメント ID について、以下のルールを追加する。

- A. 学校所属の教職員アカウントおよび児童生徒アカウントは deployment\_id に、所属する学校の「学校コード」を含めなければならない。
- B. 自治体所属の職員アカウントは deployment\_id に、市町村職員は「自治体コード」を、都道府県職員は「都道府県コード」を含めなければならない。
- C. アカウントと deployment\_id の組合せは、一貫性がなければならない (処理毎に任意の組合せを選ぶものではない)  
学習 e ポータルの自治体職員ユーザーが、管下の特定の学校に限定してツールを利用するような場合においても、用途に関わらず deployment\_id は、自治体コード(市町村)または都道府県コードとする。
- D. deployment\_id に含める各種コードについては、下記に示す接頭辞およびデリミターを付加した値で送信しなければならない。
- ・接頭辞
    - ・ S : 学校コード
    - ・ B : 自治体コード
    - ・ P : 都道府県コード
  - ・デリミター  
「\_」(アンダーバー)とする
- E. deployment\_id に含める各種コードについては、それぞれ下記を採用するものとする。  
学校コードには、文科省「学校コード」を採用する。  
参照 URL : [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)  
一条校のうち「小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校」を対象とする。  
自治体コードおよび都道府県コードには総務省「全国地方公共団体コード」を採用する。  
参照 URL : <https://www.soumu.go.jp/denshijiti/code.html>  
事務組合(立)についても同コードを採用する。  
上記に含まれない学校・団体等が利用する際に指定する deployment\_id については、学習 e ポータル事業者および MEXCBT 事業者間で別途協議する。

F. 各種コードの真正性については、学習 e ポータルにおいて、予め確認されていることを前提とする

\*真正性：主体や資源が、主張通りであること

参考：MEXCBT を呼び出す際の送信データのサンプルを「[資料 5](#)」および「[資料 6](#)」に記載した。

### 1.3.1.2 Deep Linking v2.0

教職員が児童生徒に対して MEXCBT 上に登録されているテストの URL(LTI Resource Link)を配信する際に、配信したいテストの検索、選択と学習 e ポータルへの設定を GUI 上で簡便に行えるようにするために用いられる。

1EdTech™ Consortium の定める Deep Linking v2.0 仕様については、以下を参照すること。

<https://www.imsglobal.org/spec/lti-dl/v2p0/>

#### i) Deep Linking Request

3.4.1 Deep linking settings(<https://www.imsglobal.org/spec/lti-dl/v2p0/#deep-linking-settings>)で定められている Deep Linking Request 設定について、以下の規定を追加する。

クレーム	Name	学習 e ポータル標準モデル	
		要否	規定の内容
deep_linking_settings	accept_types	REQUIRED	"ItiResourceLink"が含まれてなければならない
	accept_presentation_document_targets	REQUIRED	"window"が含まれていなければならない
	data	REQUIRED	CSRF トークン等、Deep Linking レスポンス時に学習ツールから返送が必要な値を入れなければならない

参考：MEXCBT を呼び出す際の送信データのサンプルは「[資料 7](#)」に記載した。

## ii) Deep Linking Response

MEXCBT は、Deep Linking Response 時の“content items”に対して以下の通り規定を追加している。学習 e ポータルはこれを MEXCBT 固有の仕様であると解釈する必要がある。

クレーム	学習 e ポータル標準モデル		
	Name	要否	規定の内容
content_items	custom	"https://mexcbt.mext.go.jp/lti/metadata"	
	testReview	OPTIONAL	テストレビューの LTI 連携情報。テストレビュー不可のテストではキーのみ設定する（値は null）
	testReview.reviewableStatus	REQUIRED ※	"Submitted", "Completed" テストレビューリンクがいつ表示されるかを示す文字列配列。AGS で送信された最新の activityProgress の値に、ここで渡される値が含まれていた場合、学習 e ポータルはテストレビューリンクを有効にする。
	testReview.url	REQUIRED ※	各テストのテストレビュー URL を設定する。 このプロパティが含まれているとき、学習 e ポータルはここで示された URL をテストレビュー起動時の target_link_uri として用いなければならない。
	testReview.custom	REQUIRED ※	custom_show_score: true 受検者の得点を表示する場合に true custom_show_correct: true 正答を表示する場合に true 例 : "custom" : { "custom_show_score":true, "custom_show_correct":true }
maxAttempts	OPTIONAL	このテストを受検できる最大試行回数。受検回数の制限が無い場合、key のみ設定し、value は未設定	

	academicStand ardCodes	OPTIONAL	本テストデリバリーに対応する学習指導要領コードの 配列
--	---------------------------	----------	--------------------------------

※testReview プロパティを送信する場合のみ

### 1.3.1.3 Assignment and Grade Services v2.0

学習 e ポータルに対するテスト結果(スコア)の返送に用いられる。

1EdTech™ Consortium の定める Assignment and Grade Services v2.0 仕様 は以下を参照  
すること。

<https://www.imsglobal.org/spec/lti-ags/v2p0/>

#### i) MEXCBT テストの受検

MEXCBT テストの受検画面の呼び出しを行う際は、以下の規定に従って lti-ags クレームを追  
加する。

クレーム	Name	学習 e ポータル標準モデル	
		要否	規定の内容
lti-ags	scope	REQUIRED	"https://purl.imsglobal.org/spec/lti-ags/scope/score" が含まれていなければならない
	lineitem	REQUIRED	MEXCBT から学習 e ポータルにスコアを返送するための 学習 e ポータル側の URL 形式： ベース URL/{contextId}/lineitems/{lineItemId} 例) https://platform.example.com/courses/123/lineitems /321"

## ii) 受検済みテストの解答レビュー（テストレビュー）

受検済み MEXCBT テストの解答レビュー（テストレビュー）画面の呼び出しを行う際は、以下の規定に従って lti-ags クレームを追加し、カスタムクレームには受検者に関する項目を追加する。

クレーム	Name	学習 e ポータル標準モデル	
		要否	規定の内容
lti-ags	scope	REQUIRED	"https://purl.imsglobal.org/spec/lti-ags/scope/score" が含まれていなければならない
	lineitem	REQUIRED	i) MEXCBT テストの受検 で送信したのと同じ URL
custom	for_user_id	REQUIRED	テスト受検者を表す UUID
	for_roles	REQUIRED	テスト受検者のロール 「 <a href="#">1.3.1.1 LTI v1.3 Core</a> i) ユーザー, ii) ロール」と同様

## 1.3.2 xAPI フォーマットで記録された MEXCBT スタディ・ログの受け取り

### 1.3.2.1 MEXCBT が提供するスタディ・ログ

MEXCBT は、以下のプロファイルに従ったスタディ・ログを提供する。ステートメントの具体例は「[資料 8 : MEXCBT が提供する xAPI ステートメントのサンプル](#)」を参照すること。

ステートメント種	項目	内容
Start (試行開始)	アクティビティ	評価開始
	Verb	http://adlnet.gov/expapi/verbs/attempted
	Object	ルートアクティビティ
	参照	ADL Vocabulary
Complete + Success (完了 + 合格)	アクティビティ	アセスメントの完了, 評価終了
	Verb	http://adlnet.gov/expapi/verbs/completed
	Object	ルートアクティビティ
	Result	'success' = true
	参照	SCORM Profile
Complete + Failure (完了 + 不合格)	アクティビティ	アセスメントの完了, 評価終了
	Verb	http://adlnet.gov/expapi/verbs/completed
	Object	ルートアクティビティ

	Result	'success' = false
	参照	SCORM Profile
Interaction Answered (解答)	アクティビティ	解答 (合否を伴わない)
	Verb	http://adlnet.gov/expapi/verbs/answered
	Object	インタラクション アクティビティ
	Result	(success 記述なし)
	参照	ADL Vocabulary
Interaction Answered Successfully (解答 + 合格)	アクティビティ	解答 + 独立したインタラクションにて合格
	Verb	http://adlnet.gov/expapi/verbs/answered
	Object	インタラクション アクティビティ
	Result	'success' = true
	参照	ADL Vocabulary
Interaction Answered Unsuccessfully (解答 + 不合格)	アクティビティ	解答 + 独立したインタラクションにて不合格
	Verb	http://adlnet.gov/expapi/verbs/answered
	Object	インタラクション アクティビティ
	Result	'success' = false

	参照	ADL Vocabulary
Viewed (ページ閲覧)	アクティビティ	学習コンテンツやリソースの閲覧
	Verb	<a href="http://id.tincanapi.com/verb/viewed">http://id.tincanapi.com/verb/viewed</a>
	Object	読み取り アクティビティ
	timestamp	アクションの実行日時 (MEXCBT では閲覧終了日時)
	参照	TinCan Vocabulary

学習者の操作と、これらのステートメント種との関係は次の通りである。

- ・ Verb が attempted のステートメントは、学習 e ポータルによって MEXCBT が起動され、MEXCBT がテストの提供を開始した段階で自動的に生成される
- ・ Verb が answered、viewed のステートメントは、学習者によって異なるページへの移動操作、もしくはテスト終了が実行された直後に生成される。テストによっては、任意や前のページへの遷移が可能とされるものが存在する
- ・ タイプ 1 の answered ステートメント①②の双方には、各 1 つのインタラクションへの結果が含まれる
- ・ タイプ 2 の answered ステートメント①②には、インタラクションへの結果は含まれない。①と②は、その子に相当するステートメント①-1, ①-2、および、②-1, ②-2, ②-3 に 各々のインタラクションの結果を個別に保持する形をとる
- ・ Verb が completed のステートメントは、学習者によってテストの終了が実行された直後に生成される。なお、学習者がテストの終了を明示的に実施しなかった場合には、completed ステートメントは生成されない

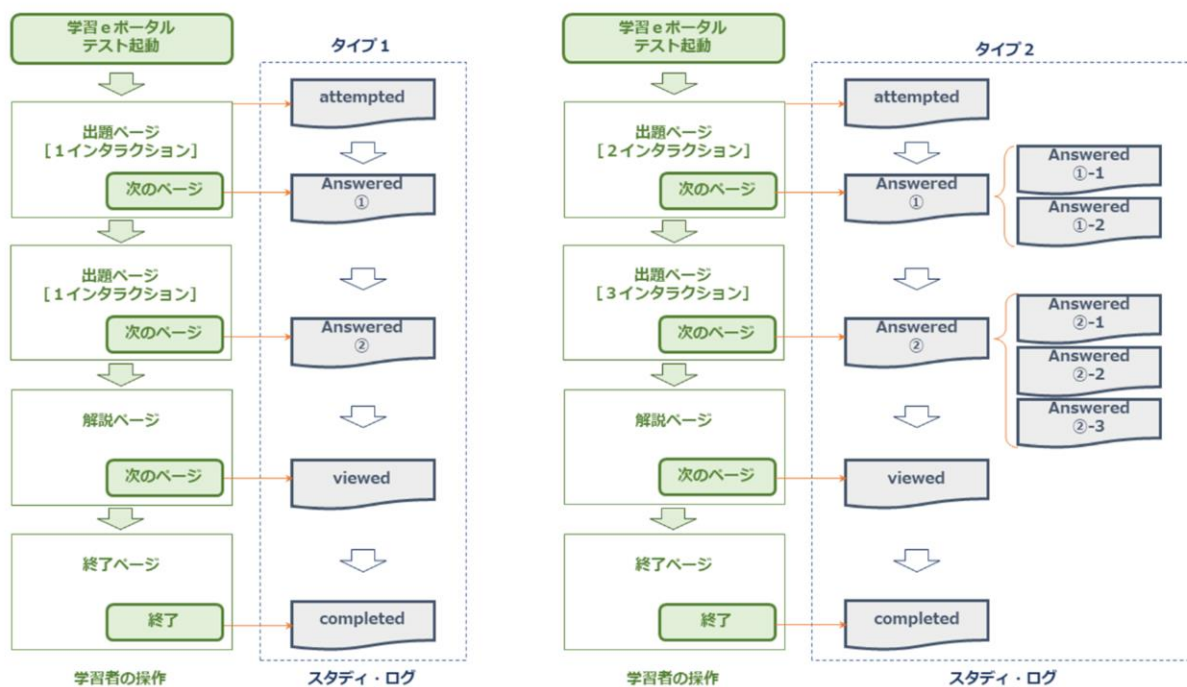


図 1-1 学習者の操作とステートメントの対応関係

(タイプ 1 : インタラクションが 1 つの場合 タイプ 2 : インタラクションが複数の場合)

### 1.3.2.2 MEXCBT からスタディ・ログを受け取る

MEXCBT は以下のスタディ・ログ連携機能を提供する。

<p>xAPI スタディ・ログへの変換</p>	<p>CBT エンジン上の解答履歴情報や CBT コンテンツのメタデータを参照し、xAPI 形式に変換した上で MEXCBT 内部のデータベースに格納する。xAPI 形式への変換はテストの受検とは同期せず定期的に実行される。そのため、受検終了後に学習 e ポータルがスタディ・ログを取得可能となるまで数時間程度を要する。</p> <p>変換終了後、学習 e ポータルは本節「ii) MEXCBT でのスタディ・ログ取得のための API 仕様」で述べる Web API を用いて MEXCBT スタディ・ログを取得できる。</p>
<p>CBT コンテンツのメタ情報の提供</p>	<p>MEXCBT では、xAPI スタディ・ログの効率的な送受信にあたり、xAPI スタディ・ログ取得用の API とは別に、CBT コンテンツのメタ情報を出力する API を設ける。この API については本節「iii) MEXCBT 問題メタデータ取得のための API 仕様」にて後述する。</p>
<p>スタディ・ログ取得における認証・認可</p>	<p>MEXCBT スタディ・ログ API、問題メタ情報 API の認証・認可方式は以下を採用する。</p> <p style="padding-left: 40px;">認証：学習 e ポータルの RSA 鍵ペアを用いたクライアント認証 (LTI 接続で使用するものと同じの鍵ペアを使用)</p> <p style="padding-left: 40px;">認可：OAuth 2.0 Client Credentials</p>
<p>学習者の所属情報 (自治体・学校・クラス等)</p>	<p>「<a href="#">1.1 学習 e ポータルの機能要件</a>」にある通り、学習者の属性情報の管理は学習 e ポータルの責務と位置づけられている。</p> <p>xAPI スタディ・ログには、次の学習者に関する情報が含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習 e ポータルの識別情報</li> <li>・ 連携において学習者を識別するための利用者識別子 (UUID)</li> </ul> <p>クラス単位・学校単位での学習状況分析等の機能提供にあたっては、この利用者識別子 (UUID) を用いて学習 e ポータルにて所属・属性情報との紐付けを行うものとする。</p>

### i) スタディ・ログ API へのアクセス制限

MEXCBT スタディ・ログ API は以下の方式で認証・認可を行う。

認証：RSA 鍵ペアを用いた学習 e ポータルの認証

(LTI 接続で使用するものと同一の鍵ペアを使用)

認可：OAuth 2.0 Client Credentials

認可スコープは次の通り。

認可対象	スコープ文字列
スタディ・ログの取得	https://mexcbt.mext.go.jp/auth/scope/testmeta.readonly
問題メタ情報の取得	https://mexcbt.mext.go.jp/auth/scope/studylog.readonly

一連の認証・認可処理は次の通り行われる。

#### 1. アクセストークンリクエスト

(ア)学習 e ポータルは、次の項目をペイロードに含む JSON Web Token (以降、JWT) を生成し、自身の秘密鍵で署名する。

JWT クレーム	値
iss	JWT 生成者 (学習 e ポータル) の issuer
sub	JWT 生成者 (学習 e ポータル) の issuer
aud	Audience の識別子 (MEXCBT のトークン発行エンドポイント URL)
iat	JWT の生成日時
exp	JWT の有効期限
jti	JWT の Id (exp 後は再利用可能)

(イ)学習 e ポータルは、次のアクセストークン要求を MEXCBT のトークン発行エンドポイントに送信する。

項目	内容		
エンドポイント	/api/Lti/AccessToken/<MEXCBT が発行した学習 e ポータル識別子>		
メソッド	POST		
パラメータ	パラメータ	要否	値
	grant_type	REQUIRED	client_credentials (固定値)
	client_assertion_type	REQUIRED	urn%3Aietf%3Aparams%3Aoauth%3Aclient-assertion-type%3Ajwt-bearer (固定値)
	scope	REQUIRED	MEXCBT スタディ・ログ取得、問題メタ情報取得の認可スコープ文字列。両方のスコープを要求する場合は、半角スペースを区切り文字としてスコープ文字列を連携する。

## 2. アクセストークンレスポンス

MEXCBT は学習 e ポータルから渡された JWT を検証し、認証に成功すれば、次の通りアクセストークンを学習 e ポータルに返す。

パラメータ	要否	内容
access_token	REQUIRED	MEXCBT が発行するアクセストークン
token_type	REQUIRED	Bearer (固定値)
expires_in	OPTIONAL	Token の有効期限 (1 時間)
scope	OPTIONAL	認可した scope (クライアントが要求した scope と異なる場合は必須。クライアントが要求した scope と一致する場合は、本パラメータの付与は不要)

学習 e ポータルの認証に失敗した場合、MEXCBT は次のエラーレスポンスを返す。

HTTP ステータスコード	内容
400 Bad Request	<ul style="list-style-type: none"><li>• iss, sub で渡された学習 e ポータルの issuer 値が MEXCBT に登録されていない場合</li><li>• aud で渡された URL が MEXCBT に登録されていない場合</li><li>• トークンエンドポイント内の学習 e ポータル識別子に紐づく学習 e ポータル情報が存在しない場合</li><li>• 上記以外の認可スコープが指定された場合</li></ul>
401 Unauthorized	<ul style="list-style-type: none"><li>• トークン要求中の JWT の有効期限が切れていた場合</li></ul>

\* エラー返却例

```
HTTP/1.1 400 Bad Request
Content-Type: application/json;charset=UTF-8
Cache-Control: no-store
Pragma: no-cache
{
  "error": "invalid_request"
}
```

### 3. スタディ・ログ API（問題メタ情報 API）の呼び出し

学習 e ポータルは、2 で受け取ったアクセストークンを Authorization ヘッダに追加し、スタディ・ログ API を呼び出す。詳細は次節の API 仕様を参照すること。

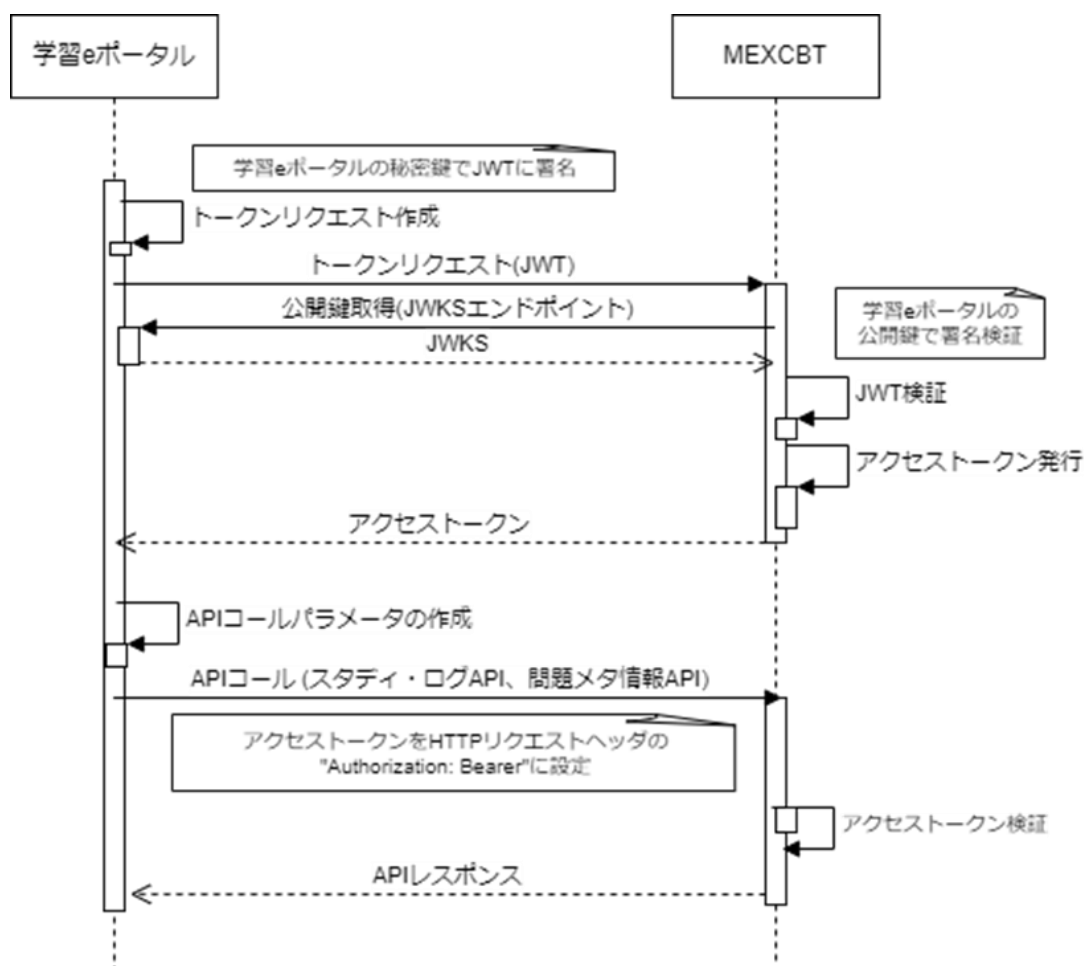


図 1-2 スタディ・ログ API 実行のシーケンス

この認証方式は OpenID Connect Core 1.0 セクション 9 で定義される `private_key_jwt` に類似しているが、学習 e ポータルと MEXCBT の間の事前の認証情報の交換の簡略化のため、クライアントアサーション中の `iss`, `sub` を LTI Resource Link Request における ID トークンの `issuer` 値としている。

## ii) MEXCBT でのステディ・ログ取得のための API 仕様

API 仕様は以下の通り。

#	項目	内容		
1	エンドポイント	/v2/xAPI/statements		
2	リクエスト仕様	メソッド	HEAD / GET	
		ヘッダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Accept (application/json, */*)</li> <li>• Accept-Encoding (gzip) &lt;未設定時には非圧縮で返却&gt;</li> <li>• Accept-Language (ja)</li> <li>• Authorization ( [ Bearer アクセストークン ] )</li> <li>• Content-Type (application/json; charset=UTF-8)</li> <li>• Content-Length</li> <li>• X-Experience-API-Version (1.0.3)</li> </ul>	
3	パラメータ	エンコーディング	UTF-8	
			型	仕様
		since	Timestamp	必須パラメータ 返却開始ステートメントへの日時指定
		until	Timestamp	任意パラメータ 返却終了ステートメントへの日時指定 未設定であれば最新のステートメント までを返却対象とする
		limit	正数 or 0	任意パラメータ 返却ステートメント数の指定
cursor	文字列	返却結果に収まらない追加のステートメントがある際にその続きの取得用として設定されるパラメータ レスポンスボディの more の値をそのまま設定する		
4	レスポンス仕様	ヘッダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Status (200 OK etc.)</li> <li>• Content-Type (application/json)</li> <li>• Content-Length</li> <li>• X-Experience-API-Version (1.0.3)</li> <li>• X-Experience-API-Consistent-Through</li> </ul>	

			(レスポンス日時情報 (Timestamp 値) )		
	ボディ	HEAD 呼び出しの際にはボディ内容は空 GET 呼び出し時の例を以下に示す			
		<pre>{ "more":"https://&lt;MEXCBT スタディ・ログ API サーバー ホスト名&gt;/v2/xAPI/statements?since= (省略) ", "statements": [ { "actor":{" (省略) }, "verb":{" (省略) }, "object":{" (省略) }, . . }, . . ] }</pre>			
	エンコーディング	UTF-8			
5	エラー レスポンス ステータス	ステータスコード	400	Bad Request	パラメータエラー
			401	Unauthorized	認証エラー
			403	Forbidden	リクエスト拒否 (認証者資格へのリクエスト拒否)
			404	Not Found	要求リソース無し
			413	Request Entity Too Large	返却サイズが許容サイズをオーバー (許容サイズを超える添付ファイルが付属等)
			429	Too Many Requests	要求過多による要求拒否
			500	Internal	予期せぬサーバーエラー

			Server Error	
		504	Gateway Timeout	タイムアウト

補足 1 :

項目	補足説明															
Timestamp 値	精度ミリ秒までの ISO8601 表記タイムスタンプ値 (UTC 時間) (例) 2022-01-05T08:15:00.000															
since パラメータ	MEXCBT スタディ・ログ変換モジュールが自身のデータベースに書き込みを行った日時の指定であり、パラメータ値を含む ※ 本仕様は、xAPI LRS 仕様とは異なり、LRS 仕様では since パラメータ値を含めずそれ以降として扱う															
until パラメータ	MEXCBT スタディ・ログ変換モジュールが自身のデータベースに書き込みを行った日時の指定であり、パラメータ値を含む デフォルト値は無し															
limit パラメータ	0 の場合は、MEXCBT スタディ・ログ変換モジュールが許容する数を返却ステートメント数とする デフォルト値は 0 ※ 本仕様は xAPI LRS 仕様とは limit の解釈の違いから以下の相違を持つ <table border="1" data-bbox="523 1227 1398 1966"> <thead> <tr> <th>例</th> <th>本仕様</th> <th>xAPI LRS 仕様</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供可能件数 = 800 limit = 1,000</td> <td>返却件数 = 800 more 無し</td> <td>返却件数 = 800 more 無し</td> </tr> <tr> <td>提供可能件数 = 800 limit = 500</td> <td>返却件数 = 500 more 無し</td> <td>返却件数 = 500 more 無し (残 300 件返却用)</td> </tr> <tr> <td>提供可能件数 = 1,200 limit = 1,000</td> <td>返却件数 = 1,000 more 無し</td> <td>返却件数 = 1,000 more 無し (残 200 件返却用)</td> </tr> <tr> <td>提供可能件数 = 1,200 limit = 2,000</td> <td>返却件数 = 1,000 more 付き</td> <td>返却件数 = 1,200 more 無し (但し、返却件数によっては、タイムアウト)</td> </tr> </tbody> </table>	例	本仕様	xAPI LRS 仕様	提供可能件数 = 800 limit = 1,000	返却件数 = 800 more 無し	返却件数 = 800 more 無し	提供可能件数 = 800 limit = 500	返却件数 = 500 more 無し	返却件数 = 500 more 無し (残 300 件返却用)	提供可能件数 = 1,200 limit = 1,000	返却件数 = 1,000 more 無し	返却件数 = 1,000 more 無し (残 200 件返却用)	提供可能件数 = 1,200 limit = 2,000	返却件数 = 1,000 more 付き	返却件数 = 1,200 more 無し (但し、返却件数によっては、タイムアウト)
例	本仕様	xAPI LRS 仕様														
提供可能件数 = 800 limit = 1,000	返却件数 = 800 more 無し	返却件数 = 800 more 無し														
提供可能件数 = 800 limit = 500	返却件数 = 500 more 無し	返却件数 = 500 more 無し (残 300 件返却用)														
提供可能件数 = 1,200 limit = 1,000	返却件数 = 1,000 more 無し	返却件数 = 1,000 more 無し (残 200 件返却用)														
提供可能件数 = 1,200 limit = 2,000	返却件数 = 1,000 more 付き	返却件数 = 1,200 more 無し (但し、返却件数によっては、タイムアウト)														

	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="719 152 884 275">(残 200 件返却用)</td> <td data-bbox="884 152 1401 275">ト等のエラーの可能性を含む)</td> </tr> </table>	(残 200 件返却用)	ト等のエラーの可能性を含む)
(残 200 件返却用)	ト等のエラーの可能性を含む)		
cursor パラメータ	<p>API 利用側での一切の変更を禁止          内容の一部は暗号化、かつ、URL エンコード処理済み</p>		
more レスポンス	<p>未返却の（続きの）ステートメントが無い場合には more 記述は省略される</p> <p>※ more の値には API のエンドポイントを含む内容が提供されるが、これは、xAPI LRS 仕様とは異なる。</p> <p>（LRS 仕様に準拠した際には「/v2/xAPI/statements・・・」とホスト等の情報を含まない内容とされる）</p>		

補足 2 :

API 利用時の認証情報	<p>有効な認証トークンを要する</p> <p>認証トークンは、API リクエスト時の Authorization ヘッダに Bearer トークンとして設定</p> <p>(例)</p> <p>'Authorization: Bearer &lt;アクセストークン&gt;'</p>
レスポンス ステートメント数	最大 1,000 ステートメント
レスポンス ステートメント数が 1,000 を超える場合の処理	<p>レスポンス情報に "more": &lt;URI&gt; を含める</p> <p>続きのステートメント要求の際には、API 経由で more の値を使用 (MUST)</p>

### iii) MEXCBT 問題メタデータ取得のための API 仕様

MEXCBT には、搭載されている CBT 問題コンテンツの属性情報を取得するための問題メタ情報 API が備えられている。学習 e ポータルは、Deep Linking Response やスタディ・ログで受け取ったコンテンツ ID を問題メタ情報 API に渡すことで、問題搭載者がその問題コンテンツに付与したメタ情報を取得できる。その具体例は「[資料 9 : MEXCBT 問題メタ情報 API データサンプル](#)」を参照すること。

問題メタ情報 API の認証・認可はスタディ・ログ API と同様に OAuth2.0 Client Credentials で行う。OAuth トークンエンドポイントはスタディ・ログ API と共通であり、問題メタ情報の取得にあたっては、学習 e ポータルはトークン要求時に以下の認可スコープを要求する。

MEXCBT 問題メタ情報 取得認可スコープ	<a href="https://mexcbt.mext.go.jp/auth/scope/testmeta.readonly">https://mexcbt.mext.go.jp/auth/scope/testmeta.readonly</a>
---------------------------	---

API 仕様は以下の通り。

#	項目	内容			
1	エンドポイント	/mjk/apis/getMetaInfo			
2	リクエスト仕様	メソッド	GET		
		ヘッダ	• Authorization ( [ Bearer アクセストークン ] )		
		パラメータ		型	仕様
			delivery_id	文字列	必須パラメータ メタ情報を取得する対象の問題コンテンツ ID

			need_interaction	ブール値	任意パラメータ 返却データにインタラクション情報を含めるかを指定する真偽値 ・「true」を指定した場合、返却データはインタラクション情報を含む構造となる ・「true」以外を指定するか、パラメータを省略した場合、返却データはインタラクション情報を含まない構造となる
3	レスポンス仕様	レスポンス形式	• MIME タイプ application/json		
		ボディ	下記にデータ項目一覧を示す。また、付録にサンプルデータを示す。		
		エンコーディング	UTF-8		
4	エラーレスポンス	ステータスコード	ステータスコード		エラー内容
			400	Bad Request	・コンテンツ ID に紐づく問題情報が存在しない ・対象のコンテンツの問題メタ情報が非公開
			401	Unauthorized	認証エラー
			406	Not Acceptable	対象のコンテンツの問題メタ情報が非公開

MEXCBT 問題メタ情報 API で取得できるデータ項目は次の通り。

項目			データ型	桁数	カラム
階層 1	階層 2	階層 3			
delivery_id			英数字	255	デリバリ ID
test_id			英数字	255	問題 ID
q_content_id			英数字	255	コンテンツ ID
q_work_manage_id			英数字	255	作業用管理 ID
q_publisher_cd			英数字	255	出版元コード
q_publisher_name			文字列	500	値
q_test_type_id			英数字	11	原本 ID
q_test_type_name			文字列	255	原本名
q_issue_year			英数字	11	発刊年
q_subject_id			英数字	11	教科 ID
q_subject_name			文字列	255	教科名
q_subject_child_id			英数字	11	科目 ID
q_subject_child_name			文字列	255	科目名
q_school_stage_id			英数字	11	履修学校種 ID

q_school_stage_name	文字列	255	学校種名
q_grade_id	英数字	11	履修学年 ID
q_grade_name	文字列	255	学年名
q_exec_count	英数字	11	回次
q_content_title	文字列	100	コンテンツタイトル
q_scoring_type	文字列	255	採点形式
q_difficulty	文字列	11	難易度
q_test_time_min	数値	-	想定所要時間（分）
q_average_score	小数点付き数値	-	平均正答率
q_goal_score	小数点付き数値	-	目標値
q_type_kbn_cd	英数字	1	形式区分コード
q_type_kbn_name	文字列	500	値
q_level_id	英数字	11	受検級 ID
q_level_name	文字列	255	受検級名
q_perfect_score	英数字	11	満点点数
q_item_count	英数字	11	アイテム数
q_reserve_meta_1	文字列	255	予備メタ 1 (備考) 問題に関する補足事項。
q_reserve_meta_2	文字列	255	予備メタ 2

			(分冊用問題) 分冊用の問題で使用される項目。分冊用の問題ではない場合は、値は設定されない。 ※分冊用の問題は API 非公開	
q_reserve_meta_3	文字列	255	予備メタ 3	
q_reserve_meta_4	文字列	255	予備メタ 4	
q_reserve_meta_5	文字列	255	予備メタ 5	
q_reserve_meta_6	文字列	255	予備メタ 6	
q_movie_voice_check	英数字	11	動画・音声提示素材有無	
q_speaking_check	英数字	11	スピーキング仕様有無	
q_create_user_display	文字列	255	作成者	
q_open_date_display	文字列	255	新規登録日時	
q_update_date_display	文字列	255	メタ情報更新日時	
item_meta_list	オブジェクト配列	-	-	
	item_id	英数字	255	受検 TAO アイテム ID
	i_content_id	英数字	255	コンテンツ ID
	i_work_manage_id	英数字	255	作業用管理 ID
	i_publisher_cd	英数字	11	出版元コード
	i_publisher_name	文字列	500	値
	i_test_type_id	英数字	11	原本 ID

i_test_type_name	文字列	255	原本名
i_issue_year	英数字	11	発刊年
i_subject_id	英数字	11	教科 ID
i_subject_name	文字列	255	教科名
i_subject_child_id	英数字	11	科目 ID
i_subject_child_name	文字列	255	科目名
i_school_stage_id	英数字	11	履修学校種 ID
i_school_stage_name	文字列	255	学校種名
i_grade_id	英数字	11	履修学年 ID
i_grade_name	文字列	255	学年名
i_exec_count	文字列	100	回次
i_content_title	文字列	255	コンテンツタイトル
i_translation_cd_1	英数字	16	学習指導要領コード (1)
i_translation_cd_2	英数字	16	学習指導要領コード (2)
i_translation_cd_3	英数字	16	学習指導要領コード (3)
i_translation_cd_4	英数字	16	学習指導要領コード (4)
i_translation_cd_5	英数字	16	学習指導要領コード (5)
i_translation_cd_6	英数字	16	学習指導要領コード (6)

i_translation_cd_7	英数字	16	学習指導要領コード (7)
i_translation_cd_8	英数字	16	学習指導要領コード (8)
i_translation_cd_9	英数字	16	学習指導要領コード (9)
i_scoring_type	文字列	11	採点形式
i_difficulty	文字列	11	難易度
i_test_time_min	数値	-	想定所要時間 (分)
i_average_score	小数点付き数値	-	平均正答率
i_goal_score	小数点付き数値	-	目標値
i_level_id	英数字	11	受検級 ID
i_level_name	文字列	255	受検級名
i_perfect_score	英数字	11	満点点数
i_reserve_meta_1	文字列	255	予備メタ 1 (項番) 問題内の出現順 (項番) を表す情報。1 からの半角数字。
i_reserve_meta_2	文字列	255	予備メタ 2 (出典) 他の利用者が作成した問題を活用して本アイテムを作成した場合、利用者は本メタ項目を用いて出典となるコンテンツの問題タイトルとアイテム名を申告する。
i_reserve_meta_3	文字列	255	予備メタ 3
i_reserve_meta_4	文字列	255	予備メタ 4

	i_reserve_meta_5	文字列	255	予備メタ 5
	i_reserve_meta_6	文字列	255	予備メタ 6
	i_movie_voice_check	英数字	11	動画・音声提示素材有無
	i_speaking_check	英数字	11	スピーキング仕様有無
	i_create_user_display	文字列	255	作成者
	i_open_date_display	文字列	255	新規登録日時
	i_update_date_display	文字列	255	メタ情報更新日時
	interaction_meta_list	オブジェクト配列	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リクエストパラメータ「need_interaction」に「true」を指定した場合のみ出力</li> <li>・アイテムにインタラクションが存在しない場合は空配列</li> </ul>
	interaction_id	文字列	255	インタラクションコンテンツ ID
	interaction_type	文字列	255	インタラクションタイプ
	delivery_range_cd	文字列	255	デリバリ公開範囲コード
	school_list	オブジェクト配列	-	-
	school_id	文字列	13	学校 ID
	school_name	文字列	100	学校名

## 1.4 各種学習ツールとの連携における技術仕様

### 1.4.1 LTI による学習ツールの呼び出し

MEXCBT 以外の学習ツールとの接続において、LTI Core を用いる際のルールを次項の通り定める。Assignment and Grade Services v2.0 (AGS), Deep Linking v2.0 (DL)および Names and Role Provisioning Services v2.0 (NRPS)については 現時点では扱わないものとする。

#### 1.4.1.1 LTI v1.3 Core

それぞれの学習ツールの用途や機能によって、各ツールの TOP 画面の呼び出し、特定のコンテンツの呼び出し(例：デジタル教科書で TOP 画面を介することなく指定ページ、単元の画面を呼び出す)等を LTI Core(Resource Link Launch Request)を用いて実行する。

1EdTech™ Consortium の定める LTI v1.3 Core 仕様については、以下を参照すること。

<https://www.imsglobal.org/spec/lti/v1p3/>

以下に、LTI v1.3 Core に対して本モデルで追加する連携ルールを定める。

#### i) ユーザー

5.3.6 User Identity claims ( <https://www.imsglobal.org/spec/lti/v1p3/#user-identity-claims> )で定められているユーザーについて、パラメータに対して以下の通り規定する。

クレーム	Name	学習 e ポータル標準モデル	
		要否	規定の内容
User Identity claims	sub	REQUIRED ※	下記「sub について」を参照 ※Anonymous launch の場合を除く
	name	OPTIONAL	学習 e ポータルで、学習ツール上で表示されることを意図して登録された文字列 通称名やニックネームが用いられること
	given_name	OPTIONAL	
	family_name	OPTIONAL	

	middle_name	OPTIONAL	を想定する
Custom properties	grade	OPTIONAL	学習 e ポータル上でユーザーごとに登録された学年コード コード体系は「 <a href="#">資料 3</a> 」に記載
	classname	OPTIONAL	学習 e ポータル上でユーザーごとに割り当てられた主所属クラスの文字列

**\*学習 e ポータルから校務支援システムに対する利用者識別子 (UUID) の書き戻し**

すでに学習 e ポータルが導入されている学校において校務支援システムと学習 e ポータル間の連携を行うには、学習 e ポータル上にすでにあるユーザー識別のための利用者識別子 (UUID) を書き換える必要があるが、学習ツール等に対する影響を考慮すると、この書き換えは行わない方がよい。代わりに、学習 e ポータルで生成された利用者識別子 (UUID) を校務支援システムへ書き戻すことで連携を可能にすることもできる。この書き戻しには校務支援システム上の名簿情報と学習 e ポータル上の名簿情報の突合作業を必要とするため、学習 e ポータル事業者は利用者識別子 (UUID)、ユーザー名、所属学校、学年、所属クラス、出席番号の情報を含む名簿を出力できることが望ましい。

## sub について

「[1.3.1.1 LTI v1.3 Core](#)」と同様。

### ii) ロール

「[1.3.1.1 LTI v1.3 Core](#)」と同様。

### iii) コンテキスト

追加の規定はしない。

### iv) デプロイメント ID

「[1.3.1.1 LTI v1.3 Core](#)」と同様。

## 1.5 校務支援システムとの連携における技術仕様

校務支援システムとの連携については、学習 e ポータルの基盤機能として以下の要件を定めている。

- i) 学習 e ポータルは、OneRoster に基づいた名簿情報を校務支援システムから受け取ることができ、その情報を用いてユーザーの新規登録、更新、削除ができること。

名簿情報の受け取り方法およびユーザーの新規登録、更新、削除の具体的な方法に関するルールは規定しない。校務支援システムから出力される OneRoster 名簿情報については「[3.2 学習 e ポータルとの連携における技術仕様](#)」を参照すること。

## 1.6 LRS との連携における技術仕様

LRS との連携については、学習 e ポータルの基盤機能として以下の要件を定めている。

- i) 学習 e ポータルは、自身に組み込まれた LRS、または独立した LRS との間で、xAPI フォーマットで記録されたスタディ・ログを呼び出せること。
- ii) MEXCBT から受け取ったスタディ・ログを LRS に対して提供できること。

スタディ・ログの呼び出しおよび提供方法については xAPI 1.0.3 に従うこと。

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Communication.md#part-three-data-processing-validation-and-security>

## 2. 学習ツール

### 2.1 学習ツールの機能要件

学習 e ポータルおよび LRS との連携における、学習ツールの機能要件を挙げる。

表 2-1 学習ツール機能一覧

種別	要否	機能
基盤機能	MUST	学習 e ポータルとの連携
	MAY	LRS との連携

#### 2.1.1 基盤機能（詳細）

##### 2.1.1.1 学習 e ポータルとの連携

i) LTITools として、LTIPlatform である学習 e ポータルからの学習ツールの呼び出しに応じてコンテンツを提供する機能を備えること。

##### 2.1.1.2 LRS との連携

i) xAPI フォーマットに従ったスタディ・ログを LRS に対して提供できること。

本項目については教育データの利活用に際して必要不可欠であるが、2026 年 3 月時点において xAPI プロファイル「[2.3.1.1 xAPI プロファイル](#)」の整備がなされていないため、要求水準を MAY とする。

## 2.2 学習 e ポータルとの連携における技術仕様

### 2.2.1 LTI による学習ツールの呼び出し

学習 e ポータルとの接続において、LTI Core を用いる際のルールを以下の通り定める。Deep Linking v2.0 (DL)、Assignment and Grade Services v2.0 (AGS)、Names and Role Provisioning Services v2.0 (NRPS)等の Advantage サービスについては特に規定しない。

#### 2.2.1.1 LTI v1.3 Core

1EdTech™ Consortium の定める LTI v1.3 Core 仕様は、以下を参照すること。

<https://www.imsglobal.org/spec/lti/v1p3/>

学習 e ポータルから学習ツールに対する LTI Resource Link Launch Request は、「[1.3.1.1 LTI v1.3 Core](#)」で連携ルールを定めている。リクエスト時に学習 e ポータルから送信されるデータサンプルは、「[資料 5](#)」および「[資料 6](#)」を参考とすること。

本項では、学習ツールがこのリクエストに応答する際のルールを記載する。

#### i) ユーザー

この連携におけるユーザーの識別は利用者識別子 (UUID) のみを識別子として用いる。

OPTIONAL として、学習 e ポータルから次のユーザープロパティが送信されることがある。

これらのうち、“name”、“grade”、“classname”については、「[1.1.1.3 各種学習ツールとの連携](#)」に基づき連携する学習 e ポータルに対して送信を要求することができる。

クレーム	Name	学習 e ポータル標準モデル	
		要否	規定の内容
User Identity claims	name	OPTIONAL	学習 e ポータルで、学習ツール上で表示されることを意図して登録された文字列
	given_name	OPTIONAL	

	family_name	OPTIONAL	通称名やニックネームが用いられることを想定する
	middle_name	OPTIONAL	
Custom properties	grade	OPTIONAL	学習 e ポータル上でユーザーごとに登録された学年コード コード体系は「 <a href="#">資料 3</a> 」に記載
	classname	OPTIONAL	学習 e ポータル上でユーザーごとに割り当てられた主所属クラスの文字列

学習ツールは、リクエストに対する応答としてこれらの一部または全てを使用する場合、個人情報の取り扱いについて関係する自治体、学校および学習 e ポータル事業者と事前に取り決めが必要であることに注意しなければならない。使用しない場合は、これらの値を受け取らずに破棄すること。

学習 e ポータルによっては、“sub”クレームを含まない場合がある。5.3.6.1 Anonymous launch case( <http://www.imsglobal.org/spec/lti/v1p3/#user-identity-claims> )に従い、その場合は匿名ユーザーからの呼び出しとして解釈する必要がある。

## ii) ロール

利用可能なロールは、「[資料 4 : ロール一覧](#)」より各学習ツールがそれぞれ選択し、各ロールに対する解釈も学習ツールごとに定める。

学習 e ポータルが“sub”クレームを含めずに匿名ユーザーによる呼び出しを意図している場合、この値が空で送られることがある。この場合でも、匿名ユーザーからの呼び出しとして解釈する。

## iii) デプロイメント ID

「[1.3.1.1 LTI v1.3 Core](#)」で定められている通り、デプロイメント ID には学校コードまたは自治体コード、都道府県コードが用いられる。学習ツールはこの値を、呼び出しを行ったユーザーの所属する組織に関する情報として利用しても良い。

## 2.3 LRS との連携における技術仕様

### 2.3.1 xAPI フォーマットでのスタディ・ログの提供

学習ツールが xAPI フォーマットにてスタディ・ログを LRS に提供する際の、提供方法に関する技術仕様については「[4. LRS](#)」を参照すること。

学習ツールが xAPI フォーマットにてスタディ・ログを LRS に提供する際の、そのステートメントの記述方式に関するルールを記載する。

xAPI は学習ツール上での学習活動を JSON 形式で表現し、その構成要素は以下の通り。

- <actor> : 誰が
- <object> : 何を
- <verb> : どうしたか
- <result> : 学習の結果
- <context> : 学習の文脈

xAPI ではさまざまな学習活動を表現することができるが、複数の学習ツールから集められたスタディ・ログをツールごとのみならず、横断的に活用するためには、xAPI ステートメントの記述方式が揃っていることが望ましい。xAPI では、プロファイルと呼ばれる学習活動の種類ごとの記述方式に対するルールを定めることでこれに応えることができる。本モデルで採用するプロファイルと上記の構成要素に対するルールを以下に示す。

#### 2.3.1.1 xAPI プロファイル

本モデルで採用する xAPI プロファイルは、文部科学省「教育データ標準」にて定められたものに準ずる。

具体的には、デジタル庁「教育関連データのデータ連携の実現に向けた実証調査研究における校務支援システム、学習支援システム（LMS,LRS）、関連する教育アプリとの間の教育データ連携の実証研究」等の実証事業成果や所定の手続きを踏まえて順次公表予定。

### 2.3.1.2 actor

ADL の定める xAPI における actor は以下を参照すること。

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Data.md#2424-account-object>

本モデルではこれに対して、以下の規定を追加する。

Property	学習 e ポータル標準モデル	
	要否	規定の内容
homePage	REQUIRED	name にアカウントを提供する学習 e ポータルの IRI
name	REQUIRED	連携するシステム間でのユーザー特定のために、学習 e ポータル上が保持している利用者識別子 (UUID)

### 2.3.1.3 context

ADL の定める xAPI における context は以下を参照すること。

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Data.md#context>

本モデルではこれに対して、以下の規定を追加する。

Property	学習 e ポータル標準モデル	
	要否	規定の内容
contextActivities	REQUIRED	以下の値を含めなければならない。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ LRP 名称およびそのバージョン</li><li>・ 参照したプロファイルのバージョン情報</li></ul> <p>[LRP 名称]および[バージョン]は、学習ツールごとに定める。参照した xAPI プロファイルが複数ある場合には、そのすべての情報を記述する。</p> <p>記述例： "category" : [</p>

		<pre> {   "id" : "http://id.tincanapi.com/activity/lrp/ [LRP 名 称] / [バージョン] ",   "definition": {     "type": "http://id.tincanapi.com/activitytype/source"   } }, {   "id" : "[参照したプロファイルのバージョン情報 &lt;IRI&gt;]",   "definition": {     "type": "http://adlnet.gov/expapi/activities/profile"   } } ] </pre>
--	--	---

## 3. 校務支援システム

### 3.1 校務支援システムの機能要件

学習 e ポータルとの連携における、校務支援システムの機能要件を挙げる。

表 3-1 校務支援システム機能一覧

種別	要否	機能
基盤機能	MUST	学習 e ポータルとの連携

#### 3.1.1 基盤機能（詳細）

##### 3.1.1.1 学習 e ポータルとの連携

- i) 校務支援システムは、OneRoster に基づいた CSV 形式の名簿情報を出力できること。

## 3.2 学習 e ポータルとの連携における技術仕様

校務支援システムにおける OneRoster に基づいた名簿情報の出力についてのルールを定める。

#### 3.2.1 全般

OneRoster のバージョンは 1.2 を、CSV Binding についてはバージョン 1.2.1 を採用し、CSV 形式による出力についてのみ規定する。

1EdTech™ Consortium の定める OneRoster v1.2 は、以下を参照すること。

<https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2>

CSV 形式による出力については以下を参照すること。

<https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/>

## 3.2.2 OneRoster Japan Profile

OneRoster は国際技術規格であるため、名簿情報で受け渡し可能な項目の中には日本の学校教育環境独自の解釈が必要なものや、OneRoster では必須項目として定義されていないが日本では重要度が高い項目について、OneRoster Japan Profile として追加の仕様が規定される。Japan Profile は一般社団法人 日本 1EdTech 協会によって検討およびドキュメント化が進められている。「[I-1.1 本モデルの位置づけ](#)」で記載した通り、本モデルではこの OneRoster Japan Profile をベースとする。

OneRoster Japan Profile は、以下を参照すること。

<https://www.1edtechjapan.org/orjpp>

## 3.2.3 名簿情報の連携

3.2.2 で示した Japan Profile は、学習 e ポータルと校務支援システム間に限定されたものではなく、様々なシステムが日本において OneRoster を用いる場合の規定である。

本モデルでは、OneRoster による学習 e ポータルと校務支援システム間での名簿情報の受け渡しについて、CSV 形式での受け渡しの場合における各 CSV ファイルのデータ項目に対するルールを設ける。その内容を以下に示す。

### 3.2.3.1 データ形式

各項目の値は、以下の形式に従って出力されること。

- ・ 取り扱う日本語文字集合の範囲：JIS X 0213
- ・ 文字コード：ISO/IEC 10646
- ・ 文字の符号化形式：UTF-8（BOM なし）
- ・ 値はすべて「"」で囲む
- ・ カタカナを使用する場合は全角

出力する ZIP ファイルのファイル名は、以下のルールに従って命名する。

A. ファイル名は、以下の形式に従って命名する。

RO\_YYYYMMDD\_[教育委員会コード または 学校コード].zip

※RO：名簿情報(Roster)であることを示す文字列

※YYYYMMDD：名簿情報がいつの時点での状態なのかを表す日付

B. 学校ごとに 1 ファイルとして出力する場合には、ファイル名に学校コードを用いる  
使用するコードは、文科省「学校コード」に従う

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

C. 複数の学校を 1 ファイルにまとめて出力する場合には、ファイル名に教育委員会コードを用いる。ファイルに含まれる複数の学校の学校設置者に相当する教育委員会コードを使用し、学校設置者の異なる複数の学校を 1 ファイルにまとめてはならない  
使用するコードは、文科省「教育委員会コード」に従う

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_00004.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_00004.html)

D. 複数の私立学校を 1 ファイルにまとめる場合には、教育委員会コードの代わりに法人コードを使用しても良い

以下に、具体例を示す。

2023 年 4 月 4 日時点における、複数の北海道立学校(北海道教育委員会が学校設置者である複数の学校)を対象に出力する場合、北海道教育委員会コード：011000 を用いて、

→ RO\_20230404\_011000.zip

2023 年 4 月 4 日時点における、複数の秋田市立学校(秋田市教育委員会が学校設置者である複数の学校)を対象に出力する場合、秋田市教育委員会コード：052201 を用いて、

→ RO\_20230404\_052201.zip

2023 年 4 月 4 日時点における東京都江戸川区立学校を対象に出力する場合、江戸川区教育委員会コード：132123 を用いて、

→ RO\_20230404\_132123.zip

### 3.2.3.2 名簿種別

校務支援システムが出力する名簿種別ごとの対応要否は以下の通り。

名簿種別	OneRoster ロール	要否	備考
児童生徒	student	MUST	
教職員	teacher	MUST	以下の名簿種別は教職員に含める ・管理職（教育委員会等） ・管理職（学校） ・学校長・教育長
管理職 （教育委員会等）	districtAdministrator	MAY	このロールでも出力する場合には、roleType : secondary とする ※primary ロールは「teacher」
管理職（学校）	siteAdministrator	MAY	
学校長・教育長	principal	MAY	
保護者	guardian	MAY	
アシスタント	aide	MAY	
カウンセラー	counselor	MAY	
保護者	parent	MUST NOT	guardian に統合
試験監督	proctor	MAY	
保護者	relative	MUST NOT	guardian に統合
システム管理者	systemAdministrator	MAY	

### 3.2.3.2.1 児童生徒名簿

児童生徒名簿の出力について、以下の通り規定する。

- A. ファイル名で指定した日付時点で、対象となる学校に在籍中のすべての児童生徒を出力する
- B. 各児童生徒には、指定日付時点において所属している学級(学籍クラス)がある場合、その学級を Enrollments にて関連付ける。

### 3.2.3.2.2 教職員名簿

教職員名簿の出力について、以下の通り規定する。

- A. ファイル名で指定した日付時点で、対象となる学校に在職中のすべての教職員を出力する
- B. classType:="homeroom"である class には必ず、いずれかの教職員 1 名を Enrollments にて関連付ける
- C. 以下の教職員を出力するかは任意とする
  - ・管理職（教育委員会等）
  - ・管理職（学校）
  - ・学校長・教育長

ただし出力する場合は、primary ロールを「teacher」とし、secondary ロールを各役割に応じた OneRoster 上のロールにする

### 3.2.3.3 CSV フォーマット

#### 3.2.3.3.1 manifest.csv

##### 3.1

'manifest.csv'( <https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/#manifest-csv> )で定められている manifest.csv データの項目について、以下の通り規定する。

属性名	規定の内容
manifest.version	1.0
oneroster.version	1.2_JP
file.academicSessions	bulk
file.categories	absent
file.classes	bulk
file.classResources	absent
file.courses	bulk
file.courseResources	absent
file.demographics	bulk または absent
file.enrollments	bulk
file.lineItemLearningObjectiveIds	absent
file.lineItems	absent
file.lineItemScoreScales	absent
file.orgs	bulk
file.resources	absent
file.resultLearningObjectiveIds	absent
file.results	absent
file.resultScoreScales	absent
file.roles	bulk
file.scoreScales	absent
file.userProfiles	bulk または absent
file.userResources	absent
file.users	bulk

上記の規定により、出力が必須となるファイルは以下の通り。

- academicSessions.csv
- classes.csv
- courses.csv
- enrollments.csv
- orgs.csv
- roles.csv
- users.csv

出力が任意となるファイルは以下の通り。

- demographics.csv
- userProfiles.csv

なお、userProfiles.csv は任意であるものの、各ユーザーの vendorId および applicationId が示されることは、学習 e ポータルにとって、データの真正性を確認する際に有益であることから、出力されることが望ましい。

### 3.2.3.3.2 academicSessions.csv

#### 3.2

'academicSessions.csv'( <https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/#academicSessions-csv> )で定められている academicSessions.csv データの項目について、以下の通り規定する。

項目	学習 e ポータル標準モデル	
	要否	規定の内容
title	REQUIRED	出力される名簿情報の年度

### 3.2.3.3.3 classes.csv

3.4 'classes.csv'( <https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/#classes-csv> )で定められている classes.csv データの項目について、以下の通り規定する。

項目	学習 e ポータル標準モデル	
	要否	規定の内容
classCode	OPTIONAL	クラスを識別するコードを保持している場合：1年1組、1年A組ともに、0101等共通のコードに置き換える等した値
classType	OPTIONAL	学籍クラスの場合：「homeroom」 習熟度別等、授業の単位や、クラブ・委員会情報の場合：「scheduled」
subjects	OPTIONAL	指定する場合：教科コードの内容を用いる コード体系は「資料3」に記載
subjectCodes	OPTIONAL	指定する場合：教科コードを用いる コード体系は「資料3」に記載

### 3.2.3.3.4 courses.csv

3.7 'courses.csv'( <https://www.imglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/#courses-csv> )で定められている courses.csv データの項目について、以下の通り規定する。

項目	学習 e ポータル標準モデル	
	要否	規定の内容
title	REQUIRED	学籍クラスの場合：【AcademicSession.Title】 + 「ホームルーム」 授業に関するクラスの場合：【AcademicSession.Title】 + 教科名
subjects	OPTIONAL	指定する場合：教科コードの内容を用いる コード体系は「資料3」に記載
subjectCodes	OPTIONAL	指定する場合：教科コードを用いる コード体系は「資料3」に記載

### 3.2.3.3.5 enrollments.csv

3.9

'enrollments.csv'( <https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/#enrollments-csv> )で定められている enrollments.csv データの項目について、以下の通り規定する。

学習 e ポータル標準モデル		
項目	要否	規定の内容
role	REQUIRED	以下の通り使用する 児童生徒の場合：「student」 教職員の場合：「teacher」 教職員(管理職)の場合：「administrator」 ※ただし、校務支援システムから出力するユーザーデータは「administrator」を用いず、教育委員会を含む教職員全てを「teacher」で出力する。
primary	REQUIRED	児童生徒の場合：「False」 教職員の場合： "homeroom"クラスと関連付けする場合 クラス担任の場合「True」 上記以外は「False」 "scheduled"クラスと関連付けする場合 主たる教科担任の場合「True」 上記以外は「False」

### 3.2.3.3.6 orgs.csv

3.13 'orgs.csv'( <https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/#orgs-csv> )で定められている orgs.csv データの項目について、以下の通り規定する。

学習 e ポータル標準モデル		
項目	要否	規定の内容
identifier	REQUIRED※	※name の値で、文科省学校コード一覧に記載されている学校名を使用している場合は必須とし、学校名に該当する学校コードを

		用いる
--	--	-----

### 3.2.3.3.7 roles.csv

3.18 'roles.csv'( <https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/#roles-csv> )で定められている roles.csv データの項目について、以下の通り規定する。

項目	学習 e ポータル標準モデル	
	要否	規定の内容
role	REQUIRED	以下の通り使用する 児童生徒の場合：「student」 教職員等の場合：「teacher」

### 3.2.3.3.8 users.csv

3.22 'users.csv'( <https://www.imsglobal.org/spec/oneroster/v1p2/bind/csv/#users-csv> )および OneRoster Japan Profile で定められている users.csv データの項目について、以下の通り規定する。

項目	学習 e ポータル標準モデル	
	要否	規定の内容
enabledUser	REQUIRED	True (固定値)
username	REQUIRED	主となる Idp で発行する Primary のログイン ID/クラウド ID を有しない場合、各システムにおける識別 ID 等を使用する
grade	REQUIRED※	※role が"student"の場合のみ
userMasterIdentifier	REQUIRED	下記「userMasterIdentifier について」を参照
preferredGivenName	REQUIRED	画面に表示する文字列 (名) 通称名、もしくは表示名を登録する機能を有する校務支援システムでは、その値を入れる。その際、外字が含まれないことが望ましい。

preferredFamilyName	REQUIRED	画面に表示する文字列（氏） 通称名、もしくは表示名を登録する機能を有する校務支援システムでは、その値を入れる。その際、外字が含まれないことが望ましい。
preferredMiddleName	OPTIONAL	画面に表示する文字列（ミドル） 通称名、もしくは表示名を登録する機能を有する校務支援システムでは、その値を入れる。その際、外字が含まれないことが望ましい。
metadata.jp.kanaGivenName	REQUIRED	全角カタカナを使用する
metadata.jp.kanaFamilyName	REQUIRED	全角カタカナを使用する
metadata.jp.kanaMiddleName	OPTIONAL	全角カタカナを使用する
metadata.jp.homeClass	OPTIONAL	

### userMasterIdentifier について

userMasterIdentifier には、連携するシステム間でのユーザー特定のために、校務支援システム上で各ユーザーに割り当てられた識別子を用いる。この識別子は、以下の方法で生成されたいずれかを用いる。

- ① 自校務支援システムにて生成された利用者識別子（UUID）
- ② 学習 e ポータルにて生成され、自校務支援システムに登録された利用者識別子（UUID）
- ③ 他校務支援システムによって生成され、自校務支援システムに登録された利用者識別子（UUID）

原則としては①を使用する。ただし、②または③が存在する場合にはそちらを優先して使用する。これに伴い、本連携を行う校務支援システムは、以下の機能が求められる。

- ・連携するシステム間でのユーザー特定のための利用者識別子（UUID）を生成できること
- ・自他問わず、生成された利用者識別子（UUID）を各ユーザーに割り当て登録できること

UUID の生成は version4 に従い、満たすべき乱数の品質や各プログラミング言語における UUID version4 の生成方法の具体例は「[資料 2 : UUID の生成](#)」を参照すること。なお、これにより実装される UUID の生成に関する機能は、上記目的以外にも、例えば OneRoster の各 CSV ファイルにおける SourcedId 等に使用しても構わない。

## 4. LRS

### 4.1 LRS の技術仕様

MEXCBT をはじめとするさまざまな学習ツールで記録された、xAPI 形式で標準化されたスタディ・ログを蓄積する役割を担う LRS (Learning Record Store) について、本モデルにおいて定める技術仕様を示す。

LRS とは、xAPI ステートメントの受信、保存、およびアクセスの提供を担うサーバーのことであり、ADL によって国際技術規格が定められている。LRS には独立システムとしての LRS と、LMS (学習 e ポータルが相当) に組み込まれる LRS の 2 種類があるが、本モデルでは、その両方を規定の対象として想定する。

#### 4.1.1 全般

LRS の国際規格は、ADL の定める xAPI 1.0.3 より、以下を参照すること。

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Communication.md#part-three-data-processing-validation-and-security>

本モデルにおける LRS では、この仕様のすべてを満たす必要はなく、以下の項目において Must 要件として定められているものを満たせば良い。なおこれにより、ADL の仕様に完全準拠しないことから、厳密には LRS とは呼べなくなるが、ここでは便宜上 LRS と呼び続けるものとする。

##### 1.0 Requests

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Communication.md#10-requests>

##### 2.1 Statement Resource

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Communication.md#21-statement-resource>

##### 3.0 Data Validation

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Communication.md#30-data-validation>

### 3.2 Error Codes

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Communication.md#32-error-codes>

### 3.3 Versioning

<https://github.com/adlnet/xAPI-Spec/blob/master/xAPI-Communication.md#33-versioning>

上記に加えて、2.1.3 GET Statements に以下の規定を追加する。

項目	学習 e ポータル標準モデル	
	要否	規定の内容
agent	REQUIRED	指定された actor.account.name または actor.account.homePage に一致する Agent もしくは Group のあるステートメントのみを返すこと。両方が指定された場合はその組み合わせに一致するステートメントのみを返すこと 指定例： agent={"account": { "name":"<利用者識別子 (UUID) >", "homePage":"<IRI>" } }
categoryId	REQUIRED	本モデルにおいて独自に規定する項目 context.contextActivities.category[*].id が指定され、指定された値に一致するステートメントのみを返すこと
categoryType	REQUIRED	本モデルにおいて独自に規定する項目 context.contextActivities.category[*].definition.type が指定され、指定された値に一致するステートメントのみを返すこと

これらは「[2.3.1 xAPI フォーマットでのスタディ・ログの提供](#)」で、学習ツール（LRP）でのステートメント生成ルールを定めた項目である。これにより LRS は、データの利用者がこのフィルタを用いることによって、本モデルに適合するステートメントのみを指定して呼び出せなければならない。

## 4.1.2 認証・認可

本モデルにおける、LRS での認証および認可方法は以下の通りとする。

- OAuth2.0 (RFC 6749, RFC 6750, RFC 7523)

認可付与タイプは“Client Credentials”とする。鍵の生成は、LRS と LRP のどちらが行っても良い。ただし、LRS 提供者と LRP 提供者の間で鍵の受け渡しを行う場合、受け渡しの際の機密性には十分に配慮すること。アクセストークンのリクエストはベアラートークン (RFC 6750) を使用する。これは、JSON Web Token (JWT) Bearer Token の使用を推奨する。LRS は、JWT の処理において、Must 要件以外にも「iat」クレームおよび「jti」クレームによってトークンの発行時刻や繰り返し使用に関する検証が行えることが望ましい。

### LRS ⇄ LRP (Learning Record Provider) OAuth 2.0 仕様)

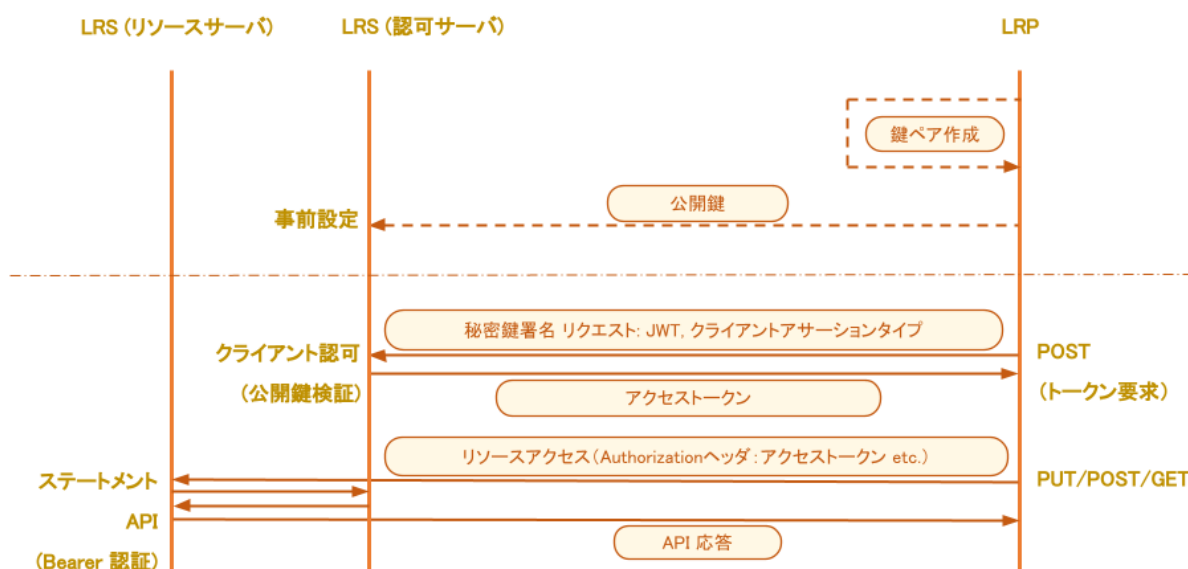


図 4-1 プロトコルフロー(LRP 側が鍵生成する場合)

加えて LRS は、以下の認可制御を行えることが望ましい。(RECOMMENDED)

- PUT、POST、GET、DELETE の各リクエストに対する応答可否をクライアントごとに分けて制御できること
- 上記制御にかかる設定を学校設置者の求めに応じて実行できること

### 4.1.3 ステートメントの共有

LRS 間でのステートメントの共有は、xAPI の有益な機能の一つであり、以下に示すような方法がある。

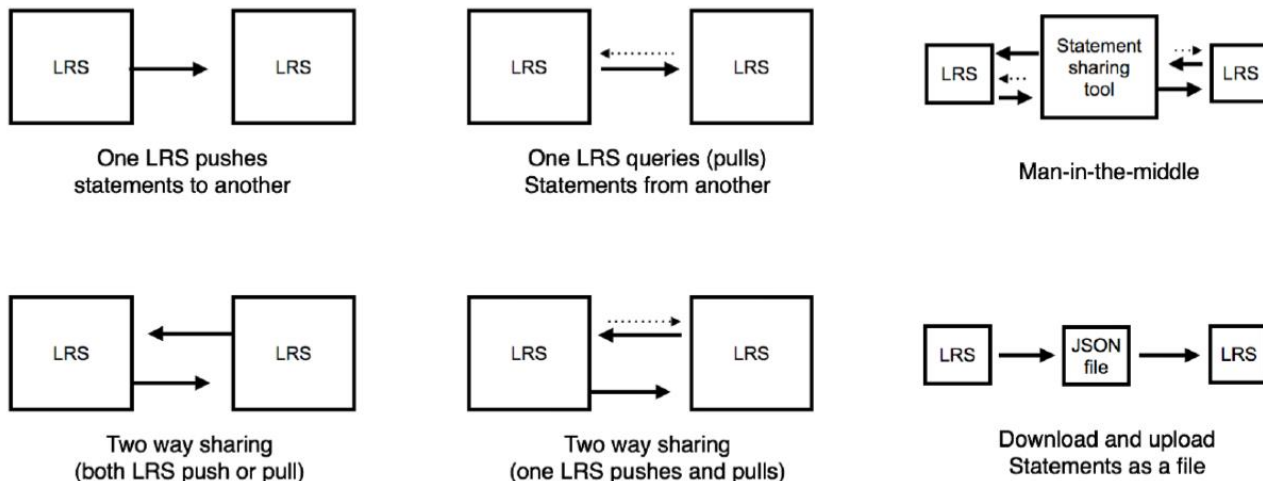


図 4-2 LRS 間におけるデータ共有方法のパターン( <https://xapi.com/sharing-statements/> )

本モデルにおける LRS は、このすべての方法をサポートする必要はないが、複数の方法について対応できることが望ましい。また LRS 間だけでなく、BI ツールなどの非 LRS システムに対してもステートメントを出力できることが望ましい。

#### 4.1.4 xAPI ステートメント以外の取り扱い

LRS では、xAPI ステートメントを保存する以外にも、以下のような情報を扱うことが可能である。

#	リソース名	API エンドポイント	内容
1	State Resource	activities/state	デバイス間での状態情報の維持等の用途で利用するスクラッチ情報
2	Agents Resource	agents	メールアドレス等の個人情報（同時実行制御の利用も想定）
3	Activities Resource	activities	アクティビティ（ID）情報（同時実行制御の利用も想定）
4	Agent Profile Resource	agents/profile	エージェントに関連する任意のキー／ドキュメントペア情報
5	Activity Profile Resource	activities/profile	アクティビティに関連する任意のキー／ドキュメントペア情報

本モデルにおいては、これらの情報を LRS に対して保存してはいけないものとする。

## 5. 将来像と課題

標準化に基づく、相互運用性を持つさまざまなソフトウェアの連携は、提供されるソフトウェアと利用するユーザー（児童生徒と教職員）の数があれば増えるほどその利便性や価値が増すため（ネットワーク外部性）、参加する人たちに相乗効果が生まれるエコシステムが早急に拡大していくことが望ましい。ここでは学習 e ポータルをハブとした日本の初等中等教育におけるデジタル学習環境の将来像と実現のための課題について、相互運用標準モデルに関する専門家会議や ICT CONNECT 21 の各サブワーキンググループ、ICT CONNECT 21 のアライアンス団体である教育 DX を推進するさまざまな団体におけるこれまでの議論の中での意見をもとに、主に技術的な観点から整理して列挙する。

### 5.1 利用者識別子としての UUID の取扱い

学習 e ポータルのハブとしての機能を最大限生かすために、利用者識別子 (UUID) について、学習 e ポータル、校務支援システム、学習ツールや LRS の全てにおいて、1 人に 1 つの利用者識別子 (UUID) を振ることを原則とした場合、他の属性情報を利用して名寄せすることなく、利用者識別子 (UUID) のみでデータの集約が可能となる。

現時点では、在籍校以外で授業等を受けるケース、ある教員が別の学校でも教えるケース、転学・進学時等に 1 人に複数の UUID が振られているケースが想定される。

データの利活用の推進のため、児童生徒の転学・進学、教職員の異動のほか、システムの移管時における利用者識別子 (UUID) の取扱いについて、UUID の振り出しや引継ぎに関する実態を把握しつつ、検討・ルール化の必要がある。

### 5.2 学習 e ポータルと学習ツールの連携の強化

多種多様な学習ツールが学習 e ポータルと連携すれば、ユーザーにとっての利便性が向上するとともに、選択肢が増え、教材利用の自由度が増す。一方、その実現のためには課題も存在する。これまで議論されているさまざまな将来像とその課題を以下に示す。

## 5.2.1 LTI による認証とアカウント管理の不要化

初等中等教育段階の学校では、デジタル教科書・教材やいろいろな機能を持つツールなどが利用されているが、現状ではほとんどの学習ツールは独自にアカウントを管理している。シングルサインオンの普及によって、ID とパスワードの入力による独自の認証は減ったが、年次更新などのアカウント管理の手間、ID やパスワードを間違えたり忘れたりしたときの対応など、多くの作業が重複して発生しており、無駄が生じている。現状は特に新入生にとってアカウントが設定されるまで学習ツールが利用できない状況が生じており、新年度が始まってしばらくたつまでまったく使えないといった例も少なくない。また、個人情報に相当する情報が別々に管理されていることは、それだけ漏洩のリスクも高くなっている。

LTI による学習 e ポータルと学習ツールの連携は、シングルサインオンの実現に留まらず、学習ツールによるユーザー認証そのものを不要にできる可能性を持つ。MEXCBT は数百万のユーザーに対してサービスを提供しているが、LTI の活用によってアカウントを事前に設定する必要がなく、学習 e ポータルと認可情報をやり取りすることでセキュアに機能している。同様に機能する学習ツールが増えれば、アカウント管理の手間を削減することや学習ツールごとのアカウントの年次更新を不要とすることができるようになるため、教育委員会や教職員の負担を軽減でき、さらにセキュリティのリスクも低減できる。この実現のためには、学習ツール側の対応が必要になるほか、学習 e ポータルと学習ツール間や学校設置者との間の契約の整理、費用負担の仕組みの確立と維持、さらには学習 e ポータル、学習ツール、学校設置者などステークホルダー間の信頼関係の醸成と維持などさまざまな課題はあるが、実現したときのメリットは大きく、大いに検討する価値がある。

システムやサービスを利用可能な状態にするための一連の準備・設定・供給プロセスをプロビジョニングと呼び、ユーザーのアカウント情報の設定をアカウントのプロビジョニングと呼ぶ。アカウントのプロビジョニングやシングルサインオンの実現にはさまざまな方法があり、単一の方法ですべてをカバーする必要はないが、LTI が有効である部分には大いに活用し、デジタル学習環境全体の手間やリスクを低減するよう努力すべきである。

令和 5 年度はデジタル庁「教育関連データのデータ連携の実現に向けた実証調査研究」において、複数の学習 e ポータルと複数の学習ツール間の連携の実証 (実証Ⅱ) が行われ、事前にアカウントの設定を行わずに動作させる条件の検証も行われた。特に国費負担で提供されるデジタル教科書は LTI で信頼性の高い連携を行うことで人手によるアカウント管理を不要にできる可能性が示されていた。これを元に一部のデジタル教科書ビューアでこの方式に基づいた運用が行われており、教育委員会や学校の側にはデジタル教科書ビューアでの年次更新の作業自体を不要にすること、提供事業者の側には問い合わせ対応の負荷の大幅な減少などの効果が生まれている。

一方で、本モデルにおけるすべての学習ツールがこのような方式で接続されるべきか、という点には検討の余地がある。学習ツールによっては、十分な学習的価値を発揮するためにユーザー属性情報があることが望ましいものや、それらをユーザーが利用開始する前に事前に取得しておくことが望ましいものなども存在するため、このような学習ツールと学習 e ポータルとの接続についても引き続き検討が必要である。

### 5.2.2 LTI Core を利用したユーザー属性情報の連携

学習ツールによっては、動作するために学年やクラスなど学習者のいくつかの属性情報を必須とするものがある。アカウント管理を不要にするためには、これら必須の情報を何らかの方法で取得する必要がある。学習ツールがこれらの情報を事前に必要とするのでなければ、LTI で学習 e ポータルから呼び出されたときにパラメータとして取得すればよい。

標準モデル Ver.5.00 では、これまで Optional であったこれらの属性の受け渡し方法を明確化して仕様にまとめたことにより、LTI Core で学年、クラス、表示名の属性情報の連携が行なえるようになっている。この方法で動作する学習ツールが増えれば、上記の状況と同様に、年次更新の負担軽減などの効果が期待できる。

### 5.2.3 学習ツールがユーザー属性情報を事前に必要とする場合への対応

学習ツールによっては、クラスなどのユーザーの属性情報を事前に設定して、それに基づいた動作を行うものがある。この場合、LTI Core による呼び出し時にパラメータとして属性情報が受け渡されるのでは十分ではなく、何らかの方法で利用開始前に情報を設定する必要があるが、これまでは学校の先生や教育委員会でそれらの情報をまとめる負荷がかかっていた。

この負荷の軽減のためには、学習ツールで共通する、必要なユーザー属性情報の標準化が行われ、それらの情報をすべての学習 e ポータルが保持することにするルール化が必要となる。その上で、それらの情報を受け渡すための、費用対効果に見合う技術的な方法を検討することになる。

## 5.2.4 LTI Core の事前設定の簡易化

LTI で学習 e ポータル (Platform) と学習ツール (Tool) を連携させるとき、相互の認証などのためにエンドポイント URL などのいくつかの情報を事前に交換して設定しておく必要がある。この作業は現状では多くの場合エンジニアの手作業で行われている。この作業はある学習ツールとある学習 e ポータルを最初に接続するときに設定するだけで済み、例えば年度ごとに再作業を行う必要はないが、手間は最小限になっていることが望ましい。

令和 5 年度には、国際規格団体である 1EdTech で類似の目的で策定中の規格の調査など、いくつかの方式について検討を行った。LTI の事前設定は 1 度行えば済む作業ではあるため、新規に機能を実装するコストとの費用対効果を考えると現時点で標準化して自動化することのメリットは小さいと判断されている。

将来的に、適合性評価における接続テストが実施されるようになった際には、接続テスト環境への接続のために、これらの LTI の事前設定に必要ないくつかの情報は接続テスト環境に対して登録される。これを学習 e ポータルとの接続を希望する学習ツールへの提供にも流用すれば、手間が軽減できることも考えられる。

## 5.2.5 単元ごとの細分化による利便性の向上

これまでのデジタル教科書・教材やさまざまなドリルなどの多くは、ログインするとそのトップページが表示され、そこから各単元に相当する部分にリンクするといった、その学習ツールに閉じた構造を取っていた。一方 MEXCBT は、あらかじめ学習 e ポータルの画面上で適切なテストを選択して設定しておくことで、テストごとに学習 e ポータルから直接呼び出すことができるようになっている。デジタル教科書・教材やドリルなどのさまざまな学習ツールが、単元ごとのリンク先 (URL、あるいは URI) を持ち、学習 e ポータルから各単元に直接連携できるような構造になれば、教員や児童生徒にとって便利になり、限られた授業時間を有効に使うことができるようになる。

令和 5 年度はデジタル庁「教育関連データのデータ連携の実現に向けた実証調査研究」において、複数の学習 e ポータルと複数の学習ツール間の連携の実証 (実証Ⅱ) が行われ、この単元ごとの連携の検証も行われた。技術的には実現可能であるが、デジタル教科書・教材やドリルに含まれる複数のコンテンツに単元ごとの URL あるいは URI が振られているように改修する必要があるとともに、その情報を事前に学習 e ポータルに伝える標準規格の検討が必要である。さらなる検討と実証が待たれる。

## 5.2.6 LTI Deep Linking 2.0 によるツールとのきめ細かな連携

MEXCBT では LTI Deep Linking 2.0 を活用して、膨大な種類のテストの中から教職員や学習者が適切なものを検索して、それをあらかじめ学習 e ポータルに登録しておくことができるようにしている。

多くのドリルやビデオ教材などを集積して提供している学習ツールは、LTI Deep Linking 2.0 に対応することにより、MEXCBT と同様に、教職員や学習者が学習 e ポータルから単元などで細分化されたテストやドリル、ビデオ教材などを直接選択できるようにすることができる。

## 5.2.7 相互運用性の確立のためのメタデータの標準化

そのデータがどんなものであるかを表しているデータをメタデータと呼ぶ。例えばあるデジタル教科書・教材であれば、そのコンテンツがどの学年のどの教科のどの単元を扱っていて発行者はどこかなどの情報が必要となるが、それらはコンテンツメタデータと呼ばれる。このコンテンツメタデータを標準化し、流通させるための技術規格を決めておけば、さまざまな用途に活用できる。例えば現在、教育 DX サービスマップがデジタル庁によって運営されているが、さまざまなサービスの内容を示すメタデータを標準化しておけば、情報収集の負荷が減らせると共に、収集を自動化して更新のタイムラグを削減できる可能性がある。

## 5.2.8 学習内容に関するより詳細な共通単位の活用

学習指導要領の記述内容よりも具体的なレベルの学習内容を共通の単位として活用できれば、よりきめ細かなデータ活用が可能となり、利便性がさらに高まる。

これには、共通の単位をどのように定めるか、実現するための費用負担など、解決すべき論点が多い。

## 5.2.9 スケジュール管理やタスク管理機能

時間割やカレンダー、課題や提出物とその期限などを管理する機能を学習 e ポータルが実装し、それとさまざまなツールを結び付けて管理すれば、学習に関する事柄を一元的に管理するこ

とができる。これらの機能が活用できれば、教職員は授業の内容や目標、教科書の単元や参考資料、課題や宿題などを学習 e ポータルに登録し、学習者は自分のスケジュール/タスク管理画面等で確認しながら、自分の学びを自分で管理することができる。また、学習者が自らの学習計画を立てたり、教材を選択したり、自己評価を行ったりすることを可能とするなど、自己調整学習を支える道具の一つとしての機能を持たせることも有効であると考えられる。

### 5.2.10 MEXCBT との安定した連携

学習 e ポータルの主要な機能のひとつは MEXCBT への入り口としての機能であり、可能な限り不具合を減らし、動作を保証すべきである。文部科学省が MEXCBT と学習 e ポータルとの間の接続テスト環境を提供し運営しているが、これを MEXCBT の機能拡張に合わせて更新、運営していく必要がある。

## 5.3 校務支援システムと学習 e ポータルの連携の強化

標準モデルでは OneRoster CSV を利用して校務支援システムから学習 e ポータルに名簿情報を送る方法が規定されている。年次更新を含むアカウントの設定 (アカウントのプロビジョニング) の手間を可能な限り低減する方法として普及が期待されている。一方、これはファイルを人手を介して連携させる方法で、負担がかかるとともにミスリスクも存在する。

令和 6 年度のデジタル庁「教育関連データのデータ連携の実現に向けた実証調査研究」において、校務支援システムと学習 e ポータルの間を OneRoster REST 規格を利用して API で自動連携させる実証 (実証 I) が行われた。この方法では、強固なアクセス制御<sup>1</sup>に基づくセキュリティ対策が講じられている前提で校務系・学習系ネットワークが統合されている環境であれば、教職員が名簿情報を校務支援システムに登録すると、自動的に学習 e ポータルに連携されるようにな

---

<sup>1</sup> インターネットを通信経路とする前提で、内部・外部からの不正アクセスを防御するために、多要素認証による利用者認証、端末認証、端末・サーバー・通信の監視・制御等を組み合わせたセキュリティ対策を指す。利用者毎に情報へのアクセス権限を適切に設定するとともに、①アクセスの真正性、②端末・サーバー・通信の安全性の観点から、端末とクラウドサービスを提供するサーバー間の通信を暗号化し、認証により利用者のアクセスの適正さを常に確認しなければならない。

る。このような実証の結果等を踏まえ、実装や運営にかかるコストなども考慮しながら、年次更新の負担軽減を進めることが求められる。

## 5.4 スタディ・ログの利活用

LRS に記録されたスタディ・ログを、表やグラフ、ヒートマップなどに加工して分かりやすく表示したり、他の情報と組み合わせてさまざまな観点から分析を行ったり、学習者それぞれに適したリコmendを行ったりするなど、多種多様な利活用の方法が考えられる。

1 人の児童生徒の学びにはさまざまなデジタル教科書・教材やドリルなどが使われており、学習ツールそれぞれのデータが別々のフォーマットで記録されていたのでは全体の把握が難しくなる。標準化できる部分から標準化を進め、横断的な収集と分析、活用ができるように検討を進めるべきである。

なお、学習者の学習行動を詳細に記録する xAPI は、文部科学省教育データ標準の一環として標準化とその普及が図られる見込みである。xAPI におけるデータ標準化のためのプロファイル策定については、文部科学省「教育データ標準」に係る事業に関連して検討が進められているところであり、学習ツールが標準化されたスタディ・ログを出力できる状態にはいまだ至っていない。また、学習ツールが出力する xAPI ステートメントを LRS が受け取れない状況にあるという指摘もあり、今後実態を把握したうえで、必要に応じて対応を検討していく必要がある。

他方で、xAPI で記録される活動情報以外にも主体情報や内容情報など多様な体系は考えられ、教育の質的向上への寄与が期待される。文部科学省教育データ標準の拡充や国際標準規格の進展を受け、有用なデータ標準を採用しながら発展させていくことが望まれる。

### 5.4.1 連携されたスタディ・ログのダッシュボードによる見える化

統一されたフォーマットで連携されたスタディ・ログは、整理してダッシュボード上に表示し、学習者の振り返りや、教職員による児童生徒の状況の把握に活用する。これまでデータはアプリケーションごとに蓄積され、アプリケーション間で交換されることはまれであった。さまざまな学習ツールが記録するスタディ・ログが統一されたフォーマットで連携されることにより、その学習者の学びの様子を広い範囲で把握することができるようになる。このような情報を表示する画面は通常、ダッシュボードと呼ばれる。ダッシュボードは、学習 e ポータル提供事業者が

提供する場合もあれば、別の事業者が独立したサービスとしてのダッシュボードを提供する場合もあることが考えられる。

### 5.4.2 連携されたスタディ・ログの分析とリコmend

スタディ・ログの分析の方法も表示の方法と同様にメーカー間の競争で進歩していくことが期待される。分析やリコmendを専門に行うサービスが登場することも考えられる。

### 5.4.3 スタディ・ログの進学や転校時の扱い

連携されたスタディ・ログを、進学や転校時に生徒とともに行先の学校に転送する要望が出てきている。児童生徒を識別する ID の連携方法も含め、技術的な課題をはじめとした様々な検討課題がある。

### 5.4.4 スタディ・ログの学習者へ返還

データの利活用を考えると、どのように利活用するかは本人の意思で決められることが望ましい。EU の GDPR (一般データ保護規則) では、データのポータビリティとして、自分自身に関するデータは、一般に広く用いられているフォーマットで、本人の意思で別のシステムに移動することを求められるように規定されている。LRS に蓄積されたスタディ・ログを、個人のデータの集積場所として想定されている PDS (Personal Data Store) に転送することは技術的には可能である。また、PDS を媒介に公教育領域から私教育領域へのデータ連携を個人が任意で行うことも将来的には考えられる。これらについては制度面を含めて検討を行う必要がある。

### 5.4.5 スタディ・ログの校務支援システムとの共有

学習 e ポータルはいわゆる学習系と呼ばれる領域のデータを扱う位置づけであるが、連携されたデータを校務支援システムと共有する要望が生まれることが想定される。これも、技術的な課題をはじめとした様々な論点がある。

## 5.4.6 教育ビッグデータ

個人情報保護に留意した上で、蓄積されたスタディ・ログを匿名あるいは仮名加工し、教育ビッグデータとして分析、活用することには大きな価値と可能性があると考えられる。教育データの二次利用に関するルールを検討する必要がある。

## 5.4.7 複数の学習ツールを横断したデータ分析

スタディ・ログの利活用を行う時、学習者である児童生徒を一意に識別する ID (UUID) を学習 e ポータルやさまざまな学習ツール、校務支援システムが共有できれば、最も効率的である。校務支援システムと学習 e ポータルの間では OneRoster により利用者識別子 (UUID) を含む名簿情報が共有され、学習 e ポータルと学習ツールの間では LTI のパラメータとして利用者識別子 (UUID) が受け渡される。この ID が付与されたスタディ・ログが LRS に蓄積されることで、1 人の児童生徒の、複数の学習ツールを横断したデータ分析と活用が可能になる。

セキュリティや個人情報保護などを考慮しながら、低コストで信頼性の高い仕組みにしていく必要がある。

# 5.5 データに対するアクセス権の整理と技術仕様

これから教育データの利活用をより進めていくにあたっては、前提として、個人情報保護法を遵守するとともにプライバシーの権利に配慮した仕組みを整備することが必要となる。また、教育データは無体物であり、その利用の方法は所有権として捉えるのではなくアクセス権として捉え、さまざまなデータに対するアクセス権限の仕組みを整備することが必要である。具体的には、教育データの多くは学習者に紐づけられて付与や生成されて管理されるものである中で、どのデータに、誰が、どのような目的でアクセスできるのかという観点を中心に、その枠組みと、それを実現するための技術の標準化が望まれる。

学校における教育データへのアクセス権限の設定は複雑な場合がある。例えば、児童生徒本人に関するデータには、教職員や保護者に共有したとしても本人には共有すべきではないものも存在する。また、あるクラスの児童生徒に関するデータで担任がアクセスするものについて、専科の教員や隣のクラスの担任、養護教諭やスクールカウンセラー等がそのすべてにアクセスできるべきとは限らない。

アクセスする主体の役割の整理と、アクセスされる教育データの重要性の整理の両方を行なった上で、誰にどの教育データへのアクセス権限を付与するかを決定する。教育現場以外で既に実用化されている技術やシステムも利用しながら、コスト面にも配慮しつつ教育現場にふさわしい仕組みを考え、どの学校でも比較的容易かつ安全に実施できることが望まれる。このアクセス権限の設定の仕組みは、学校の教育データを蓄積するシステムに広く適用されることが求められる。また、アクセス権限の整理においては閲覧権限のみならず、データの複製や削除、訂正に関する権限についてもあわせて検討する必要がある。

## 5.6 接続テスト環境の提供による事業者の実装のサポートと技術仕様の精緻化

技術標準仕様は実装の方法を提示するが、ソフトウェアがその仕様に従って正しく実装されているかをテストすることによって初めて、実運用におけるトラブルを減らして利便性を高めることができる。本モデルは主に複数のソフトウェアが連携して動作するための技術仕様を規定しているため、連携する相手とのやり取りが正しく行われるかを確かめる必要があり、このやり取りを実際に試行することのできる接続テスト環境があることが望ましい。これにより、事業者の実装を支援するとともに、基本的な接続を技術的に保証することが可能になる。またこれは標準モデルで規定されている標準的な方法とそれ以外の方法を区別することにもつながる。

接続テスト環境が多く的事業者に利用されるようになれば、課題発見と解決を繰り返すことにより接続テスト環境を改良して有効性を上げることや、本モデルの技術仕様を精緻化することにもつながることができる。このようなフィードバックループが回ると、全体の効率が上がり、エコシステム全体のコストを下げるができる。

令和7年度の文部科学省「教育データの相互運用標準モデル策定事業」の中でも適合性評価の一環として接続テスト環境の検討が進んでおり、整備と提供が順次進んで行くことが期待される。

## 5.7 生成 AI の活用

生成 AI は社会全体に大きなインパクトをもたらす新しい技術であり、教育への活用も世界中でさまざまな形で急速に進みつつある。また、一般向けの汎用的な生成 AI サービスが利活用可能な状況にあるだけでなく、1人1台端末の標準仕様であるブラウザや学習支援ソフトウェア、普段利用する検索エンジン等にも組み込まれているほか、汎用的なモデルと連携することで、生成 AI を用いた様々なサービスが教育分野においても導入され、利活用の幅が広がりつつある。文部科学省はすでに「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」を公表しており、様々なリスクに対応しながら適切な利活用を進めていくことが求められている。

## 5.8 有料ツールの利活用

システム上で ID やパスワードを入力するなどの方法で個人を識別することを認証と言い、あるユーザーに対してアクセスの権限を与えることを認可と言う。学習 e ポータルで認証されたユーザーである学習者であれば、MEXCBT に搭載されている問題について、無料でアクセスすることができる。一方で有料のコンテンツやサービスなどのツールは、契約を結んで利用料を払って初めて利用することができる。学習 e ポータルで有料のツールを扱いやすくするためには、検討すべき課題がある。

### 5.8.1 課金とアクセス管理の連動

オンラインで提供される有料のサービスの多くは課金とアクセス管理を連動させることで成立している。学習 e ポータルをハブにさまざまな学習ツールが連携して機能しながら、利用料の支払いとアクセス管理が信頼性高く簡便に連動できる仕組みが確立することが望ましい。また、デジタル学習環境では第三者著作物を公衆送信するケースも考えられるが、著作権者等の許諾を別途得ることなく行うためには、授業目的公衆送信補償金制度に則った手続きを行なっておく必要がある。これに関連し、学習 e ポータルを活用して利便性を向上させる方法などを検討すべきである。

## 5.9 文字セットや文字コードの標準化による利便性の向上

コンピューター上で表現できる文字の集合を文字セットと言い、それぞれの文字を表す符号の体系を文字コードと言う。さまざまなシステムやアプリケーションで共通した文字セットと文字コードを扱えることができ初めて、文字情報を正しくやり取りすることができる。これに対して、標準化された文字セットに含まれていない文字を作字して、特定の文字コードを割り当てて画面表示する仕組みを外字と呼ぶ。外字は異なるシステムやアプリケーションで共通に利用することができない。現状では、住民基本台帳や学齢簿で氏名を表すとき、苗字にこのような外字が含まれるケースがあり、そのデータをほかのシステムやアプリケーションで利用しようとする、いわゆる文字化けが生じて正しく表示されない。

このような状況を避け、人名や地名などに含まれる約 7 万の文字をカバーして外字を不要にする、行政事務標準文字と呼ばれる文字セットが規定された。住民基本台帳や学齢簿などを含む 20 の標準化対象事務はこの行政事務標準文字で表す方向で整備が始まっている。

一方、行政事務標準文字では、例えば「さいとう」さんの「さい」の字は 70 を超える異体字で表現できることなど、学校に関連する業務でこれらの字を正確に表現することの是非にはさまざまな意見がある。少なくともいわゆる学習系では、世界的な標準の文字セットであり GIGA 端末で使われる 3 種類の OS でサポートされている Unicode に含まれる JIS X 0213:2012 を対象とすることが想定されている。つまり、児童生徒の人名に関しては、学齢簿で利用される行政事務標準文字を JIS X 0213:2012 で表現できるように変換（縮退）をする必要があり、どの段階でどのように行なうことが最も効率的であるかなどを検討してルール化する必要がある。また、校務支援システムが行政事務標準文字をサポートすべきかは、その意義や費用対効果なども含めて、関係者の議論が求められる。

## 5.10 技術面以外の倫理的、法的、社会的課題

### (ELSI) への対応

学習 e ポータルや様々な学習ツールなどのアプリケーションを安心して活用するためには、活用に当たっての技術面以外の倫理的、法的、社会的課題（ELSI）に対応する必要があり、今後議論が深まっていく中で、本モデルへの反映等をしていくことも考えられる。

## **Ⅲ. 運用に関する指針**

# 1. 運用に関する指針

教育データの利活用の目的は、学校における児童生徒の自律的な学びやその改善、教職員のきめ細かな指導・支援の充実、教育委員会における施策の立案・充実等の教育の質的向上を図ることである。教育のデータ利活用において複数の学習ツールや校務支援システム等を活用する場合、「学習の窓口」や「データ連携のハブ」となる仕組みの活用が想定される場所、[「I-1.2 本モデルにおける基本的考え方」](#)を踏まえ、学習 e ポータルをデータ連携のハブとして活用する場合を想定して、学習 e ポータルや、学習ツール、校務支援システムおよび LRS（以下「学習ツール等」という。）が安全・安心かつ円滑に運用されるよう、以下の基本的な考え方をもとに、関係者に求められる行動に関する指針を定める。

- ・ 学校設置者としての自治体や学校（以下「自治体等」という。）がそれぞれの教育データ利活用の目的を踏まえ、主体的に学習 e ポータルのデータ連携のハブ機能や学習ツール等を選択できること
- ・ 民間事業者がビジネスを持続的に遂行し、質の良い教材等を提供できるように、学習 e ポータルおよび学習ツール等の契約・利用に当たり、ベンダーロックインが生じたり、特定の者に過度な負担が生じたりすることのない、公平で健全な環境を整えること

以上のような考え方の実現のためには教育データ利活用の推進といった政策目的のみならず、事業者間の公正かつ自由な競争環境を確保する観点からも一定の留意が必要であり、公正取引委員会の見解<sup>2</sup>を踏まえ、[「1.3 取引（学習 e ポータルのオープンなアクセス環境の確保）」](#)に、具体的な取扱いをまとめている。

本指針における関係者として、自治体等において利用される教育関係の製品・サービスの導入（選定・契約を含む）・運用に係る学習 e ポータル事業者や、学習ツール事業者、校務支援システム事業者および LRS 事業者（以下「学習ツール事業者等」という。）を想定する。ただし、データ連携のハブとして、学習 e ポータルに限らず自治体等が独自システムを構築する場合

---

<sup>2</sup> 「学習 e ポータルの選定（更改）及び学習リソースの選定並びに民間学習 e ポータル提供事業者と学習リソース提供事業者との取引に関する現時点における独占禁止法・競争政策上の考え方」（令和 7 年 12 月 23 日公正取引委員会

[https://www.jftc.go.jp/houdou/pressrelease/2025/dec/251223\\_gakusyuu\\_eportal.html](https://www.jftc.go.jp/houdou/pressrelease/2025/dec/251223_gakusyuu_eportal.html)）。本指針の 1.3(1)及び(3)viii) は同考え方を基に、令和 7 年度「初等中等教育における教育データの利活用を支えるシステム間連携の在り方に関する専門家会議」（文部科学省主催）の議論を踏まえて記載）。なお、同考え方の取りまとめに係る調査は独占禁止法の違反事件に関するものではない。また、同考え方は、「デジタル教科書・教材、共同学習・授業支援ソフトウェア、各種ツール等」を学習リソースと呼んで考え方を整理したものであるが、本運用指針においては「デジタル教科書・教材、共同学習・授業支援ソフトウェア、各種ツール等」を「学習ツール」として記載している。

等も想定されるため、「データ連携のハブ」機能を有するサービスを提供する学習 e ポータル以外の事業者についても、本指針を参照しつつ自治体等の求めに応じて適切に対応することが望ましい。

また、本モデルは全体として事業者を対象とした指針を示すものであるが、自治体等が利用する学習 e ポータルや学習ツール等のシステムは自治体等における選定・契約を経て導入・利用されるため、自治体等もその関係者として本指針を把握した上で、契約等を行うことが適切である。

なお、関係者においては、教育データの利活用にあたり、本モデルの技術仕様をはじめ、「文部科学省教育データ標準 5.1」（2026 年 3 月文部科学省）、「教育データの利活用に係る留意事項（第 3 版）」（2025 年 3 月文部科学省）、「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」（2025 年 3 月文部科学省）<sup>3</sup>など関連する分野において定められている標準等に倣うことが重要である。

## 1.1 学習 e ポータルと学習ツール等の接続

学校で使用される教材および校務支援システムの選定にあたり、その主体が学校設置者としての自治体または学校のいずれの場合であっても、児童生徒の豊かな学びや教職員の指導の充実等につながるよう主体的かつ自由に判断して選定できることが重要である。このため、自治体等が民間学習 e ポータルと学習ツール等の接続を希望する場合に、特定の民間学習 e ポータルを選択することにより、特定の学習ツール等を利用する際の利便性が低下したり、利用できないことが生じたりする事態を避ける必要がある。なお、自治体等が行う契約の形態やそこに至る経緯は多様である<sup>4</sup>ことに留意が必要である。

この基本的な考え方に基づき、関係者に対し原則として以下の対応をすることを求める。

---

<sup>3</sup> これらの標準は順次更新されており、更新後のバージョンがある場合にはいずれも更新後のものを指す。

<sup>4</sup> 学校用教材（図書教材・デジタル教材）は、学校が採択し教育委員会に届出または教育委員会の承認を経て、教材販売店が供給し、保護者負担の上で児童生徒が利用する形がとられている。また、校務支援システムは基本的に自治体を選定・契約をしており、デジタルのみの形式で提供される学習ツールの中には、学校だけではなく、自治体が域内の学校が使用するものを選定・契約しているケースもある。自治体と契約を行うケースにも、契約主体については、教材事業者が直接契約をする場合や、販売（代理）店が契約する場合、学習 e ポータル事業者が代理をしている場合など多様である。

i) 本モデルに準拠した製品やサービスについて自治体から接続の要望があったときは、それに対応すること<sup>5</sup>。ただし、本モデルにて規定する範囲を超えた形での技術的な連携の実現可能性や費用負担等に関すること<sup>6</sup>などは、その性質上当事者の合意に委ねられることから、結果として接続するに至らない可能性を完全には否定しないものであること。【学習 e ポータル事業者、学習ツール事業者、校務支援システム事業者、LRS 事業者】

## 1.2 データの取扱い（学習 e ポータルを変更する場合の扱いを含む）

学習 e ポータルや学習ツール等で取得できる様々なデータを連携させて可視化・分析することにより、自治体等が効果的にデータ活用を行う環境を整備するにあたっては、児童生徒の個人情報を含むデータの取扱いに留意することやデータ移行を円滑に行えるようにすることが重要である。

児童生徒の個人情報を取り扱う者は、個人情報保護法等の関係法令を踏まえて適切にデータを取り扱う必要がある。自治体等が学校教育活動の一環で学習 e ポータルや学習ツール等を利用する際には、一般的に、①個人情報の保有にあたり、法令の定める所掌事務または業務を遂行するために必要な場合に限り、かつ、利用目的はできる限り特定すること、②特定された利用目的の達成に必要最小限の範囲内で保有すること、その上で、③当該自治体等からサービスを提供する民間事業者へ個人情報の取扱いを委託することとなる。委託に際して、自治体等は適切に委託先の監督を行うこと、民間事業者は自治体等からの委託の範囲内で適切にデータを取り扱うことが求められる<sup>7</sup>。

また、民間学習 e ポータル事業者の新規参入・撤退等や自治体等における契約の見直しを契機として自治体等が民間学習 e ポータルを変更する場合、校務支援システムをはじめとする関係システム等も含めた相互運用性等が確保されている状況であれば、移行にあたっての関係システム間での障壁は下がると考えられる。しかし、実際の変更の際には、[「2.2.1 学習 e ポータルの変](#)

---

<sup>5</sup> 学習ツール事業者等から学習 e ポータル事業者へ接続の要望があった場合の対応については、1.3 参照。

<sup>6</sup> 自治体等による選定・契約後にデータ連携が不可能であることが判明し、自治体等のデータ連携の目的が達成できないことを防ぐため、自治体においては、事業者を対象とした RFI（情報提供依頼）等を通じて事業者が対応可能な技術要件や契約の条件等について情報収集を行うことが望ましい。

<sup>7</sup> 本項目に記載した個人情報の取扱いについては、学校設置者を対象に個人情報の取扱いについてまとめた「教育データの利活用に係る留意事項（第3版）」（2025年3月文部科学省）を簡潔に記載したものであり、詳細には当該文書を参照のこと。

更の際のデータの特定および標準化」に記載の通り、現時点でデータ移行のルールがないため、民間学習 e ポータル事業者間および関係システム間で技術的な確認や運用面の調整等を含む対応が必要となることから、データ移行の際にデータが適切に取り扱われるよう、自治体等と事業者の契約等に明記することが望ましい。

この基本的な考え方にに基づき、関係者に対し原則として以下の対応をすることを求める。

- i) 学校教育において学習 e ポータルや学習ツール等を利用する際のデータの取扱いは、原則として自治体等から民間事業者に対し委託を行う形で契約の締結等を行うこと。また、契約において委託の範囲を明確にすること。【自治体・学校】
- ii) 学習 e ポータルおよび学習ツール、校務支援システム等のサービスにおいて自治体等や児童生徒本人が必要とするデータを取得する必要があるときには、自治体等が民間事業者对个人情報の取扱いを委託することを前提に、学習 e ポータル事業者、学習ツール事業者および校務支援システム事業者等は、自治体等におけるデータの利用目的の特定に資するよう、当該自治体等に対してサービスにおいて取得される個人情報やサービスにおける個人情報の取扱いの方法を分かりやすく示すこと。また、契約の更新や提供するサービスの内容に大きな変更があるときには、自治体等に対し事前に説明を行うこと。【学習 e ポータル事業者、学習ツール事業者、校務支援システム事業者、LRS 事業者】
- iii) 学習 e ポータル事業者、学習ツール事業者および校務支援システム事業者等は、委託元の自治体等が定める利用目的を達成するために必要な範囲内でのみ、自治体等との契約内容に従って取得したデータを取り扱うこと。【学習 e ポータル事業者、学習ツール事業者、校務支援システム事業者、LRS 事業者】
- iv) 自治体等からデータ連携を目的として他事業者が提供する学習 e ポータル、学習ツールまたは校務支援システム等との間のデータの授受を求められた場合、民間事業者は自治体の委託を受けてデータを取り扱っており、個人情報の本人がデータの主体であることを前提として、原則としてデータの授受を行う相手となる学習 e ポータル、学習ツールまたは校務支援システム等に提供すること。ただし、技術的に困難な場合や費用が発生するが負担の調整がつかない場合など、結果として対応ができないことを完全には否定しないものであること。この場合において、学習 e ポータル事業者または学習ツール事業者および校務支援システム事業者等は、対応できない理由および根拠を、自治体等に対して分かりやすく説明するよう努めるものとする。【学習 e ポータル事業者、学習ツール事業者、校務支援システム事業者、LRS 事業者】

v) 自治体等が採用している民間学習 e ポータルの利用が終了する場合には、当該民間学習 e ポータルを提供する事業者（以下「変更前事業者」という。）は、委託期間終了時のデータの消去とともに、契約等に基づき取得したデータについて委託元の自治体等が直接管理および利用等可能な状態にするために必要な対応（以下「引き渡し」という。）を行うとともに、引き渡しにあたり、自治体等に対して当該データの意味するところや扱いに関する必要な説明を付す旨を自治体等との間の契約等に盛り込むこと。【学習 e ポータル事業者】

vi) v) に掲げるデータの引き渡しを受けた自治体等が、変更した後の民間学習 e ポータルを提供する事業者（以下「変更後事業者」という。）に必要なデータを提供等する際に、変更前事業者は、自治体等から新たに委託等の契約により提供等を受けたデータを管理することになった変更後事業者からの当該データに関する問い合わせに可能な限り対応するとともに、契約内容に応じて変更後事業者に引き継ぎを行うこと。【学習 e ポータル事業者】

※ v)、vi) について、実証用学習 e ポータルを選択する場合において併せて選択するハブ機能を有するシステムがある場合については、当該ハブ機能を有するシステムを提供する事業者と自治体等が行う契約等の内容についても、同様の扱いとすることが望ましい。

なお、参考として民間学習 e ポータルのサービスを終了する事業者からの協力を得て、学習 e ポータルを変更する場合の手順等や留意すべき点をまとめた参考情報を巻末に「[別添](#)」する。

## 1.3 取引(学習 e ポータルのオープンなアクセス環境の確保)

自治体や学校が良質・廉価な学習ツールおよび校務支援システム等を選定・契約することを可能とするため、自治体等における学習ツール等の選定の場面において、学習ツール事業者等間の公正かつ自由な競争を通じ、多種多様な選択肢が確保されることが重要である。

「多種多様な学習ツール等の選択肢の確保」と「民間学習 e ポータルと学習ツール等との接続・連携」の双方を両立させるため、民間学習 e ポータルについてオープンなアクセス環境を確保する観点から、関係者に対し、以下の対応を求める。

- (1) 民間学習 e ポータル事業者には、学習ツール等事業者間の公正かつ自由な競争を阻害するおそれのある以下の i) から iv) までの行為<sup>8</sup>を行わないことを求める。

---

<sup>8</sup> 「学習 e ポータルの選定（更改）及び学習リソースの選定並びに民間学習 e ポータル提供事業者と

- i) 自社が提供する学習 e ポータルとの接続・連携の条件として、学習ツール事業者等に対し、自社またはその関連会社との間の学習ツール等の卸取引<sup>9</sup>を強制し、学習ツール事業者等と自治体等との間で直接取引をすることを認めない行為<sup>10</sup>【学習 e ポータル事業者】
- ii) 自社が提供する学習 e ポータルとの接続・連携の条件として、学習ツール事業者等に対し、合理的な範囲を超えて高度な技術的条件を設定する、または不明確な技術的条件を設定するなどして、学習ツール事業者等と自治体等の取引にあたり、学習ツール事業者等に過度な負担を生じさせる行為【学習 e ポータル事業者】
- iii) 学習ツール事業者等に対し、接続・連携のために民間学習 e ポータル事業者において生じるコストと比較して高額な接続料<sup>11</sup>を要求する、または、学習ツール事業者等ごとに異なる接続料を設定することにより、学習ツール事業者等と自治体等との取引にあたり、学習ツール事業者等に過度な負担を生じさせる行為【学習 e ポータル事業者】
- iv) 学習ツール事業者等からの接続・連携の求めに対し、準備に要する合理的な期間を超えてこれに応じないことにより、学習ツール事業者等と自治体等との取引にあたり、学習ツール事業者等に過度な負担を生じさせる行為【学習 e ポータル事業者】

(2) 民間学習 e ポータル事業者および学習ツール事業者等には、原則として以下の対応をすることを求める。

- v) 児童生徒の学びの環境の視点から自治体等が広く自由に選択できることが重要であるという考え方とともに、「[1.1 学習 e ポータルと学習ツール等の接続](#)」および「[1.2 データの取扱い（学習 e ポータルを変更する場合の扱いを含む）](#)」に基づき、価格の設定を含め、通常の商慣行に照らして適正な取引を行うこと<sup>12</sup>。なお、「適正な取引」については、事前に主

---

学習リソース提供事業者との取引に関する現時点における独占禁止法・競争政策上の考え方」によれば、民間学習 e ポータル事業者が i) ～ iv) に記載するような行為を行った場合に独占禁止法上問題となるか否かについては、①行為の態様、②当該民間学習 e ポータル事業者の市場シェア、③民間学習 e ポータルとの接続・連携の程度が、自治体等における学習ツール等の選定に与える影響の度合い等の要素を踏まえ、さらに、当該行為が学習ツール事業者等の事業活動に与える影響の程度を踏まえて判断されることとなる。例えば、市場における有力な事業者である民間学習 e ポータル事業者が、学習ツール事業者ごとに異なる接続料を設定する行為を行わないとしていたにもかかわらず、恣意的に特定の学習ツール事業者が有利または不利になるように取り扱うことで、不利に取り扱われた学習ツール事業者において自治体等との取引機会が減少するおそれが生じた場合には、独占禁止法上問題となるおそれがある（取引条件等の差別取扱い等）。

<sup>9</sup> 卸取引に限らず代理店契約といった取引も含まれ得る。

<sup>10</sup> 学習ツール事業者等が、既存の民間学習 e ポータル事業者やその関連会社の営業力等を踏まえ、自主的な判断に基づいて、学習ツール等の卸取引を行うこと自体は問題とはならない。

<sup>11</sup> 「接続料」の名称に限らず、実質的に「接続料」に相当する料金も含まれ得る。

<sup>12</sup> 本モデルの v5.00 において、「業界や関係者として、『適正な取引』とは何かをどのように判断するのかについてはガイドラインが必要ではないかという指摘」がある旨の記載があったが、令和7年度の検討過程において、競争政策の観点からは、適正な取引価格を具体的に示すことは困難である旨の

要な取引条件が関係者間で明確にされていることも含まれる。【学習 e ポータル事業者、学習ツール事業者、校務支援システム事業者、LRS 事業者】

vi) 特に、自治体等または学習ツール事業者等から特定の学習ツール等との接続・連携について相談を受けた場合、民間学習 e ポータル事業者は、当該接続・連携に要する技術的要件や費用等に関する情報提供を遅滞なく、かつ公平に行う<sup>13</sup>こと。なお、民間学習 e ポータル事業者は、特定の自治体等の取引を前提としない場合にも、iv) に記載する行為を行わないことが求められる。【学習 e ポータル事業者】

vii) 取引の相手方はもとより、必要に応じて製品やサービスを利用する自治体等に対しても、その求めに応じて必要な説明や情報提供を行うこと。【学習 e ポータル事業者、学習ツール事業者、校務支援システム事業者、LRS 事業者】

(3) 自治体等においても、学習ツール等の選定・契約にあたっては、本章の記載内容を把握するとともに、学習ツール等事業者間の公正かつ自由な競争を確保する観点から 1.3 (1)の事項および以下の事項に留意すること。

viii) 学習ツール等の入札時の仕様書において、学習ツール事業者等に対して、学習 e ポータルと実際に接続・連携されること（接続・連携に係る「同意」が民間学習 e ポータル事業者からあらかじめ得られていること）について要件として求めることを控え、学習 e ポータルとの接続・連携に係る技術的な要件を満たしていることを条件とすることが望ましい。

自治体等における政策や地域の実情を踏まえ、学習 e ポータルと実際に接続・連携されること（接続・連携に係る「同意」が民間学習 e ポータル事業者からあらかじめ得られていること）を学習ツール事業者等に求める場合には、自治体等は、当該学習ツール等の選定・契約にあたり、既存の民間学習 e ポータル事業者に対し、技術的要件や接続料といった接続・連携に係る条件をその根拠とともにあらかじめ自治体等に明示<sup>14</sup>させること。

---

認識が共有された。

<sup>13</sup> 令和 7 年度の検討過程において、民間学習 e ポータルと学習ツール等の接続・連携に関する取引条件を公表することについて議論され、当該取引条件を公表することによりかえって民間学習 e ポータル事業者間の協調的な行動を促進させる可能性があるため、競争政策上の観点からは望ましくない旨の認識が共有された。

<sup>14</sup> 学習ツール等の選定・契約に関わる RFI（情報提供依頼）等において、民間学習 e ポータル事業者に対して技術的要件や接続料といった接続・連携に係る条件をその根拠とともに示すことを併せて求めることなどが考えられる。また、民間学習 e ポータル事業者から提供された情報は、仕様書とともに学習ツール事業者等に遅滞なく提供することや、学習ツール事業者等から求められた場合に自治体等から遅滞なく提供することが想定される。その際、学習ツール事業者等間で対応に差異が出ないよう公平に行うこと。

また、民間学習 e ポータルと学習ツール等の接続・連携を希望する場合には、当該民間学習 e ポータル事業者や学習ツール等事業者のみが学習 e ポータルと学習ツール等の接続・連携に要する費用<sup>15</sup>を負担することとならないよう、当該費用について考慮すること。【自治体・学校】

ix) 学習ツール等の選定・契約時に公平かつ公正な競争が行われるよう、教育データの利活用を含む技術的要件や評価項目について仕様書等において予め明記すること。特に、学習 e ポータルとの接続を可能とする旨を加点要素としたり、教育データの利活用の手法を事業者の提案項目としたりする場合には、その旨を仕様書等において明示すること。【自治体・学校】

## 2. 運用指針に関連して引き続き検討が必要な事項

### 2.1 運用指針の実効性について

#### 2.1.1 運用指針の実効性と適合性評価

運用指針を遵守していることを評価できる仕組みとして第三者による適合性評価の実現に対する期待がある。この点について、令和 7 年度の検討においては、相互運用標準モデル全体の適合性評価の仕組みの在り方について、まずは、学習 e ポータル事業者からセルフチェックを実施することとし、技術仕様に関するテスト環境の検討を行うこととした。今後、それらの実施状況や検討状況を踏まえ、第三者機関による主体、費用、運用体制等の様々な観点を含めた適合性評価の在り方について具体的な検討が必要である。

### 2.2 関連して検討すべき事項

#### 2.2.1 学習 e ポータルの変更の際のデータの特定および標準化

自治体等が民間学習 e ポータルを変更する際のデータ移行の保障等を行うためには、「[1.2 データの取扱い（学習 e ポータルの変更におけるデータの取扱いを含む）](#)」に記載した運用面のル

---

<sup>15</sup> 接続・連携に要する費用については、前述の（2）vi）において、民間学習 e ポータル事業者に対して自治体等や学習ツール事業者等への情報提供を求めている。

ールに加え、変更前事業者がどのようなデータをどのような形式で引き渡しを行うか、変更後事業者にはどのようなデータをどのような形式で提供等することが必要かについても定めることを検討していくことが必要ではないかという指摘もあった。引き続きの検討が必要である。

### 2.2.2 LRS に記録されるデータ

学習 e ポータルのハブ機能を前提として学習 e ポータルを変更する場合のデータの流動性を高めることを目的に、事業者の行動のルールを「[1.2 データの取扱い（学習 e ポータルの変更におけるデータの取扱いを含む）](#)」に記載のルールを定めるのであれば、LRS についても同様の扱いとすることを検討することが必要ではないかという指摘もあった。引き続きの検討が必要である。

# 付録

## 資料 1 : Contributor 一覧

初等中等教育における教育データの利活用を支えるシステム間連携の在り方に関する専門家会議  
委員名簿（敬称略 五十音順）

氏名	所属・肩書
伊藤 博康	株式会社内田洋行 執行役員 教育総合研究所長 一般社団法人 ICT CONNECT 21 学習 e ポータル SWG リーダー
稲田 友	NTT ドコモビジネス株式会社 スマートエデュケーション推進室 担当部長 一般社団法人 ICT CONNECT 21 学習 e ポータル SWG Platform サブグループ
岡本 章宏	一般社団法人教科書協会 デジタル化専門委員会 委員長 教育出版株式会社 執行役員 ICT 事業本部長
木田 博	鹿児島市教育委員会 教育 DX 担当部長
小出 泰久	グーグル合同会社 Google for Education 日本統括
小崎 誠二	奈良教育大学大学院 教育学研究科 教授
後藤 匠	株式会社 Libry 代表取締役 CEO
阪口 福太郎	Microsoft Corporation Worldwide Public Sector / Industry Advisor / Education DX, AX 戦略室長
讃井 康智	ライフイズテック株式会社 取締役 最高 AI 教育責任者 (CEAIO)
下村 聡	株式会社 EDUCOM 取締役 CSO
白井 克彦 (座長)	早稲田大学 名誉教授 一般社団法人日本 1EdTech 協会 理事長
杉山 浩二	株式会社 LoiLo 取締役 CEO
常盤 祐司	一般社団法人日本 1EdTech 協会 技術委員会 委員長
藤村 裕一	国立大学法人鳴門教育大学 教員養成 DX 推進機構長 大学院学校教育研究科 特命教授
渡部 竜士	一般社団法人日本図書教材協会 一般社団法人全国図書教材協議会 専務理事・事務局長

一般社団法人 ICT CONNECT 21 学習 e ポータル SWG (敬称略 五十音順)

	氏名	所属・肩書
SWG メンバー	浅野 隆文	株式会社コードタクト
	石黒 広信	コニカミノルタ株式会社
	伊豆田 栄二	大日本印刷株式会社
	出野 健太郎	オムロンデジタル株式会社
	伊藤 博康	株式会社内田洋行
	伊藤 美保子	三菱総研 DCS 株式会社
	稲田 友	NTT ドコモビジネス株式会社
	妹川 竜雄	キヤノン IT ソリューションズ株式会社
	岩元 利純	テクマトリックス株式会社
	應田 博司	富士通 Japan 株式会社
	大高 史嵩	キヤノン IT ソリューションズ株式会社
	大谷 智朗	learningBOX 株式会社
	大野 勝利	アライド・ブレインズ株式会社
	大保 亮一	三菱総研 DCS 株式会社
	大宮 秀利	富士電機 IT ソリューション株式会社
	岡村 浩一	株式会社両備システムズ
	小國 淳一	株式会社ソリトンシステムズ
	小田 太地	富士通 Japan 株式会社
	音羽 政志	テクマトリックス株式会社
	蔭山 智洋	株式会社リクルート
	金井 康浩	光村図書出版株式会社
	釜我 徹也	光村図書出版株式会社
	川崎 靖広	株式会社プラスアルファ・コンサルティング
	河内 卓哉	NTT ドコモビジネス株式会社
	菊野 史也	公益財団法人日本数学検定協会
	北野 修司	株式会社タオ
	古賀 可樹美	株式会社 NTTExC パートナー
	後藤 匠	株式会社 Libry
	後藤 正樹	株式会社コードタクト
	五明 通任	株式会社学研ホールディングス
	近藤 康史	株式会社両備システムズ
	齋藤 隼人	ネオス株式会社
榊原 寛	BPS 株式会社	

坂本 早苗	大日本印刷株式会社
佐藤 潤	株式会社 COMPASS
讃井 康智	ライフイズテック株式会社
島川 裕太	株式会社文溪堂
下村 聡	株式会社 EDUCOM
杉山 浩二	株式会社 LoiLo
高田 忍	公益財団法人日本数学検定協会
高山 琢磨	山形大学
武田 考正	株式会社内田洋行
田崎 史子	アライド・ブレインズ株式会社
田邊 則彦	北鎌倉女子学園
谷 正友	一般社団法人教育 ICT 政策支援機構
田村 恭久	上智大学
鳶木 竜馬	株式会社リクルート
槌谷 堅太郎	富士電機 IT ソリューション株式会社
堤 直樹	東京書籍株式会社
角田 健太郎	株式会社プラスアルファ・コンサルティング
永井 勇一郎	株式会社ネットラーニング
中嶋 竜一	株式会社デジタル・ナレッジ
中田 寿穂	日本マイクロソフト株式会社
中村 司	株式会社増進会ホールディングス
西田 文比古	株式会社 NTTExC パートナー
沼田 慎介	富士通 Japan 株式会社
野口 浩幹	天川村立天川小中学校
野阪 公司	アドワー株式会社
野崎 亜美	株式会社 publi
野本 竜哉	一般社団法人 iOS コンソーシアム
則武 和輝	コニカミノルタ株式会社
箱田 卓也	learningBOX 株式会社
畠田 浩史	一般社団法人日本 1EdTech 協会
林 秀次	南砺市教育センター
林 俊信	株式会社すららネット
原山 唱一	BPS 株式会社
久富 一平	株式会社ベネッセコーポレーション
平塚 建一郎	アマゾンウェブサービスジャパン合同会社

	深井 宣之	アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
	福田 麻衣子	ライフイズテック株式会社
	藤村 裕一	鳴門教育大学
	藤原 茂雄	一般社団法人日本 1EdTech 協会
	別府 拓	株式会社プラスアルファ・コンサルティング
	前里 秀樹	株式会社デジタル・ナレッジ
	松居 甫	株式会社 LITALICO
	松葉 公之介	株式会社 publi
	光木 丈揚	株式会社ネットラーニング
	三村 明史	富士ソフト株式会社
	武者 超	NTT ドコモビジネス株式会社
	村上 亮	東京書籍株式会社
	村松 麗斗	株式会社 LITALICO
	柳澤 律子	株式会社 EDUCOM
	山崎 公明	富士ソフト株式会社
	吉岡 稔陽	株式会社 NHK エデュケーショナル
	劉 東岳	株式会社学研ホールディングス
	若林 魁人	大阪大学
	渡邊 喬	株式会社城南進学研究社
Platform サブグループ, Tools サブグループ メンバー	久保 美奈子	株式会社内田洋行
	倉本 寛之	株式会社すららネット
	関澤 翠	株式会社すららネット
	森下 誠太	株式会社内田洋行

一般社団法人 ICT CONNECT 21 校務系-学習系情報連携 SWG (敬称略 五十音順)

	氏名	所属・肩書
SWG メンバー	天野 光善	アドワ一株式会社
	池田 智志	株式会社 Gakken
	伊藤 美保子	三菱総研 DCS 株式会社
	稲垣 健	ライズ株式会社
	江本 成秀	株式会社システムディ
	大谷 智朗	learningBOX 株式会社
	大保 亮一	三菱総研 DCS 株式会社
	岡村 浩一	株式会社両備システムズ
	小川 直樹	株式会社内田洋行
	小國 淳一	株式会社ソリトンシステムズ
	小田 典央	スズキ教育ソフト株式会社
	小原 聡真	デロイトトーマツコンサルティング合同会社
	小森 智子	株式会社内田洋行
	小割 博文	株式会社両備システムズ
	近藤 康史	株式会社両備システムズ
	佐伯 陽子	東京書籍株式会社
	島田 誠	株式会社内田洋行
	下村 聡	株式会社 EDUCOM
	田村 恭久	上智大学
	蔦木 竜馬	株式会社リクルート
	堤 直樹	東京書籍株式会社
	中島 泰介	株式会社 COMPASS
	中田 寿穂	日本マイクロソフト株式会社
	西田 文比古	株式会社 NTTExC パートナー
	野阪 公司	アドワ一株式会社
	平田 直紀	株式会社シンプルエデュケーション
	藤田 和也	デロイトトーマツコンサルティング合同会社
	藤村 裕一	鳴門教育大学
	藤原 茂雄	一般社団法人日本 1EdTech 協会
	松葉 公之介	株式会社 publi
	森田 憲治	NEC フィールディング株式会社
	柳澤 律子	株式会社 EDUCOM
若林 魁人	大阪大学	

その他（敬称略 五十音順）

	氏名	所属・肩書
全体監修	田村 恭久	上智大学
	藤村 裕一	鳴門教育大学
スタディ・ログ部分 監修	緒方 広明	京都大学
	古川 雅子	国立情報学研究所
執筆, 編集	河内 卓哉	NTT ドコモビジネス株式会社
執筆協力, 技術協力	浅野 隆文	株式会社コードタクト
	稲田 訓英	株式会社 AGEST
	久保 美那子	株式会社内田洋行
	田中 頼人	一般社団法人日本 1EdTech 協会
	常盤 祐司	一般社団法人日本 1EdTech 協会
	秦 隆博	一般社団法人日本 1EdTech 協会
	藤原 茂雄	一般社団法人日本 1EdTech 協会
	八幡 寛	株式会社 AGEST
	山崎 公明	富士ソフト株式会社
アドバイザー 国際連携 SWG	芦村 和幸	長崎大学
	加藤 泰久	東京通信大学
	栗山 健	一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会
	下川 和男	株式会社ネットラーニング
日本 1EdTech 協会 OneRoster 国内 適用検討部会	井上 由紀夫	株式会社内田洋行
	藤村 裕一	鳴門教育大学
	山田 恒夫	放送大学
事務局	石坂 芳実	一般社団法人 ICT CONNECT 21
	遠藤 祐二	株式会社 publi
	喜屋武 翔太	一般社団法人 ICT CONNECT 21
	中島 徹	一般社団法人 ICT CONNECT 21
	西原 栄太郎	一般社団法人 ICT CONNECT 21
	野崎 亜美	株式会社 publi
	松葉 公之介	株式会社 publi
	室崎 佳子	一般社団法人 ICT CONNECT 21

## 資料 2 : UUID の生成

### UUID の重複可能性

UUID は RFC 4122 にて定義される 128bit の空間を持つ ID であり、中央の調停なしに時空を超えた一意性を保証するとされる。しかし、その一意性は各バージョンが期待する前提を満たしている場合のみであることに留意しなければならない。

バージョン 1 は MAC アドレスと時刻から生成されるが、これは IEEE の調停によって、OUI がグローバルにユニークであるという前提と、同一マシン内部で時刻が重複しないよう実際の時刻のほかにクロックシーケンスという仕様が満足される事によってはじめて、重複しないことが期待される。MAC アドレスの一意性は、正規の方法で製造されたネットワークインターフェースカードを具備している場合には基本的に期待してよい。しかしながら、仮想化を多用する現代的なシステムにおいて、仮想マシンに付与される MAC アドレスは論理的な仮想 MAC アドレスであるため、この重複可能性は仮想化システムの実装に依存することになり、一般的にこれは保証されない（∵MAC アドレスは L2 セグメント内部でユニークであれば通信実行上は要をなすため）。つまり、MAC アドレスの一意性が保証されない環境では、バージョン 1 は重複しうるといえる。

同様にバージョン 2 は、バージョン 1 の一部を POSIX ユーザーやグループに置き換えたものであり、MAC アドレスおよびユーザーやグループ ID の一意性が担保されていない場合には重複しうる。

バージョン 3 および 5 は、名前空間と名前をハッシュ関数によりハッシュ化したものである。ハッシュは入力が入力が同一であれば同じ出力となるため、ハッシュ化前の値の一意性は別の方法で担保されなければならない。

バージョン 4 は乱数を使用するため、その重複可能性は使用する乱数の品質に依存する。

## 乱数の品質

UUIDv4 で使用する乱数生成器は TRNG（真正乱数生成器）または CSPRNG（暗号論的疑似乱数生成器）を用いることが望ましい。これは単一の管理者がいない分散システム上で調停なしに ID の生成を行う際、重複可能性を低減するために、乱数に以下の特性を要請するからである。

- 無作為性
- 再現不能性

これらを満たさない RNG（乱数生成器）を使用した場合には乱数の重複確率が上がり、UUID の重複発生頻度が増加する。そのため重複可能性の低い UUIDv4 を実現するには、生成関数が利用する乱数生成器を検査し、TRNG または CSPRNG から乱数を得ていることを確認する必要がある。

以下に、主要な OS で利用可能な CSPRNG の例を挙げる。

### Linux

- getrandom システムコール
- /dev/urandom

### Windows

- CryptGenRandom 関数(wincrypt.h)
- BCryptGenRandom 関数(CNG)

## UUID version4 の生成方法

各言語における UUID version4 の生成方法を記載する。

### ■ Microsoft .NET フレームワーク

Microsoft のドキュメントおよび API では GUID という語が使われる。UUID が IETF および ITU によって規格化される前に実装されたという歴史的な経緯によるものだが、GUID は UUID の実装の 1 つとみなせるため、ここではこの語を同じものを指すものとして扱う。

.Net および .Net Framework 3.5 以上で UUID の生成に使用できる

System.Guid.NewGuid()メソッドは、Windows および Linux 環境上で乱数の品質の項目で例示した CSPRNG から乱数を取得することが確認されている。

この API を使用して、C# で UUID を取得する方法は以下を参考にされたい。

<https://www.uuidgenerator.net/dev-corner/c-sharp>

C# 言語には、.NET Framework を介して、バージョン 4 の UUID を生成するためのサポートが組み込まれている。なお、ここで用いられている Guid.NewGuid()については以下より、RFC4122 に準拠した方式で生成されていることを確認した。

[https://learn.microsoft.com/en-us/dotnet/api/system.guid.newguid?view=net-5.0#System\\_Guid\\_NewGuid](https://learn.microsoft.com/en-us/dotnet/api/system.guid.newguid?view=net-5.0#System_Guid_NewGuid)

### ■ Python

Python 言語には、バージョン 1、3、4、および 5 の UUID を生成するための組み込みサポートがある。Python における標準ライブラリ関数 uuid.uuid4()は、乱数のシードに同じく標準ライブラリ関数 os.urandom()を使用する。os.urandom()は、Windows および Linux 環境上で乱数の品質の項目で例示した CSPRNG から乱数を取得することが確認されている。

Python で UUID Version4 を取得する方法は以下を参考にされたい。

<https://www.uuidgenerator.net/dev-corner/python>

なお、ここで用いられている uuid.uuid4()については以下より、RFC4122 に準拠した方式で生成されていることを確認した。

<https://docs.python.org/3/library/uuid.html>

## ■ Ruby

Ruby 言語には、バージョン 4 の UUID を生成するための組み込みサポートがある。Ruby における標準ライブラリメソッド `SecureRandom.uuid` は Windows および Linux 環境上で乱数の品質の項目で例示した CSPRNG から乱数を取得することが確認されている。

Ruby で UUID を取得する方法は以下を参考にされたい。

<https://www.uuidgenerator.net/dev-corner/ruby>

なお、ここで用いられている `SecureRandom.uuid` については以下より、RFC4122 に準拠した方式で生成されていることを確認した。

<https://docs.ruby-lang.org/ja/latest/class/SecureRandom.html>

## ■ PHP

PHP には、RFC 4122 準拠の UUID を生成するための組み込みサポートはない。また、PHP はバージョンが 7 未満の場合、組み込み関数や標準ライブラリに CSPRNG を含まないことに注意する。

PHP で UUIDv4 を生成する場合、PHP バージョン 7 以上を利用したうえで、MIT ライセンスで提供されるオープンソースの PHP ライブラリ *ramsey/uuid* を使用することを推奨する。

*ramsey/uuid* を用いて UUID を取得する方法は、以下を参考にされたい。

<https://www.uuidgenerator.net/dev-corner/php>

なお、ここで用いられている *ramsey/uuid* については以下より、RFC4122 に準拠した方式で生成されていることを確認した。

<https://github.com/ramsey/uuid/blob/4.x/docs/rfc4122/version4.rst#id1>

## ■ Java

Java 言語には、Version4 の UUID を生成するためのサポートが組み込まれている。組み込みクラス UUID のスタティックファクトリ `randomUUID()` は乱数のシードに `java.security.SecureRandom()` メソッドを使用する。これは CSPRNG を使うことをドキュメントで表明しているが、乱数を取得する方法は環境と設定によって変わる。Java を使用する実装者は、実際にアプリケーションの運用を行うランタイム上で `SecureRandom` インスタンスに対し `getAlgorithm()` を呼び出すことで、デフォルトコンストラクタが採用するアルゴリズムを確認することができる。その結果が SHA1PRNG だった場合、ランタイムが他の乱数生成器を使用できるように構成を変更するか、`randomUUID()` 以外の手段で、CSPRNG から取得した乱数を元に UUIDv4 の値を作ることが望ましい。`getAlgorithm()` メソッドの返却値が、NativePRNG\*、DRBG、Windows-Native である場合乱数の品質の項目で例示した CSPRNG から乱数を取得することが確認されている※。

※ JDK の実装は多岐にわたるため、これはあくまで学習 e ポータル事業者への調査によって利用実態が確認された Adopt OpenJDK 8、11 に対して調査したものである。Oracle JDK では該当部分のソースコードが公開されていないため確認出来ていない。

Java で UUID を取得する方法は、以下を参考にされたい。

<https://www.uuidgenerator.net/dev-corner/java>

なお、ここで用いられている `UUID.randomUUID()` は以下より、暗号化された乱数ジェネレータ(RNG)を使用しており、上記「乱数の品質」で述べた CSPRNG(暗号論的疑似乱数生成器)と合致していることを確認した。ただし、Java8 以降でのサポートとなることには注意が必要である。

<https://docs.oracle.com/javase/jp/8/docs/api/java/security/SecureRandom.html>

## 資料 3 : 各種コード体系

学年コードは、「文部科学省教育データ標準 5.0（主体情報）」に従う。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/other/data\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/other/data_00001.htm)

要素	CODE	参考文献
小学校第 1 学年	P1	<a href="#">「APPLIC 教育情報アプリケーションユニット標準仕様 校務基本情報データ連携小中学校版 V2.0」</a> <a href="https://www.applic.or.jp/2020/stand/APPLIC-0002-2019/APPLIC-0002-2019-11/APPLIC-0002-2019-11-13.pdf">https://www.applic.or.jp/2020/stand/APPLIC-0002-2019/APPLIC-0002-2019-11/APPLIC-0002-2019-11-13.pdf</a>
小学校第 2 学年	P2	
小学校第 3 学年	P3	
小学校第 4 学年	P4	
小学校第 5 学年	P5	
小学校第 6 学年	P6	
中学校第 1 学年	J1	
中学校第 2 学年	J2	
中学校第 3 学年	J3	
高等学校第 1 学年	H1	<a href="#">「APPLIC 教育情報アプリケーションユニット標準仕様校務基本情報データ連携高等学校版 V1.0」</a> <a href="https://www.applic.or.jp/2020/stand/APPLIC-0002-2019/APPLIC-0002-2018-12/APPLIC-0002-2018-12-13.pdf">https://www.applic.or.jp/2020/stand/APPLIC-0002-2019/APPLIC-0002-2018-12/APPLIC-0002-2018-12-13.pdf</a>
高等学校第 2 学年	H2	
高等学校第 3 学年	H3	
3 歳	E1	
4 歳	E2	
最終年度	E3	

文部科学省教育データ標準 5.0（主体情報）コード定義より抜粋

ただし、義務教育学校および中等教育学校等においては、上記の要素から対応した学年を選択し、そのコードを用いる。

教科および科目コードは、APPLIC で定義されたコード「教科」のコードおよびその内容に従う。ただし、文部科学省「教育データ標準」等にて定義された場合、その内容へ変更する可能性がある。

## 資料 4 : ロール一覧

システムロール	
コアロール	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#Administrator">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#Administrator</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#None">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#None</a>
ノンコアロール	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#AccountAdmin">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#AccountAdmin</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#Creator">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#Creator</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#SysAdmin">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#SysAdmin</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#SysSupport">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#SysSupport</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#User">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/system/person#User</a>

教育機関ロール	
コアロール	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Administrator">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Administrator</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Faculty">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Faculty</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Guest">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Guest</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#None">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#None</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Other">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Other</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Staff">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Staff</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Student">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Student</a>
ノンコアロール	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Alumni">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Alumni</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Instructor">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Instructor</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Learner">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Learner</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Member">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Member</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Mentor">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Mentor</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Observer">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Observer</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#ProspectiveStudent">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#ProspectiveStudent</a>

コンテキストロール	
コアロール	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Administrator">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Administrator</a>

	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#ContentDeveloper">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#ContentDeveloper</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Instructor">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Instructor</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Learner">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Learner</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Mentor">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Mentor</a>
ノンコアロール	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Manager">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Manager</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Member">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Member</a>
	<a href="http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Officer">http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Officer</a>

コンテキストサブロール	
Administrator	Administrator
	Developer
	ExternalDeveloper
	ExternalSupport
	ExternalSystemAdministrator
	Support
	SystemAdministrator
ContentDeveloper	ContentDeveloper
	ContentExpert
	ExternalContentExpert
	Librarian
Instructor	ExternalInstructor
	Grader
	GuestInstructor
	Lecturer
	PrimaryInstructor
	SecondaryInstructor
	TeachingAssistant
	TeachingAssistantGroup
	TeachingAssistantOffering
	TeachingAssistantSection
	TeachingAssistantSectionAssociation

	TeachingAssistantTemplate
Learner	ExternalLearner
	GuestLearner
	Instructor
	Learner
	NonCreditLearner
Manager	AreaManager
	CourseCoordinator
	ExternalObserver
	Manager
	Observer
Member	Member
Mentor	Advisor
	Auditor
	ExternalAdvisor
	ExternalAuditor
	ExternalLearningFacilitator
	ExternalMentor
	ExternalReviewer
	ExternalTutor
	LearningFacilitator
	Mentor
	Reviewer
Officer	Chair
	Communications
	Secretary
	Treasurer
	Vice-Chair

# 資料 5 : MEXCBT テスト受検 LTI Resource Link Request サンプル

※ペイロード部分のみ

```
{
  "iss": "https://example-platform.com",
  "sub": "b331f313-3f8f-11eb-9630-6eb233e8f309",
  "aud": [
    "MDAwMDAx"
  ],
  "exp": 1639827147,
  "iat": 1639826847,
  "nonce": "nonce61bdc59f7c5f70.47397994",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/message_type": "LtiResourceLinkRequest",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/version": "1.3.0",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/deployment_id": "S_C113210000010",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/target_link_uri":
  "https://cbt.mexcbt.mext.go.jp/LtiDeliveryProvider/DeliveryTool/launch1p3?delivery=http%3A%2F%2Fcbt.mexcbt.mext.go.jp%2Ftao.rdf%23ib382caa454690ac9eabe518fed484d9755",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/roles": [
    "http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Student",
    "http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Learner"
  ],
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/context": {
    "id": "c1d887f0-a1a3-4bca-ae25-c375edcc131a",
    "title": "6 年 1 組 MEXCBT 練習用"
  },
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/resource_link": {
    "id": "ba629a2c-5101-11ec-bb1e-48fa0e5788a5",
    "title": "全国学力・学習状況調査 令和2年 小6 算数 大問1"
  },
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti-ags/claim/endpoint": {
    "scope": [
      "https://purl.imsglobal.org/spec/lti-ags/scope/score"
    ],
    "lineitem": "https://example-platform.com/lti/ags/c1d887f0-a1a3-4bca-ae25-c375edcc131a/lineitems/c4d5fef2-5101-11ec-bb1e-48fa0e5788a5"
  }
}
```

```
},  
"https://purl.imsglobal.org/spec/liti/claim/custom": []  
}
```

## 資料 6 : MEXCBT テスト結果レビューLTI Resource Link Request サンプル

※ペイロード部分のみ

```
{  
  "iss": "https://example-platform.com",  
  "sub": "afa038a9-4717-11eb-ba87-6b492f12c9ba",  
  "aud": [  
    "MDAwMDAx"  
  ],  
  "exp": 1639827882,  
  "iat": 1639827582,  
  "nonce": "nonce61bdc87e119eb1.21863209",  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/liti/claim/message_type": "LtiResourceLinkRequest",  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/liti/claim/version": "1.3.0",  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/liti/claim/deployment_id": "S_C113210000010",  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/liti/claim/target_link_uri":  
  "https://cbt.mexcbt.mext.go.jp/litiTestReview/ReviewTool/launch1p3?delivery=http%3A%2F%2Fcbt.mexc  
  bt.mext.go.jp%2Ftao.rdf%23ib382caa454690ac9eabe518fed484d9755",  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/liti/claim/roles": [  
    "http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Faculty",  
    "http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Instructor"  
  ],  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/liti/claim/context": {  
    "id": "c1d887f0-a1a3-4bca-ae25-c375edcc131a",  
    "title": "6 年 1 組 MEXCBT 練習用"  
  },  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/liti/claim/resource link": {  
    "id": "ba629a2c-5101-11ec-bb1e-48fa0e5788a5",  
    "title": "全国学力・学習状況調査 令和 2 年 小 6 算数 大問 1"  
  },  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/liti-ags/claim/endpoint": {
```

```
"scope": [  
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti-ags/scope/score"  
],  
"lineitem": "https://example-platform.com/lti/ags/c1d887f0-a1a3-4bca-ae25-  
c375edcc131a/lineitems/c4d5fef2-5101-11ec-bb1e-48fa0e5788a5"  
},  
"https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/custom": {  
  "for_user_id": "b331f313-3f8f-11eb-9630-6eb233e8f309",  
  "for_roles": [  
    "http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Student",  
    "http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Learner"  
  ],  
  "custom_show_score": true,  
  "custom_show_correct": true  
}  
}
```

# 資料 7 : MEXCBT 内のテスト検索を開始 Deep Linking Request サンプル

※ペイロード部分のみ

```
{
  "iss": "https://example-platform.com",
  "sub": "afa038a9-4717-11eb-ba87-6b492f12c9ba",
  "aud": [
    "MDAwMDAx"
  ],
  "exp": 1639825232,
  "iat": 1639824932,
  "nonce": "nonce61bdbe246a0727.58306820",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/message_type": "LtiDeepLinkingRequest",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/version": "1.3.0",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/deployment_id": "S_C113210000010",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/target_link_uri":
  "https://lti.mexcbt.mext.go.jp/deep-linking-launch",
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/roles": [
    "http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/institution/person#Faculty",
    "http://purl.imsglobal.org/vocab/lis/v2/membership#Instructor"
  ],
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti/claim/context": {
    "id": "c1d887f0-a1a3-4bca-ae25-c375edcc131a",
    "title": "6 年 1 組 MEXCBT 練習用"
  },
  "https://purl.imsglobal.org/spec/lti-dl/claim/deep_linking_settings": {
    "deep_link_return_url": "https://example-platform.com/lti/deeplinkingreturn",
    "accept_types": [
      "LtiResourceLink"
    ],
    "accept_presentation_document_targets": [
      "window"
    ],
    "data": "39cac866-1b0e-4d91-9636-88ed73c63ffa"
  }
}
```

# 資料 8 : MEXCBT が提供する xAPI ステートメントのサンプル

## verb: attempted

```
{
  "version": "1.0.0",
  "id": "b2d52f2c-cc4d-42d0-bd9e-78329b1ee00f",
  "actor": {
    "objectType": "Agent",
    "account": {
      "homePage": "https://example.platform.jp",
      "name": "1fcdd088-66fc-11ec-b362-ebfd340b9cee"
    }
  },
  "verb": {
    "id": "http://adlnet.gov/expapi/verbs/attempted",
    "display": {
      "en": "attempted"
    }
  },
  "object": {
    "objectType": "Activity",
    "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045f5e345c32796458b2f60e7cedf2",
    "definition": {
      "name": {
        "ja-jp": "【C】 テスト用問題(検定)"
      }
    },
    "type": "http://adlnet.gov/expapi/activities/assessment"
  },
  "context": {
    "platform": "MEXCBT",
    "language": "en",
    "extensions": {
      "https://mexcbt.mext.go.jp/deliveryId":
        "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045f5e345c32796458b2f60e7cedf2"
    }
  },
}
```

```

"contextActivities": {
  "grouping": [
    {
      "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622047cf0c83a3271d53c5b870b44b723"
    }
  ]
},
"timestamp": "2022-03-03T04:45:03.051+00:00"
}

```

### verb: completed

```

{
  "version": "1.0.0",
  "id": "b1c0a4c4-0248-4bcf-9b7a-7f6fdb7124fa",
  "actor": {
    "objectType": "Agent",
    "account": {
      "homePage": "https://example.platform.jp ",
      "name": "1fcdd088-66fc-11ec-b362-ebfd340b9cee"
    }
  },
  "verb": {
    "id": "http://adlnet.gov/expapi/verbs/completed",
    "display": {
      "en": "completed"
    }
  },
  "object": {
    "objectType": "Activity",
    "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045f5e345c32796458b2f60e7cedf2",
    "definition": {
      "name": {
        "ja-jp": "【C】 テスト用問題(検定)"
      }
    },
    "type": "http://adlnet.gov/expapi/activities/assessment"
  }
},

```

```
"result": {
  "success": false,
  "completion": true,
  "score": {
    "scaled": 0.5,
    "max": 10,
    "raw": 5
  }
},
"context": {
  "platform": "MEXCBT",
  "language": "en",
  "extensions": {
    "https://mexcbt.mext.go.jp/deliveryId":
    "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045f5e345c32796458b2f60e7cedf2"
  },
  "contextActivities": {
    "grouping": [
      {
        "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622047cf0c83a3271d53c5b870b44b723"
      }
    ]
  }
},
"timestamp": "2022-03-03T04:45:10.092+00:00"
}
```

### verb: answered – タイプ 1 アイテムステートメント

```
{
  "version": "1.0.0",
  "id": "0d0e1dae-1110-4a7c-931d-dc0c41865f25",
  "actor": {
    "objectType": "Agent",
    "account": {
      "homePage": "https://example.platform.jp",
      "name": "63c5d550-6700-11ec-b362-ebfd340b9cee"
    }
  }
},
```

```
"verb": {
  "id": "http://adlnet.gov/expapi/verbs/answered",
  "display": {
    "en": "answered"
  }
},
"object": {
  "objectType": "Activity",
  "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i621f46c56690729067c4db309ff440e01",
  "definition": {
    "name": {
      "ja-jp": "隣り合う 4 枚の正三角形の真ん中の 1 枚をあ(全国学力調査 平成 29 年度中学 3 年
数学 B1(1) ig_h299mb-s01"
    },
    "description": {
      "en": "item-2.0, RESPONSE"
    },
    "type": "http://adlnet.gov/expapi/activities/cmi.interaction",
    "interactionType": "choice"
  }
},
"result": {
  "success": true,
  "duration": "PT1.8S",
  "completion": true,
  "extensions": {
    "https://mexcbt.mext.go.jp/scoringType": "auto"
  },
  "response": "choice_2",
  "score": {
    "scaled": 1,
    "max": 1,
    "raw": 1
  }
},
"context": {
  "platform": "MEXCBT",
  "language": "en",
  "extensions": {
```

```
"https://mexcbt.mext.go.jp/deliveryId":
"http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i621f471fd7ad72854e7fef35d5aff7343"
},
"contextActivities": {
"grouping": [
{
"id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i62204defe675629744da680e3b444f565"
}
]
}
},
"timestamp": "2022-03-03T05:11:15.355+00:00"
}
```

### verb: answered – タイプ 2 アイテムステートメント

```
{
"version": "1.0.0",
"id": "fe4bd9d9-cd48-46ef-9582-a2a0fea3ea39",
"actor": {
"objectType": "Agent",
"account": {
"homePage": "https://example.platform.jp",
"name": "1fcdd088-66fc-11ec-b362-ebfd340b9cee"
}
},
"verb": {
"id": "http://adlnet.gov/expapi/verbs/answered",
"display": {
"en": "answered"
}
},
"object": {
"objectType": "Activity",
"id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045e9b35ff31863602e0f0d3ced844",
"definition": {
"name": {
"ja-jp": "大問 1"
}
},
}
```

```
"description": {
"en": "A212000600022020246000020202000000.0"
},
"type": "http://adlnet.gov/expapi/activities/question"
}
},
"result": {
"duration": "PT0.54S",
"completion": true,
"extensions": {
"https://mexcbt.mext.go.jp/scoringType": "auto"
},
"score": {
"scaled": 0.1666666,
"max": 6,
"raw": 1
}
},
"context": {
"platform": "MEXCBT",
"language": "en",
"extensions": {
"https://mexcbt.mext.go.jp/deliveryId":
"http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045f5e345c32796458b2f60e7cedf2"
},
"contextActivities": {
"grouping": [
{
"id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622047cf0c83a3271d53c5b870b44b723"
}
]
}
},
"timestamp": "2022-03-03T04:45:08.067+00:00"
}
```

**verb: answered – タイプ 2 インタラクションステートメント**

```
{
```

```
"version": "1.0.0",
"id": "cab0d5f6-1f6e-4de3-b1de-4074d466280e",
"actor": {
  "objectType": "Agent",
  "account": {
    "homePage": "https://example.platform.jp",
    "name": "1fcdd088-66fc-11ec-b362-ebfd340b9cee"
  }
},
"verb": {
  "id": "http://adlnet.gov/expapi/verbs/answered",
  "display": {
    "en": "answered"
  }
},
"object": {
  "objectType": "Activity",
  "id": "http://cvt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045e9b35ff31863602e0f0d3ced844?
activity=Res_a420w014w02000000_04",
  "definition": {
    "name": {
      "ja-jp": "大問 1 "
    }
  },
  "description": {
    "en": "Res_a420w014w02000000_04"
  }
},
"type": "http://adlnet.gov/expapi/activities/cmi.interaction",
"interactionType": "fill-in"
}
},
"result": {
  "success": true,
  "response": "3"
},
"context": {
  "platform": "MEXCBT",
  "language": "en",
  "extensions": {
    "https://mexcbt.mext.go.jp/deliveryId":
```

```

"http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045f5e345c32796458b2f60e7cedf2"
},
"contextActivities": {
  "parent": [
    {
      "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045e9b35ff31863602e0f0d3ced844"
    }
  ],
  "grouping": [
    {
      "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622047cf0c83a3271d53c5b870b44b723"
    }
  ]
},
"timestamp": "2022-03-03T04:45:08.067+00:00"
}

```

### verb: viewed

```

{
  "version": "1.0.0",
  "id": "472a2eec-2f36-422c-a5ad-9c543a48f55c",
  "actor": {
    "objectType": "Agent",
    "account": {
      "homePage": "https://example.platform.jp",
      "name": "1fcdd088-66fc-11ec-b362-ebfd340b9cee"
    }
  },
  "verb": {
    "id": "http://id.tincanapi.com/verb/viewed",
    "display": {
      "en": "viewed"
    }
  },
  "object": {
    "objectType": "Activity",
    "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045ef6a76e3186d714ed2f8cd340f8",

```

```
"definition": {
  "name": {
    "ja-jp": "大問 2"
  },
  "type": "http://activitystrea.ms/schema/1.0/page"
},
"result": {
  "duration": "PT0.48S",
  "completion": true
},
"context": {
  "platform": "MEXCBT",
  "language": "en",
  "extensions": {
    "https://mexcbt.mext.go.jp/deliveryId":
    "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622045f5e345c32796458b2f60e7cedf2"
  },
  "contextActivities": {
    "grouping": [
      {
        "id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i622047cf0c83a3271d53c5b870b44b723"
      }
    ]
  }
},
"timestamp": "2022-03-03T04:45:08.852+00:00"
}
```

## 資料 9 : MEXCBT 問題メタ情報 API データサンプル

```
{
  "delivery_id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i63a3def6c427e143988a660796aee39a09",
  "test_id": "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i63a3dec43a555144011b80c0a61a2d693c",
  "q_content_id": "i63968829de9593071a6007d426fdb2459",
  "q_work_manage_id": "nyumon",
  "q_publisher_cd": "100000",
  "q_publisher_name": "文部科学省",
  "q_test_type_id": "10000010000",
  "q_test_type_name": "文部科学省_入門問題",
  "q_issue_year": "2022",
  "q_subject_id": "99",
  "q_subject_name": "各教科（共通）",
  "q_subject_child_id": "",
  "q_subject_child_name": "",
  "q_school_stage_id": "99",
  "q_school_stage_name": "共通",
  "q_grade_id": "99",
  "q_grade_name": "共通",
  "q_exec_count": "2",
  "q_content_title": "入門問題_児童生徒向け",
  "q_scoring_type": "0",
  "q_difficulty": "中",
  "q_test_time_min": 30,
  "q_average_score": 50.5,
  "q_goal_score": 50.0,
  "q_type_kbn_cd": "1",
  "q_type_kbn_name": "複数問題形式",
  "q_level_id": "010",
  "q_level_name": "1級",
  "q_perfect_score": "20",
  "q_item_count": "2",
  "q_reserve_meta_1": "予備1（備考）",
  "q_reserve_meta_2": "",
  "q_reserve_meta_3": "予備3",
  "q_reserve_meta_4": "予備4",
  "q_reserve_meta_5": "予備5",
}
```

```
"q_reserve_meta_6": "予備6",
"q_movie_voice_check": "0",
"q_speaking_check": "0",
"q_create_user_display": "g9999",
"q_open_date_display": "2022/12/19 14:24:28",
"q_update_date_display": "2022/12/19 14:24:28",
"item_meta_list": [
  {
    "item_id":
"http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i63a3decd990b4144013d38b56c952f92ce",
    "i_content_id": "i633676438488136840698a4c20e3d8c01",
    "i_work_manage_id": "nyumon_01",
    "i_publisher_cd": "100000",
    "i_publisher_name": "文部科学省",
    "i_test_type_id": "10000010000",
    "i_test_type_name": "文部科学省_入門問題",
    "i_issue_year": "2022",
    "i_subject_id": "99",
    "i_subject_name": "各教科（共通）",
    "i_subject_child_id": "",
    "i_subject_child_name": "",
    "i_school_stage_id": "99",
    "i_school_stage_name": "共通",
    "i_grade_id": "99",
    "i_grade_name": "共通",
    "i_exec_count": "2",
    "i_content_title": "練習問題 1",
    "i_translation_cd_1": "8350731111000000",
    "i_translation_cd_2": "8350731111000001",
    "i_translation_cd_3": "8350731111000002",
    "i_translation_cd_4": "8350731111000003",
    "i_translation_cd_5": "8350731111000004",
    "i_translation_cd_6": "8350731111000005",
    "i_translation_cd_7": "8350731111000006",
    "i_translation_cd_8": "8350731111000007",
    "i_translation_cd_9": "8350731111000008",
    "i_scoring_type": "0",
    "i_difficulty": "高",
    "i_test_time_min": 5,
```

```
"i_average_score": 60.4,
  "i_goal_score": 60.0,
  "i_level_id": "010",
  "i_level_name": "1級",
  "i_perfect_score": "10",
  "i_reserve_meta_1": "1",
  "i_reserve_meta_2": "問題タイトル アイテム名",
  "i_reserve_meta_3": "予備3 ",
  "i_reserve_meta_4": "予備4 ",
  "i_reserve_meta_5": "予備5 ",
  "i_reserve_meta_6": "予備6 ",
  "i_movie_voice_check": "0",
  "i_speaking_check": "1",
  "i_create_user_display": "g9999",
  "i_open_date_display": "2022/12/19 14:24:28",
  "i_update_date_display": "2022/12/19 14:24:28",
  "interaction_meta_list": [
    {
      "interaction_id": "Res_a354w033w01000000_01",
      "interaction_type": "extendedTextInteraction"
    },
    {
      "interaction_id": "Res_a354w033w01000000_02",
      "interaction_type": "extendedTextInteraction"
    },
    {
      "interaction_id": "Res_a354w033w01000000_03",
      "interaction_type": "extendedTextInteraction"
    }
  ]
},
{
  "item_id":
  "http://cbt.mexcbt.mext.go.jp/tao.rdf#i63a3ded218a0314401740f8a571c5790db",
  "i_content_id": "i62e101ede7bf6289030cbb1656f855f44",
  "i_work_manage_id": "nyumon_02",
  "i_publisher_cd": "100000",
  "i_publisher_name": "文部科学省",
  "i_test_type_id": "10000010000",
```

"i\_test\_type\_name": "文部科学省\_入門問題",  
"i\_issue\_year": "2022",  
"i\_subject\_id": "99",  
"i\_subject\_name": "各教科 (共通) ",  
"i\_subject\_child\_id": "",  
"i\_subject\_child\_name": "",  
"i\_school\_stage\_id": "99",  
"i\_school\_stage\_name": "共通",  
"i\_grade\_id": "99",  
"i\_grade\_name": "共通",  
"i\_exec\_count": "2",  
"i\_content\_title": "練習問題 2 ",  
"i\_translation\_cd\_1": "8350731112000000",  
"i\_translation\_cd\_2": "8350731112000001",  
"i\_translation\_cd\_3": "8350731112000002",  
"i\_translation\_cd\_4": "8350731112000003",  
"i\_translation\_cd\_5": "8350731112000004",  
"i\_translation\_cd\_6": "8350731112000005",  
"i\_translation\_cd\_7": "8350731112000006",  
"i\_translation\_cd\_8": "8350731112000007",  
"i\_translation\_cd\_9": "8350731112000008",  
"i\_scoring\_type": "1",  
"i\_difficulty": "高",  
"i\_test\_time\_min": 10,  
"i\_average\_score": 32.4,  
"i\_goal\_score": 30.0,  
"i\_level\_id": "010",  
"i\_level\_name": "1級",  
"i\_perfect\_score": "10",  
"i\_reserve\_meta\_1": "予備 1 ",  
"i\_reserve\_meta\_2": "予備 2 ",  
"i\_reserve\_meta\_3": "予備 3 ",  
"i\_reserve\_meta\_4": "予備 4 ",  
"i\_reserve\_meta\_5": "予備 5 ",  
"i\_reserve\_meta\_6": "予備 6 ",  
"i\_movie\_voice\_check": "0",  
"i\_speaking\_check": "1",  
"i\_create\_user\_display": "g9999",  
"i\_open\_date\_display": "2022/12/19 14:24:29",

```
        "i_update_date_display": "2022/12/19 14:24:29",
        "interaction_meta_list": []
    }
],
"delivery_range_cd": "0",
"school_list": [
    {
        "school_id": " B148210000013",
        "school_name": "〇〇市立中央小学校"
    }
]
}
```

**別添**

## 学習 e ポータルを変更する場合の手順等や留意すべき点

※文部科学省から学習 e ポータル事業者へのヒアリングにより作成

民間学習 e ポータルのサービスを終了する事業者の事例を参考に、学習 e ポータルを変更する場合の手順等や留意すべき点について、参考情報として、以下の通りまとめる。なお、本資料は一社からのヒアリングにより作成したものであり、そのことにも留意して参考にすることが望ましい。

## 1. 手順等

### (1) 移行を行うデータ及びそれぞれの手順等について

初等中等教育におけるシステム間連携のための相互運用標準モデル(以下「本モデル」という。)では、MEXCBT をはじめとするさまざまな学習ツールで記録された、xAPI 形式で標準化されたスタディ・ログを蓄積する役割を担うLRSについて、独立システムとしてのLRSと、LMS(学習 e ポータルが相当)に組み込まれるLRSの2種類があるが、今回の資料では、学習 e ポータルに組み込まれている場合の手順等について記述する。

本モデルにおいて、スタディ・ログの記述は xAPI フォーマットによることとされ、また、学習者を識別する属性として UUID があると規定されている。

これらの規定により、本モデルに準拠した学習 e ポータル同士での移行においては、①xAPI フォーマットによるスタディ・ログファイルと、②UUID を移行すれば良いものとなっている<sup>16</sup>。

#### ① スタディ・ログファイルの移行

変更前事業者である学習 e ポータル事業者(以下「変更前事業者」という。)は、スタディ・ログファイルを自治体に引き渡す。自治体に変更後事業者である学習 e ポータル事業者(以下「変更後事業者」という。)に提供等することで、変更後事業者の学習 e ポータルへスタディ・ログファイルの取込みが行われる。なお、スタディ・ログファイルは、本モデルにおいて xAPI フォーマットによることとされており、各学習 e ポータル共通に扱えるログファイルとなっているため、移行途中での変換等の処理は不要である。

#### ② UUID の移行

本モデルにおいて、学習者の属性情報の管理は学習 e ポータルの責務と位置付けられており、学習 e ポータルは、UUID を用いて所属・属性情報との紐付けを行っている。なお、UUID の移行は、(2)②の中で記載する。UUID は、本モデルにおいて生成方法等を規定しており、各学習 e ポータル共通に扱える学習者 ID となっているため、移行途中での変換等の処理は不要である。

### (2) 前提となる環境やデジタル学習環境の移行の手順等について

(1)のデータ移行の前提となるアカウント等の移行とともに、本モデルに記載されているデジタル学習環境で想定された MEXCBT、学習ツール、OS との連携が行われており、次図の手順による作業が必要となる。

<sup>16</sup> スタディ・ログの可視化、分析においては、スタディ・ログと合わせて問題メタデータが必要となる。この点、本モデルにおいて MEXCBT 問題メタデータ取得のための API 仕様が規定されており、変更後事業者である学習 e ポータルは、スタディ・ログで受け取ったコンテンツ ID を問題メタ情報 API に渡すことで、問題搭載者がその問題コンテンツに付与したメタ情報を取得できるため、MEXCBT 問題メタデータの移行は不要である。

作業項目	主に自治体等	主に変更前事業者	主に変更後事業者
① 変更後事業者による提供開始	— (変更後事業者に委託等)	—	○
② アカウント移行	○	○	△
③ MEXCBT 連携切替え	○	—	—
④ 学習ツール連携切替え	○	—	○
⑤ シングルサインオン連携切替え	○	○	○
⑥ その他(各種設定)	○	—	○
⑦ 変更前事業者による提供停止	—	○	—

#### ① 変更後事業者による提供開始

自治体等と変更後事業者との契約等に基づき、変更後事業者が自治体等向けにサービスを提供するに際しての初期設定を行うなど提供開始する。

#### ② アカウント移行

変更前事業者が、アカウント情報を自治体等に引き渡し。自治体等が変更後事業者の学習eポータルに登録、もしくは、変更後事業者にアカウント情報を提供等して、変更後事業者が変更後事業者の学習eポータルに登録することで、アカウントの移行が行われる。

このアカウント情報には、氏名、学校、学年、所属クラスといった児童生徒と、それに紐づくUUIDを含んでおり、(1)で記載したUUIDの移行がこの中で行われる。

#### ③ MEXCBT 連携切替え

自治体等が MEXCBT 運用支援サイトにて、変更前事業者の学習eポータルの MEXCBT 連携解除および変更後事業者の学習eポータルの MEXCBT 連携申込みを行うことで MEXCBT 連携が変更後事業者の学習 e ポータルに切替えられる。

#### ④ 学習ツール連携切替え

変更前事業者と各学習ツール事業者がそれぞれ連携解除を行い、自治体等の意向に基づき、変更後事業者と各学習ツール事業者がそれぞれ連携設定を行う。②により変更前事業者の学習eポータルで利用していた UUID が変更後事業者の学習eポータルに移行されることから、変更後事業者の学習eポータルと学習ツールの連携設定により、移行前の UUID をそのまま利用して、既存データも利用可能となる。ただし、学習ツールのシステム構成等によっては標準の連携に加えて、追加のデータ連携設定や、既存データを引き継ぐための学習ツール内での ID 切替え作業等が発生する場合がある。

#### ⑤ シングルサインオン連携切替え

OS 提供事業者が提供するユーザー認証機能との間のシングルサインオンについても、自治体等が管理ポータルにて、変更前事業者の学習eポータルのシングルサインオン連携解除を行い、変更後事業者にシングルサインオン連携の申請を行うとともに、学習eポータルとのシングルサインオン連携設定を行う。

## ⑥ その他(各種設定)

自治体等もしくはその意向等を受けた変更後事業者が学習eポータル内のアイコン表示設定や URL リンク等の各種設定、また、自治体等ネットワークのフィルタリングソフトの設定等を行う。

## ⑦ 変更前事業者による提供停止

変更前事業者は契約等を終了し、学習eポータルのサービスの提供を停止し、データを消去する。

## 2. 留意すべき点

### (1) 移行スケジュール

全国学力・学習状況調査等を含めた自治体等の MEXCBT の利用予定や、年次更新、休業日等の予定、さらに、変更後事業者の学習eポータルに対する導入研修期間等を考慮して、移行スケジュールを検討、調整することが必要である。

### (2) アカウント移行関係

#### ① パスワード

パスワードは、基本的には学習eポータルがセキュリティ対策として hash 値を保持しており、平文保持は行っていない。そのため、原則として、学習eポータルの移行時には、パスワードは新規登録が必要となる。

#### ② ログイン ID

学習eポータルにより、ログイン ID のユニーク範囲(\*)が異なり、文字数も異なる。そのため、狭いユニーク範囲から広いユニーク範囲への移行時にはログイン ID の変更が必要であり、文字数も増えることとなる。

(\*)ログイン ID の一意性を担保する範囲。例えば、教育委員会をユニーク範囲とする場合には、ログイン ID は教育委員会内で一意となり桁数が多くなる、一方で、クラスをユニーク範囲とする場合にはログイン ID はクラス内で一意となり桁数は最低2ケタとすることも可能となる。

#### ③ 属性情報の登録条件

学習 e ポータルにより、“学年”、“クラス(=ホームルーム)”などの属性情報の登録条件(必須/任意の別)が異なり、任意とする学習eポータルから必須とする学習eポータルへ移行する場合に、登録されていない属性情報を埋める作業が必要となる可能性がある。

#### ④ 属性のスキーマ

学習 e ポータルにより、名前に関する属性情報(=“表示名”、“姓”、“名”、“姓名”、“ふりがな”、“フリガナ”等)、“クラスコード”などの属性のスキーマ(属性のあり/なしの別)が異なる。例えば、変更前事業者の学習eポータルでは名前の属性情報として1つの属性情報“姓名”となっているが、変更後事業者の学習eポータルでは名前の属性情報として2つの属性“姓”、“名”と異なる属性のスキーマとなっている場合、移行時に変換作業を行うか、新規登録が必要となる。

#### ⑤ 属性値の入力規則

“クラス”の値は、文字列となっているが、入力規則が明確でない場合<sup>17</sup>もあり、“年”や“組”を入れるか入れないかの揺れが生じる可能性がある。

### (3) MEXCBT における同一性の認証

スタディ・ログ、UUID のデータを移行しても、MEXCBT との関係では、変更前事業者の学習 e ポータルからのアクセスと変更後事業者の学習 e ポータルからのアクセスは別のもので識別される。そのため、例えば、受検済みテストの解答レビューなど、変更前事業者の学習 e ポータルからのアクセスを前提として MEXCBT の中に作成、蓄積されたデータには、変更後事業者の学習 e ポータルからアクセスすることができない。

### (4) 契約等の手続き

1. を実施する際に変更前事業者、変更後事業者、学習ツール事業者等に作業が発生することに伴う費用負担についても、自治体等が行う契約等において留意が必要である。

データの引き渡しに関する手順、方法等についても、併せて検討することが重要と考える。

以上

---

<sup>17</sup> 文部科学省「教育データ標準 4.0」(主体情報)では、児童生徒の属性として、学級区分、学級名があり、学級名のデータ型は文字列となっているが、サンプル値については例として“うさぎ組”、“2年1組”が掲載されている。